行ニ附隨シテ會計事務ノ存スルハ當然ナリト謂フベシ

第一節　會計總則

本府ノ會計ニ關シテハ煙草專賣實施前本府特別會計トシテ既ニ夫々備ハレリ而シテ專賣ニ關スル會計ハ會計統合ノ原則ニ則リ特ニ作業會計ト爲サズ本府ノ一般會計ニ包含セシムルコトト爲シタルヲ以テ專賣ニ關スル會計モ亦本府一般會計同樣會計法、會計規則、明治四十三年勅令第四百六號本府特別會計規則及物品會計規則其ノ他一般關係法規ニ依リ執行スルモノトス

第一款　會計制度

本府ノ會計ハ前述ノ如ク特別會計トセラレタリ而シテ內地ニ於テハ葉煙草專賣ヲ施行シタル際ハ資金會計制度ヲ設置シ耕作者ノ收穫シタル葉煙草ヲ收納シテ一定ノ賠償金ヲ與ヘ之ヲ賣渡シ其ノ賣渡代金ノ內ヨリ支拂タル賠償金ヲ控除シ其ノ差額ヲ一般歲入ニ編入シタリシガ此ノ制度ヲ以テシテハ專賣ヨリ生ズル純益ハ之ヲ知悉スルニ由ナキモ專賣制度ノ草創ニ際シ準備未ダ成ラズ暫行的ニ特別會計ノ部分ヲ葉煙草賠償金ノ收支ニノミ止メタルガ實施後漸ク準備成ルニ及ンデ明治三十三年度ヨリ作業會計ト爲シ事業經營ノ爲ニ固定及運轉ノ兩資本ヲ置キ作業上ノ收入ヲ以テ作業上ノ經費ニ充テ職員ノ俸給其ノ他一切ノ經費ヲ總テ作業會計ノ負擔ト爲シ固定資本ノ維持、修理及補充ヲモ特別會計ノ歲入ヲ以テ支辨シ結局作業ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣却代金ノミヲ一般歲入ニ編入スルコトトセラレタルガ朝鮮ニ於ケル專賣ニ關スル會計ハ內地ニ於ケル專賣ニ關スル會計ト尤大ナラザルト若內地ノ如ク專賣ニ關スル會計ヲ特別會計ト爲ストキハ既ニ本府會計モ特別會計ト爲リ居リ豫算ノ編成其ノ他ニ於テ甚ダ複雜ト爲ルノミナラズ之ガ爲特ニ据置運轉資本ヲ設置セザルベカラズ又一方ニ於テハ之ヲ作業會計ト爲シ獨立セシムルトキハ本府ニ於ケル一般會計ト歲入歲出ヲ彼此融通スルコトヲ得ザルコトト爲ルノミナラズ專賣益金ハ年度末ニ於テ收支計算ヲ爲シタル後ニ非ザレバ其ノ益金ヲ一般歲入ニ編入スルコト能ハザルコトト爲ル元來朝鮮ニ於ケル專賣益金ハ財政上重要ノ地位ヲ占メ居リ斯テハ一般財政運用上支障ヲ來ス虞ナキ能ハズシテ却テ不便ナリ加之中央政府ニ於テハ會計法上ノ原則ニ則リ可成特別會計ヲ設置セザル方針ナリシヲ以テ旁內地トハ其ノ制度ヲ異ニシ專賣ニ關スル會計モ本府ニ於ケル一般會計ニ包含セシメ特ニ作業會計トシ

掌セシメ各事業製品ノ販賣代金、官有物拂下代竝官有物貸下料等ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外日本銀行代理店所在地ニ在リテハ該代理店ニ又該代理店所在地外ニ在リテハ郵便局所ヲシテ收納セシムルコトトシ懲罰及沒收金又ハ雜入金ノ如キ歲入金ニシテ口頭告知ニ依ル卽時收納ヲ爲ス爲各廳ニ收府官吏ヲ設置セリ

然ルニ昭和六年七月ヨリ煙草販賣制度ヲ改正シ配給ヲ政府ノ直營ト爲シタル結果新ニ設置セル販賣所ニ於テ煙草賣渡代金ノ收納ヲ爲サザルベカラザルコトト爲リタルヲ以テ該販賣所ニ其ノ直屬監督廳タル支局又ハ出張所ノ收入官吏ヲ置キ販賣所長ヲ以テ之ニ充テ且巡回シテ煙草ノ賣渡ヲ爲ス配給員ニハ日々少カラザル金品ノ出納ヲ爲サシメザルベカラザルガ故ニ會計規則第百二十七條第二項ノ規定ニ基キ昭和六年一月大藏大臣トノ協議方手續ヲ執リ同年七月本府會計事務章程第十三條ヲ改正セラレ販賣所開廳ニ伴ヒ各配給員ヲシテ其ノ所分任收入官吏所屬ノ現金出納員ト爲シ煙草賣渡代金ノ收納ヲ掌ラシムルコトトセリ

歲出ニ關シテハ本局及各支局ノ長ヲ以テ其ノ廳及所轄出張所經費ノ支出官ト爲シタルガ出張所經費ノ支拂ニ付テハ會計ノ本則ヨリスレバ固ヨリ支出官直接拂ト爲スベキモノナリト雖現地支拂ヲ絕對必要トスルモノ少カラザルノミナラズ其ノ然ラザルモノニ在リテモ大小幾多ノ經費ノ支拂ヲ一切本局又ハ支局支出官扱ト爲スコトハ自然支拂ヲ遷延スルノミナラズ甚ダ繁瑣トナルヲ以テ會計法第十七條、會計規則第五十七條第一項第六號ニ基キ本府會計事務章程第八條ノ改正ヲ求メ各出張所ニ資金前渡官吏ヲ設置シ俸給ハ支出官直接拂ト爲シ其ノ他ノ經費ハ前渡官吏ヲシテ支拂ヲ爲サシムルコトニ改メタリ

尙販賣所ノ經費ノ支拂ニ付テハ事業上ノ便否ヨリ考フルトキハ勿論出納機關ノ設置ヲ理想トスベキモ元來販賣所ノ經費ハ其ノ經費總額比較的少額ニシテ且常例的ナルヲ以テ次章第二節第十一款ニ述ブルガ如ク廳費及雜費ハ渡切制度ト爲シ其ノ他ノ所要經費ハ直屬監督廳タル支局又ハ出張所ノ支拂機關ヲシテ直接處理セシムル制度ト爲シタリ

然レドモ販賣所ニ於テ物件ノ購入、官有物ノ修繕又ハ緊急支拂ヲ要スル場合ニ之ヲ悉ク監督廳ヲシテ處理セシムルハ甚ダ煩雜ナルヲ以テ總督ノ認可ヲ受ケ豫メ必要經費ノ豫算ヲ內示シ其ノ範圍內ニ於テ所長限リ契約ノ專行ヲ爲シ得ルノ途ヲ開ケリ而シテ一廉五十圓以內ノ限度ヲ設ケ右限度以上ハ上級廳ノ指揮ヲ受ケシムルコトトシタリ

物品會計ニ關シテハ本局及支局ハ庶務課長、工場又ハ出張所等ハ其ノ長ヲ以テ出納命令官トシ其ノ實行機關トシテ物品會計規則第四條、第五條及會計事務章程第九條ニ基キ物品會計官吏ヲ設置シタル外本局印刷工場ニハ特ニ物品會計官吏ヲ置キ又支局ニハ普通物品及材料品ノ外ニ葉煙草及製造煙草ニ對スル出納事務ノ分量少カラザルガ故ニ別ニ物品會計官吏ヲ特設セリ尙支局又ハ出張所ノ工場ニハ取扱ノ簡捷上物品取扱主任ヲ置キ其ノ多クハ各作業主任ヲ以テ之ニ充テタリ

爲サシムルコトトセリ尤モ葉煙草收納ノ如キ收納官署所在地ニ於テ同一時期ニ數組ノ收納班ガ多額ノ現金保管及支拂ヲ爲ス爲ノ危險ヲ悉ク一人ノ資金前渡官吏ニ負擔セシムルハ苛酷ニ失シ實情ニ適セザルガ故ニ昭和四年四月以降右ノ如キ場合ニハ資金前渡官吏ノ分任官ヲ任命シ責任ヲ分擔セシムルコトニ改メタリ

販賣ヲ管掌スル出張所ニハ煙草配給直營ト共ニ會計販賣兩係ノ配置人員等ニ鑑ミ販賣係ニモ亦別ニ製造煙草ヲ取扱フ物品會計官吏ヲ置カシメ販賣所ニハ支局又ハ出張所物品會計官吏所屬ノ分任官ヲ設ケ販賣所長ヲシテ之ニ充テ配給員ニハ歲入ト同樣物品會計規則第五條ノ二、第五條ノ三及會計事務章程第十三條ニ依リ分任物品會計官吏所屬ノ出納員ヲ命ジ各其ノ責任ヲ分擔セシムルコトトセリ

第二款　法規

本府會計ハ前述ノ如ク明治四十三年勅令第四百六號ヲ以テ一般會計ト分離シテ特別會計トセラレタリ之ガ特別會計設置ト同時ニ勅令第四百十二號ヲ以テ會計法ヲ朝鮮ニ施行スルコトト爲リ尙同年勅令第四百七號ヲ以テ本府特別會計規則發布セラレ本規則ニ規定セザルモノハ一般會計規則ニ依ルベキ旨定メラレタリ之本府會計ニ關スル法規ノ根據ナリ

大正十年七月ヨリ朝鮮ニ於テモ煙草ノ專賣ヲ施行スルコトト爲リタルモ前款述ブルガ如ク專賣ニ關スル會計モ亦本府特別會計ノ一部ト爲シ總テ右法規ニ依據スルコトトナリタリ今此等ノ法規ヲ揭グレバ左ノ如シ

朝鮮ニ施行スル法律ニ關スル件（勅令第四百十二號）（大正十年九月）

左ニ揭ク法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

一　會計法

（以下省略）

會計法中拔萃（法律第四二號）（大正十年四月）

第一章　總則

第一條　政府ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條　租稅其ノ他ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條　每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條　政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條（省略）

第二章　豫算

第七條　歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條　歲入歲出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一　歲入豫算明細書

二　各會ノ豫定經費要求書但シ各項中各自ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條　豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第五編　會計　第一章　會計

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條　豫備金ヲ以テ支拂シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ帝會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條　政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ亙ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ每年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ亙ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ每年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　收入

第十二條　租稅其ノ他ノ歲入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四章　支出

第十三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ腾スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條　國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘキ金額ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲシテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

ヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條　國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條（省略）

第十九條　國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歲入金、歲出金又ハ歲入歲出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補塡スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第二十條　國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限リ前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章　決算

第二十三條乃至第二十五條（省略）

第六章　歲計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條　各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第二十七條　豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度內ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遲延シ年度內ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ每年度ノ支出殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條　過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經

費所屬年度ノ每項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルルコトヲ得ス

第三十條　出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歲出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章　契約

第三十一條　政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ

國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動產賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章　時效

第三十二條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時效ノ中斷停止其ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條　法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス收入ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ掏ラス時效中斷ノ效力ヲ有ス

第九章　出納官吏

第三十五條　出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第三十六條　出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條　國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章　雜則

第三十九條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ、特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條　政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條（省略）

附則（省略）

會計規則中拔萃（勅令第一一號　大正十一年一月　改正昭和七年六月勅令第一〇〇號　昭和八年十二月勅令第三三〇號）

第一章　總則

第一節　會計年度所屬區分

第一條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期來日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條　歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂明日ノ屬スル年度

二　諸拂戻金、缺損補塡金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

三　俸給、給料、手當、旅費、手數料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

四　使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度

五　工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度

六　前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節　國庫金ノ出納

第三條　日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條　政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノニ限リ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條　毎年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ揭クル場合ニ於テハ翌年五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

一　出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歲入金ノ拂込アリタルトキ

二　市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ

三　國庫内ニ於テ移換ニ依ル歲入金ノ受入ヲ爲ストキ

毎年度所屬歲出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章　豫算

第一節　總豫算

第六條　大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歲出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歲計全體ニ關スル說明ヲ附スヘシ

第七條　歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條　歲出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條　歲入歲出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節　歲入豫算明細書

第十條　大藏大臣ハ每年度歲入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歲入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歲入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項毎ニ增減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節　豫定經費要求書

第十一條　各省大臣ハ每年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條　各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條　各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル說明及各款各項ノ說明ヲ附スヘシ

第四節　支拂豫算

第十四條　各省大臣ハ每年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官每ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計檢查院ニ送付スヘシ

支拂豫算ハ各款項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條　支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計檢查院ニ送付スヘシ

第十六條　大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節　豫備金支出

第十七條　豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條　第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ每年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條　大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第二十一條　各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條　大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條　第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ

會計檢査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條　第一豫備金ヲ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ說明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條　第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ說明ヲ附シ每年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節　翌年度ニ亙ル契約

第二十六條　各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ亙ル契約ヲ爲ス必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條　大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三章　收　入

第一節　徵　收

第二十八條　歲入徵收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ

但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

歲入徵收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徵收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條　支出濟ト爲リタル歲出ノ返納金ヲ歲入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歲入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條　歲入徵收官租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歲入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條　歲入徵收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納入ニ對シ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ卽納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第二節　收　納

第三十三條　出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歲入金ヲ收納シタルトキハ領收書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十四條　出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條　日本銀行ニ於テ歲入金ヲ收納シ又ハ歲入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條　每年度所屬歲入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節　報　告

第三十七條　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ歲入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條　歲入事務管理廳ハ徵收報告書ニ依リ每月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章　支　出

第一節　總　則

第三十九條　勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ヲ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第四十條　豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條　各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條　支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條　本章ノ規定ハ小切手法ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第二節　小切手ノ振出

第四十四條　支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算出シ且該經費ハ支出豫算額ニ超過スルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條　支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條　小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條　支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

第四十八條　支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條　每年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節　支　拂

第五十一條　小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條　日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　每年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レ之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條　前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條　支出官小切手ノ所持人ヨリ價還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ價還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節　資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條　會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムルノ爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ揭クル經費ニ限ル

一　陸軍ノ軍隊、學校及病院竝海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費

二　陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費

三　陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生產者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費

四　官船ニ屬スル經費

五　外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

六　運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

七　廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

八　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

九　各廳直營ノ工事製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス
十　監獄作業賞與金
十一　囚人及刑事被告人押送費
十二　證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與
第五十八條　前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル
一　常時ノ費用ニ係ルモノハ毎一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得
二　隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限リ成ルヘク分割シテ交付スヘシ
第五十九條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
一　軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價
二　外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價
三　朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徵兵旅費
四　運賃
五　外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課
六　政府ノ買收又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料
七　官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
八　外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與
九　交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乘組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
十　軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費
十一　外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
十二　補助金
十三　謝金
第六十條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
一　旅費
二　官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
三　補助金又ハ補給金
第六十一條　會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ揭クル官署ノ經費ニ限ル
一　在外各廳
二　遞信官署
三　區裁判所出張所
四　朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署
前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節　繰替拂

第六十二條　各省大臣ハ左ニ揭クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ揭クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル
一　旅費
二　埋葬費
三　在外公館ニ於ケル雜民貸與金
四　海軍省所管艦船經費
第六十三條　所管大臣ハ左ニ揭クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歲入金、歲出金及歲入歲出外現金

ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一　鐵道官署

二　遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節　年度開始前支出

第六十四條　各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條　前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ

大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受クルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節　報告

第六十六條　支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條　所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章　決算

第一節　總決算

第六十八條　歲入歲出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第六十九條　大藏大臣ハ總決算ニ歲入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計檢査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節　歲入決算明細書、各省決算報告書及收入、支出計算書

第七十條　歲入決算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歲入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫算ニ對スル增減ノ事由ヲ說明スヘシ

第七十一條　歲入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歲入額ニ付豫算ニ對スル增減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條　各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條　歲入徵收官ハ會計檢査院ニ證明ノ爲歲入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七十四條　支出官ハ會計檢査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七十五條　前二條ノ計算書ハ歲入事務管理廳又ハ所管大臣ニ於リ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第七十六條及第七十七條(省略)

第六章　定額繰越及定額戻入

第一節　定額繰越

第七十八條　各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

繰越計算書ハ歲出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ揭クル事項ヲ示スヘシ

一　繰越ヲ要スル項ノ定額

二　定額中支出濟ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額

三　定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額

四　定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條　會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除カノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添附スヘシ

第八十條（省略）

第二節　定額戻入

第八十一條乃至第八十四條（省略）

第七章　契約

第一節　總則

第八十五條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條　契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條　各省大臣ハ左ニ揭ケル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一　三千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二　外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三　賣買ニ付スルトキ

四　物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五　第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條　政府ト契約ヲ結ブムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條　契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條　政府ニ屬スル財產ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登錄前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條　財產ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ渉ルモノニ付テハ每年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條　各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ檢查シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ檢查ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ調定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條　前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條　前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條　本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節　一般競爭契約

第九十六條　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條　各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競爭ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一　契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雜ニシ又ハ算ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

二　競爭ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下タル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

三　競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

四　檢查監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

五　正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者

六　前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシ

テ使用スル者

第九十八條　各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者テ入札代理人トシテ使用スル者テ競爭ニ加ラシメルコトテ得

第九十九條　競爭ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債テ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金テ納ムヘシ

第百條　競落者契約テ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第百一條　競爭ハ第百九條ニ規定スル場合テ除クノ外總テ入札ノ方法テ以テ之テ行フヘシ

第百二條　入札ノ方法ニ依リ競爭ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法テ以テ公告スヘシ但シ急テ要スル場合ニ於テハ其ノ期間テ五日迄ニ短縮スルコトテ得

第百三條　前條ノ公告ニハ左ニ揭クル事項テ示スヘシ

一　競爭入札ニ付スル事項

二　契約條項テ示ス場所

三　競爭執行ノ場所及日時

四　入札ノ保證金額

第百四條　各省大臣又ハ其ノ委任テ受ケタル官吏ハ其ノ競爭入札ニ付スル事項ノ價格テ豫定シ其ノ豫定價格テ封書ト シ開札ノトキ之テ開札場所ニ置クヘシ

第百五條　開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之テ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏テシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消テ爲スコトテ得ス

競爭加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無效トス

第百六條　開札ノ場合ニ於テ各入ノ入札中第百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札テ爲サシムルコトテ得

第百七條　落札ト爲ルヘキ同價ノ入札テ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤テ以テ落札者テ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤テ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏テシテ之ニ代リ抽籤テ爲サシムヘシ

第百八條　入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約テ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第百二條ノ期間ハ五日迄ニ之テ短縮スルコトテ得

第百九條　各省大臣動產ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ競賣ニ付スルコトテ得

第三節　指名競爭契約

第百十條　會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ揭クル場合ニ於テハ指名競爭ニ付スルコトテ得

一　契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競爭ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競爭ニ付スルノ必要ナキトキ

二　一萬圓テ超エサル工事若ハ製造テ爲サシメ又ハ五千圓テ超エサル財產ノ買入テ爲スヘキトキ

三　賃借料年額又ハ總額三千圓テ超エサル物件ノ借入テ爲ストキ

四　豫定賃貸料年額又ハ總額千圓テ超エサル物件ノ貸付テ爲ストキ

五　豫定代價二千圓テ超エサル財產ノ賣拂テ爲ストキ

六　前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓テ超エサルトキ

隨意契約ニ依ルコトテ得ヘキ場合ニ於テハ指名競爭ニ付スルコトテ妨ケス

第百十一條　指名競爭ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者テ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第百三條ニ規定シタル事項テ各入札者ニ通知スヘシ

第百十二條　各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競爭ニ付シテ契約テ結ヒタルトキハ事由テ詳具シ直ニ之テ會計檢查院ニ通知スヘシ

第百十三條　第九十七條乃至第百一條、第百四條乃至第百七條ノ規定ハ指名競爭契約ノ場合ニ之テ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之テ免除スルコトテ得

第四節　隨意契約

第百十四條　會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ揭クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトテ得

一　契約ノ性質又ハ目的カ競爭ヲ許ササルトキ
二　急迫ノ際競爭ニ付スルノ暇ナキトキ
三　政府ノ行爲ヲ祕密ニスルノ必要アルトキ
四　五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
五　貸借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
六　豫定貸貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
七　豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
八　前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ
九　勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ
十　運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ
十一　官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ
十二　農工場、學校、試驗所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生產又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ
十三　法律勅令ノ規定ニ依リ財產ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財產ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
十四　非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生產ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ
十五　外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ
十六　道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、產業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル救育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
十七　移住地域內ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ
十八　學術又ハ技藝ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
十九　產業又ハ拓殖事業ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生產者ヨリ直接ニ其ノ生產若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ
二十　公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十一　土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
二十二　事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲ストキ
二十三　法律勅令ノ規定ニ依リ同業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣ニ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第百十五條　競爭ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競爭ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條　落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限內ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初競爭ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十七條　前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限リ該價格又ハ金額ノ制限內ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十八條　隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徵スヘシ

第百十九條　各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第八章　保管金及有價證券

第百二十條　政府ハ法律勅令ノ規定ニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セス

第百二十一條　政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第百二十二條　政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシムルノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第百二十三條　政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別

第九章　出納官吏

第一節　總　則

第百二十四條　出本令ニ於テ出納官吏ハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第百二十五條　各省出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百二十六條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ分掌ヲ定ムルニハ会計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官吏ノ一部ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

一　陸海軍官吏

二　憲兵隊官吏

三　在外官吏

第百二十七條　所管大臣ハ会計ノ必要ニ応シ分掌ノ全部又ハ一部ヲ代理セシムル為分任官ヲ命スルコトヲ得

第百二十八條　前條ノ出納官吏ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理スル官吏ヲ定メ置クヘシ

第百二十九條　出納官吏又ハ出納員ノ現金ノ出納保管ニ関スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル官吏ハ其ノ命セラレタル範囲ニ於テ各省大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ関スル事務ヲ掌ル

第百三十條　出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行為ニ因リ生セシメタル損失ニ付会計検査院ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ弁償ノ責ニ任ス

第百三十一條　出納官吏又ハ出納員ニ属スル現金ノ出納保管ニ関スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル官吏ハ其ノ命セラレタル範囲ニ於テ出納官吏又ハ出納員ノ為ス行為ニ付テモ亦同シ

第百三十二條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ其ノ代理ノ行為ニ付テモ亦同シ

第百三十三條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百三十四條　出納官吏又ハ出納員ハ其ノ保管ニ係ル現金ニ付テハ毎月一回以上之ヲ検査シ且ツ其ノ現在額ヲ検定スヘシ

第百三十五條　出納官吏又ハ出納員ハ其ノ保管ニ係ル現金ニ付テハ毎年三月三十一日又ハ事務引継ノ場合ニ於テハ其ノ引継ノ前日ニ於テ現金ノ出納保管ニ関スル事務ノ分掌ヲ異ニスル官吏ノ検査ヲ受ケ且ツ其ノ検査ニ関スル報告書ヲ提出スヘシ

第百三十六條　出納官吏ノ帳簿ハ毎年三月三十一日又ハ事務引継ノ場合ニ於テハ其ノ前日ニ於テ之ヲ検査シ且ツ其ノ検査ニ関スル報告書ヲ提出スヘシ

第三節　検査及証明

第百三十七條　出納官吏ノ帳簿ハ毎年三月三十一日又ハ事務引継ノ場合ニ於テハ其ノ前日ニ於テ之ヲ検査シ且ツ其ノ検査ニ関スル報告書ヲ提出スヘシ

第百三十八條　前條ノ検査ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

第百三十九條　出納官吏ハ其ノ保管ニ係ル現金ノ出納保管ニ関スル事務ノ分掌ヲ異ニスル官吏ノ検査ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ弁償ノ責ニ任ス

第百四十條　前條ノ検査ニ関スル報告書ヲ提出スヘシ

第百四十一條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十二條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十三條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十四條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十五條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十六條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十七條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十八條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十九條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十一條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十二條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十三條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十四條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十五條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十六條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十七條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十八條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百五十九條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十一條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十二條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十三條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十四條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十五條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十六條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十七條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十八條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百六十九條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十一條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十二條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十三條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十四條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十五條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十六條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十七條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十八條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百七十九條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十一條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十二條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十三條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十四條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十五條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十六條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十七條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十八條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百八十九條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十一條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十二條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十三條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十四條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十五條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十六條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十七條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十八條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百九十九條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第二百條　出納官吏又ハ出納員ノ代理者ハ特ニ命セラレタル場合ノ外現金ノ出納ヲ為スコトヲ得ス

第百四十一條　資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十二條　歲入歲出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十三條　第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十四條　分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計檢査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第百四十五條　出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第百四十條乃至第百四十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第百四十六條　出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲ爲スヘシ

第百四十七條　出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第百四十八條乃至第百五十一條（省略）

第十一章　帳　簿

第百五十二條及第百五十三條（省略）

第百五十四條　歲入徵收官ハ徵收簿ヲ備ヘ歲入ノ調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百五十五條　歲入事務管理區ハ歲入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百五十六條　支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ支拂豫算額、支出濟額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第百五十七條　各省ハ歲出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第百五十八條　出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百五十九條　前七條ニ規定スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第百六十條及第百六十一條（省略）

第十二章　雜　則

第百六十二條　本令ニ依リ會計檢査院ニ提出スル計算證明書類ノ樣式及提出期限ニ付テハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第百六十三條　前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第百六十四條　本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百六十五條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外歲入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則（省略）

朝鮮總督府特別會計ニ關スル件（明治四十三年九月勅令第四〇六號）

第一條　朝鮮總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歲入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條　前條ノ歲入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　政府ハ每年朝鮮總督府特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附　則

第四條　本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（第五條以下省略）

朝鮮總督府特別會計規則（明治四十三年九月勅令第四〇七號）改正（大正十一年三月勅令第四三號）

第一條　歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　所管大臣ハ朝鮮總督ヲ以テ支出官トシ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムル外朝鮮總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル歳出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第三條　朝鮮總督ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣及會計檢査院ニ送付シ同時ニ其ノ旨日本銀行ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更定シタルトキ亦同シ

第四條　朝鮮總督ハ年度内一時歳入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ支拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ支拂元金ニ超過シタル小切手ノ支拂ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第五條　朝鮮總督ハ會計規則第十八條ノ規定ニ基キ發シタル勅令ニ依リ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作リ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條　大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第六條ノ二　歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ニ參照書類ヲ添ヘ之ヲ朝鮮總督ニ送付スヘシ

第六條ノ三　朝鮮總督ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第六條ノ四　支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ朝鮮總督ニ送付スヘシ

第六條ノ五　朝鮮總督ハ支出濟報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條　朝鮮總督ハ土地ノ情況ニ依リ會計規則第九十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八條　歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年七月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條　朝鮮總督府ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第十條　朝鮮總督府ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後增加額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第十一條　本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ定ムル所ニ依ル但シ會計規則第四十二條、第八十五條、第八十八條、第九十七條、第九十八條、第百二十九條、第百三十四條、第百三十五條第二項、第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十四條及第百四十六條中各省大臣又ハ所管大臣トアルニ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年三月二十七日勅令第四十三號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

會計規則第五十條、第五十三條又ハ第七十八條ニ規定スル期限ニ付テハ大正十年度分ニ限リ四月三十日ヲ五月十五日、五月三十一日ヲ六月十五日トシ同令第百七十條ニ規定スル期限ハ之ヲ六月十五日トス

大正十年度所屬歳入歳出金ヲ日本銀行ニ於テ出納スルハ大正十一年六月十五日限トス

大正十年度所屬ノ歳入歳出金ノ六月分徴收總報告書及支出總報告書ハ參照書類又ハ支出濟額報告書ト其ニ所管大臣ヲ經由シテ大正十一年六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

國家ノ會計事務ニ關シテハ以上ノ法令以外ニ歳入歳出及保管金竝官有財産等處理上夫々法令存在シ其ノ大綱ヲ定メラレタルモ實行上各本府所屬官署共通的ニ根本法令ノ附隨規程ヲ定ムル必要アルヲ以テ大正三年八月本府訓令第四十二號ヲ以テ本府會計事務章程ヲ制定セラレ又專賣局ニ於テモ事業官廳トシテ特殊ノ取扱事項ヲ細定スルノ必要アルヲ以テ大正十年十月局訓令第十八號ヲ以テ局會計事務章程及局會計事務取扱規程ハ各項目別ニ之ヲ拔萃シテ掲載スルヲ利便ト認メ以下述ブル所ノ項目別ニ拔萃掲載スルコトト爲シタルガ總則ハ各項目ニ共通スルヲ以テ總則ノミヲ拔萃シテ左ニ掲グルコトトセリ

本府及所屬官署會計事務章程（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第一章　總則

第一條　朝鮮總督府及附屬官署ノ會計事務ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル

第二條　各廳ノ支局又ハ出張所ハ其ノ廳ノ一部ト看做ス但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス

（省略）

專賣局ノ出張所

專賣支局及其ノ出張所

（省略）

第三條　（省略）

第四條　左ノ各項ノ長ヲ其ノ廳ノ朝鮮總督府特別會計歳入徴收官トス

（省略）

殖産局商工課長ハ商工課龍山分室、遞信局長ハ遞信官署、鐵道局長ハ鐵道官署、專賣局長ハ專賣局及其ノ出張所、專賣支局長ハ專賣支局及其ノ出張所、道知事ハ道府郡島、島支廳及警察署、大學總長ハ大學、大學醫學部附屬醫院及大學豫拜、稅關長ハ稅關、支署及出張所、農事試驗場長ハ農事試驗場、支場、出張所及蠶絲部、穀物檢査所支所長ハ穀物檢査所支所及其ノ出張所、地方法院長ノ第三條第三項及第四項ハ地方法院、支廳及出張所、刑務所長ハ刑務所及刑務所ノ支所ノ朝鮮總督府特別會計歳入徴收官トス

（省略）

第五條　左ノ各廳ノ長ヲ其ノ廳ノ歳入徴收事務分掌者トス

（省略）

專賣局又ハ專賣支局ノ出張所

（省略）

前項ニ規定セサル各廳ニ歳入徴收事務分掌者ヲ置ク必要アリト認ムルトキハ歳入徴收官ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　遞信局長ハ遞信官署、鐵道局長ハ鐵道官署、專賣局長ハ專賣局及其ノ出張所、專賣支局長ハ專賣支局及其ノ出張所、道知事ハ道府郡島、島支廳、警察署及慈惠醫院、大學總長ハ大學、大學醫學部附屬醫院及大學豫科、稅務監督局長ハ稅務官署、稅關長ハ稅關及稅關支署出張所、穀物檢査所支所長ハ穀物檢査所支所及其ノ出張所、日本銀行代理店ノ設アル地ノ刑務所ノ刑務所長ハ其ノ刑務所及刑務所ノ支所、觀測所長、日本銀行代理店ノ設アル地ノ內務局出張所長、警察官講習所長、日本銀行代理店ノ設アル地ノ官立學校長、中央試驗所長、獸疫血清製造所長、水産試驗場長、林業試驗場長、新義州營林署長、穀物檢査所長、覆審法院長及覆審法院所在地外ノ地方法院長ハ各其ノ廳ノ經費ノ支出官トス

（省略）

第七條　第四條又ハ第五條ニ規定スル官吏缺員ノ場合ニ於テハ其ノ職務ノ代理ヲ命セラレタル官吏又ハ法令ニ依リ職務ヲ代理スル官吏ヲ以テ歳入徴收官又ハ歳入徴收事務分掌者トス

前項ニ規定スル場合ノ外歳入徴收官、歳入徴收事務分掌者又ハ支出官缺員其ノ他ノ事故アルトキハ朝鮮總督ハ歳入徴收官、支出官又ハ支出官ノ代理官ヲ、歳入徴收官ハ歳入徴收事務分掌者ヲ命スルコトヲ得

第八條　左ノ各廳ニ資金前渡官吏ヲ置ク

（省略）

專賣局又ハ專賣支局ノ出張所

（省略）

資金前渡官吏又ハ分任資金前渡官吏ヲ置ク必要アリト認ムルトキハ支出官ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ置クコトヲ得但シ臨時資金前渡官吏ニ付テハ認可ヲ受クルヲ要セス

第九條　各廳ニ收入官吏、歳入歳出外現金出納官吏、物品會計官吏及有價證券取扱主任ヲ置ク

歳入歳出外現金出納官吏及有價證券取扱主任ハ收入官吏之ヲ兼掌スヘシ但シ必要アルトキハ他ノ官吏ニ有價證券取扱主任ヲ兼掌スル歳入歳出外現金出納官吏ヲ命スルコトヲ得

各廳ノ長必要アリト認ムルトキハ收入官吏ノ下ニ分任收入官吏ヲ置クコトヲ得

第十條　前條ノ官吏ハ本府ニ在リテハ總督官房會計課ニ之ヲ置ク但シ必要アルトキハ他ノ課室ニモ之ヲ置クコトヲ得

第十一條　削除

第十二條　各廳ノ長ハ部下ノ官吏ノ中ヨリ左ノ各號ニ揭ク官吏ヲ命免スヘシ但シ其ノ長ノ外他ニ官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ廳ノ長ヲ以テ第一號ノ官吏トシ第二號乃至第四號ノ官吏ハ直近上級廳ノ長其ノ部下ノ官吏ノ中ヨリ之ヲ命免スヘシ

一　收入官吏、分任收入官吏、歲入歲出外現金出納官吏、資金前渡官吏、分任資金前渡官吏、物品會計官吏

二　會計規則第九十二條、第百三十六條及物品會計規則第十條ノ二、第十一條、第十二條ノ檢查官吏

三　會計規則第百三十七條及物品會計規則第十三條ノ立會官吏

四　會計規則第百四十六條第一項及物品會計規則第十五條二項ノ官吏

（省略）

第十三條　（省略）

專賣官署ニ於ケル前項第一項ノ官吏及現金又ハ物品ノ出納員ノ命免ハ專賣局長ノ定ムル所ニ依ル

第十四條　各廳ノ長、資金前渡官吏又ハ分任資金前渡官吏ヲ命免シタルトキハ卽日官職氏名ヲ支出官ニ報告スヘシ

支出官ヲ置キタル各廳ノ長、農事試驗場長並ニ日本銀行代理店ノ設ナキ地ノ內務局出張所長、官立學校長、道癘惠醫院長及刑務所長ハ其ノ廳及所轄廳ノ收入官吏、資金前渡官吏、歲入歲出外現金出納官吏及物品會計官吏ノ一年間ニ於ケル各官吏ノ管理期間ヲ調查シ第一號書式ニ依リ翌年度四月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第十五條　出納官吏事務引繼ヲ了シタルトキハ前任後任官吏連署ヲ以テ直近上級廳ノ長ニ報告スルヲ以テ足ル

吏又ハ分任資金前渡官吏ノ事務引繼ノ場合ニ於テハ其ノ主任官吏ニ報告スルヲ以テ足ル

收入官吏兼掌ニ係ル有價證券取扱主任交替ノ場合ハ前項ノ例ニ依ル

第十六條　削除

第十六條ノ二　削除

第十六條ノ三　支出官、出納官吏、出納員又ハ有價證券取扱主任其ノ保管ニ係ル小切手、現金又ハ有價證券ヲ亡失シ又ハ盜難ニ罹リタルトキ若ハ僞造變造等ニ依ル不正事件アリタルトキハ其ノ所屬長官ニ於テ速ニ左記事項ヲ調查シ意見ヲ付シ朝鮮總督ニ報告スヘシ經費ヲ詐取セラレ又ハ出納官吏若ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合亦同シ

一　犯人ノ職業、住所、氏名（政府部內ニ勤務セル者ナルトキハ勤務局課及官職）

二　被害ノ日時及場所

三　被害金額又ハ被害有價證券面額（第一號書式ノ二ニ依ル調書添附ノコト）

四　被害事實發見ノ動機

五　現金又ハ有價證券拂渡ニ關スル小切手用紙、書類及印章盜用等ノ不正行爲ヨリ拂渡ニ關スル證書作成ニ至ル迄ノ經過

六　僞造又ハ變造證書ヲ行使シテ現金又ハ有價證券詐取迄ノ狀況

七　平素ニ於ケル小切手用紙、書類、印章等管守ノ狀況

八　責任者處分濟ノ場合ニ於テハ其ノ要旨

九　其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

當該不正事件ニ對スル裁判所ノ讞審決定又ハ判決アリタルトキハ直ニ其ノ寫又ハ謄本ヲ二通提出スヘシ

第十六條ノ四　日本銀行代理店ノ設ナキ地ノ歲入歲出外現金出納官吏又ハ資金前渡官吏ノ保管スル現金ハ成ルヘク郵便局所又ハ確實ナル銀行若ハ金融組合ニ預入ルヘシ但シ遠距離ナルトキ又ハ一時保管ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ預金利子ハ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條ノ五　支出及出納官吏ノ振出ス小切手面ノ署名ハ其ノ氏名ヲ彫刻シタル記名印ヲ以テシ其ノ印肉ハ黑色ヲ用フヘシ

第十六條ノ六　小切手用紙ハ堅牢ナル容器ニ格納シ其ノ受拂ハ帳簿ヲ設ケ之ヲ登記シ支出官出納官又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏每日之ヲ點檢スヘシ

第十六條ノ七　削除

第十七條　日本銀行代理店所在地外ニ於テ收入又ハ支拂ヲ要スルトキハ收入官吏資金前渡官吏又ハ繰替拂出納官吏ニ

於テ取扱フモノヲ除クノ外納入又ハ借主ノ居住地最近ノ遞信官署ヲ指定シテ納入セシメ又ハ支拂ヲ爲スヘシ但シ納入又ハ債主ヨリ特別ノ申出アルトキハ此ノ限ニ在ラス

（省略）

第十八條　計算書報告等ヲ提出セムトスルトキハ之ヲ原本ニ對照檢査シ其ノ書類ノ表紙餘白ニ檢算濟ト記入シ主任者之ニ證印スヘシ

第十九條　特ニ指定シタルモノヲ除クノ外各廳ヨリ提出スル書類ハ其ノ監督官廳ヲ經由スヘシ

第二十條　各廳ヨリ提出スル證明書類又ハ報告書類ニシテ所定ノ期限內ニ提出スルコト能ハサルモノアルトキハ其ノ事由及提出期日ヲ主管局部長ニ報告スヘシ

第二十一條　各廳ヨリ會計檢査院、大藏省又ハ拓務省ニ提出スル書類ハ總テ本府ヲ經由スヘシ

第二十二條　本規程ニ依リ本府ニ書類ヲ提出シ又ハ申請、報告ヲ爲スヘキモノニシテ本府ノ各官吏ノ作製ニ係ルモノハ其ノ監督ノ責任アル官吏ヲ經テ主管部局ニ送付スヘシ

第二十三條　納稅告知書、納入告知書、現金拂込書、歲入金振替拂込書、納付書、歲出金繰替拂證票及同通知書ニハ年度欄ニ其ノ會計名ヲ記入スヘシ

第二十四條　（省略）

書式　（省略）

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月大正十一年三月局訓令第一八號改正局訓令第六號）

第一章　總　則

第一條　朝鮮總督府專賣局ニ於ケル會計事務ノ取扱方ハ朝鮮總督府及所屬官署會計事務章程（以下單ニ本府會計事務章程ト稱ス）若ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル

第二條　本規程中本局トアルハ專賣局、各支局トアルハ各專賣支局、各局トアルハ本局及各支局、各課トアルハ本局及各支局ノ課、各所トアルハ各支局ノ出張所トス

第三條　物品ノ出納ハ各局ニ在リテハ庶務課長、各所ニ在リテハ所長、工場ニ在リテハ工場ノ主任之ヲ命令スヘシ

第四條　左ノ各局所及工場ニ物品會計官吏ヲ置ク

本局及各出張所　一名
各支局　第四類、第八類及第九類物品　一名
其ノ他ノ物品　一名
各工場（支局內ノ工場ヲ除ク）　一名

各支局長又ハ各所長ニ於テ前項物品會計官吏ノ增減ヲ要スルトキハ事由ヲ具シ本局長ノ承認ヲ受クヘシ

第五條　本規程ニ依リ提出スル申請、報告其ノ他ノ書類ハ監督ノ責任アル官吏又ハ監督官廳ヲ經由スヘシ

第六條　本府會計事務章程第十九條又ハ前條ニ依リ經由ヲ要スル書類ハ經由官廳ニ於テ速ニ檢了ノ上通達スヘシ

規程通牒等ニ依リ會計檢査院、本府又ハ本局ニ提出ヲ要スル計算書、證憑書又ハ報告書等ノ提出期日ハ豫メ第一號樣式ノ每月行事月表ヲ設ケ整理スヘシ

第一號樣式

大正何年何月會計行事月表

課所長	主任行事件名	關係規定條項又ハ通牒番號	提出期限又ハ行事スヘキ日	提出濟又ハ行事濟月日	備考

專賣支局出張所ノ經費支拂ノ爲會計規則第五十七條第六號ヲ適用シ資金ヲ前渡シ來リタルガ出張所中ニハ日本銀行代理店所在地又ハ相當交通ノ便開ケタル場所アリテ該規定ノ適用上妥當ヲ缺ク嫌アルニ至リタルヲ以テ斯ル權宜ノ取扱ハ永ク之ヲ存置スル能ハズ而シテ之ヲ嚴格ニ會計規則第五十七條ノ制限ニ依ラシメンカ當ニ事業上不便ナルノミナラズ其ノ不利トスル所少カラズ卽チ專賣局ノ經費中日本銀行代理店所在地ニ於テ支拂フ專賣品賠償及購買費、荷造費、人夫賃ノ如キハ每日多數ノ債主ニ小口ノ現金支拂ヲ要スルモノ多ク而モ之ガ支拂ハ迅速ナルヲ要シ之ヲ一々支出官ノ小切手ニ依リ日本銀行ニ於テ支拂フモノトセバ不便且煩雜ナルノミナラズ延イテ事業上ニ惡影響ヲ及ス虞ナシトセズ又日本銀行代理店所在地ニ於ケル本局及支局出張所ハ現在十三箇所ニシテ支拂豫算令達ノ關係上支出官ヲ置クハ困難ナル事情アリ而シテ之ガ經費ハ何レモ小口ニシテ迅速ナル現金支拂ヲ要スルモノ多數ヲ占メ之ヲ一々隔地ニ在ル支出官ノ支出ヲ仰グガ如キハ其ノ不便ナルコト言ヲ俟タズ事業上不利トスル場合尠カラザルベキヲ以テ會計規則第五十七條ニ對スル例外的規定ヲ設ケ專賣官署ノ支出官ハ專賣品ノ賠償及購買費、荷造費、職工人夫ニ給スル諸費竝支所ノ經費ノ現金支拂ヲ爲サシムル爲所屬ノ出納官吏ニ資金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得ルノ途ヲ開クコトトシ昭和六年勅令第百九十七號ヲ以テ本府特別會計規則中左ノ如ク改正セラレタリ

本府特別會計規則中改正（昭和六年七月勅令第一九七號）

朝鮮總督府特別會計規則中左ノ通改正ス

第十條ノ二　專賣官署ノ支出官ハ煙草又ハ水蔘ノ賠償及購賣費、荷造費、職工人夫ニ給スル諸費竝支所ノ經費ニ限リ所屬ノ出納官吏ニ資金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　歲入出科目

歲入出科目ハ每年初頭ニ本府訓令ヲ以テ本府特別會計歲入出科目トシテ發布セラルル而シテ年度ニ依リ多少ノ差異アルヲ以テ專賣制度施行ノ初年度及昭和九年度ニ於ケル歲入出科目中專賣ニ關スル科目ヲ拔萃シテ揭グルコトトシ其ノ他ノ年度ハ省略スルコトトセリ

大正十年度朝鮮總督府、朝鮮醫院及濟生院各特別會計歲入歲出科目ノ件（大正十年四月本府訓令第二〇號）

大正十年度朝鮮總督府、朝鮮醫院及濟生院各特別會計歲入歲出科目別表ノ通之ヲ定ム但シ本科目ニ適合セサル收入支出アルトキハ科目設置方其ノ時々申出ツヘシ

（別表）

朝鮮總督府特別會計（抄）

歲入經常部

款	項	目
第一款　朝鮮歲入		
	第四項　官業及官有財產收入	

歲入臨時部

ナ

ン

歲出經常部

第十二款　專賣局

第一項　俸給

第三目　專賣收入

第十三目　官有物貸下料

第五項　雜收入

第二目　官有物拂下料

第三目　拂價及違約金

第四目　懲罰及沒收金

第六目　雜入

第一目　勅任俸給

第二目　奏任俸給

第三目　判任俸給

第二項　事業費

第一目　煙草事業費

第二目　蔘業費

第三目　鹽業費

第四目　阿片費

第五目　專賣品賠償及購買費

第六目　專賣品回送及保管費

第七目　材料素品費

第八目　犯則者處分費

第三項　機密費

第一目　機密費

歲出臨時部

第六款　營繕費

第七項　新營及設備費

第十七目　紅蔘製造所附屬建物新營

第十八目　鹽田附屬建物新營

第九款　鹽田擴張費

第一項　鹽田擴張費

第一目　判任俸給

第二目　事務費

第三目　工事費

第二十五款　煙草專賣創業費

第一項　創設費

第一目　勅任俸給

第二目　奏任俸給

第三目　判任俸給

昭和九年度朝鮮總督府朝鮮鐵道用品資金及朝鮮簡易生命保險各特別會計歲入歲出科目ノ件（昭和九年四月本府訓令第一一號　其ノ後數回改正セラルヽ）

昭和九年度朝鮮總督府朝鮮鐵道用品資金及朝鮮簡易生命保險各特別會計歲入歲出科目別表ノ通之ヲ定ム

（別表）

拓務省所管朝鮮總督府特別會計（抄）

款	項	目
歲入經常部		
第三款　官業及官有財産收入		
	第二項　建築及設備費	
		第四目　事務費
		第五目　徵收及買收費
		第六目　作業準備費
	第四項　事務費	
		第一目　奏任俸給
		第二目　判任俸給
		第三目　事業費
		第四目　工事費

一 專賣收入			一 文官納金
	一 煙草收入	八 雜入	
	二 蔘業收入		二 小切手未拂未濟金收入
	三 鹽業收入		四 雜收
	四 麻藥及阿片收入	歲出經常部	
	五 雜收	第十九款 專賣局	
第四款 雜收入		一 俸給	
一 官有物拂下代			一 勅任俸給
	一 官有物拂下代		二 奏任俸給
二 辨償及違約金			三 判任俸給
	一 辨償及違約金	二 事業費	
三 懲罰及沒收金			一 煙草事業費
	一 懲罰及沒收金		二 蔘業費
六 恩給法納金			三 鹽業費

	四 阿片諸費		一 死亡賜金
	五 渡切費		三 官吏療治料
	六 接待費		四 死傷手當
	七 共濟組合給與金		五 死亡手當
	八 煙草耕作組合交付金		六 賠償及訴訟費
	九 專賣品賠償及購買費		一五 諸拂戾及缺損補塡金
	一〇 專賣品回送及保管費	歲出臨時部	
	一一 鹽購買回送及保管費	第五款 營繕費	
	一二 材料素品費	六 新營及設備費	
	一三 犯則者處分費		三 事務實
三 機密費			一六 專賣局新營
	一 機密費		二三 賞與
第二十七款 諸支出金		第十五款 臨時特別手當	
一 諸支出金		一 臨時特別手當	

	一　官吏以下特別手當
第二十款　鹽田築造費	
一　鹽田築造費	
一　奏任俸給	
一　判任俸給	
二　雇員給與	
三　事務費	
四　工事費	
五　賃金	

第四款　諸書類帳簿

專賣ニ關スル會計制度ハ第一款ニ述ブルガ如ク內地トハ異ナリ作業會計ト爲サザルヲ以テ諸書類帳簿ハ大正十一年大藏省令第二十號ヲ以テ定メラレタル會計規則及特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝ニ書類ノ樣式ニ依リ調製スルモノナルガ尙本府會計事務章程及局會計事務取扱規程ニモ帳簿ニ關スル規定アリ今右大藏省令中專賣ニ關係ヲ有スル分及本府會計事務章程竝局會計事務取扱規程中帳簿ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式

（大正十一年三月大藏省令第二〇號　其ノ後數回改正セラレ昭和十年三月末日現在）

會計規則及特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式左ノ通定ム

一　支拂豫算書　　別表第一號書式ニ依ル
一　支拂豫算更定計算書　　別表第二號書式ニ依ル
一　年度開始前支出計算書　　別表第三號書式ニ依ル
一　徵收報告書　　別表第四號書式ニ依ル
一　徵收總報告書　　別表第五號書式ニ依ル
一　徵收簿　　別表第六號書式ニ依ル
一　歲入簿　　別表第七號書式ニ依ル
一　支出濟額報告書　　別表第八號書式ニ依ル
一　支出總報告書　　別表第九號書式ニ依ル
一　繰越計算書　　別表第十號書式ニ依ル
一　支出簿　　別表第十一號書式ニ依ル
一　歲出簿　　別表第十二號書式ニ依ル
一　現金領收證書　　別表第十三號書式ニ依ル
一　現金出納簿　　別表第十四號書式ニ依ル
（別表第十五號乃至第二十三號書式省略）
一　特別會計原簿　　別表第二十四號書式ニ依ル
一　特別會計補助簿　　別表第二十五號書式ニ依ル
一　特別會計支拂元受高差引簿　　別表第二十六號書式ニ依ル
（別表第二十七號乃至第三十三號書式省略）

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（以下省略）

第一號書式

支拂豫算書

何省所管

某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）

支出官官氏名　　日本銀行何店

款	項	金額
何	何	圓 0
	何	0
	何	0
		0

年　月　日

支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

大藏大臣（會計檢査院長）宛

備考

一　用紙ハ厚質礬砂引美濃紙トシ左方ニ約一寸ノ綴代ヲ設クヘシ第二號乃至第五號、第八號乃至第十號書式亦同シ

二　本書式中日本銀行何店トアルハ支出官ノ振出ス小切手ノ支拂店名ヲ謂フ第二號、第三號及第十四號書式亦同シ

三　本書式ハ罫線其ノ他凡テ墨書スルモノトス第二號乃至第五號、第八號乃至第十號、第十三號、第二十七號乃至第三十三號書式亦同シ

第二號書式

支拂豫算更定計算書

何省所管　某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）

支出官官氏名　　日本銀行何店

款	項	增	減
何	何	圓 0	圓 0
	何		
		0	0

年　月　日

支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

大藏大臣（會計檢査院長）宛

第三號書式

年度開始前支出計算書

何省所管　某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

支出官官氏名　　日本銀行何店

款	項	金額
		圓
何	何	0
	何	0
		0

年　月　日

年度開始前支出計算書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

大藏大臣(會計檢査院長)宛

第四號書式甲

某年度歳入(何々會計歳入)徴收報告書

何省所管　何廳　　何年何月分

款	項	目	事由	調定濟額 本月分	調定濟額 本月迄累計	收入濟額 本月分	收入濟額 本月迄累計	不納缺損額 本月分	不納缺損額 本月迄累計	收入未濟額	現金拂込濟仕譯
				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
經	常	部									
何	何	何		0	0	0	0	0	0	0	
		〃	調定外誤納額	0							
	何	何		0	0	0	0	0	0	0	
臨	時	部		0	0	0	0	0	0	0	前月迄拂込未濟　0
何	何	何									本月中現金領收額　0
		何		0	0	0	0	0	0	0	本月中現金拂込高　0
				0		0	0	0	0	0	0
				0	0	0	0	0	0	0	翌月へ越高　0
				0	0	0	0	0	0	0	

年　月　日

歳入徴收官官氏名㊞

備考

一本書ニハ日本銀行ノ月計突合表ヲ添附スルモノトス

二特別會計ニ於テ徴收報告書ヲ以テ徴收總報告書ニ充ツル場合ニ於テハ徴收總報告書ヲ調製ズヘキ官吏第五號甲書式ノ例ニ依リ本書ニ年月日及官氏名ヲ奥書シ徴收總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

第四號樣式乙

現金拂込濟仕譯書

某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)

何省所管　　何廳　　何年何月分

摘要	金額	備考
	厘	
前月迄拂込未濟	0	
本月中現金拂込高	0	
翌月へ越高	0	

年　月　日

歲入徵收官　官氏名㊞

備考

歲入調定濟領、收入濟額不納缺損額ニ異動ナク現金拂込高ノミニ異動アル月ニ於テハ徵收報告書ヲ要セス單ニ本樣式ニ依リ現金拂込濟仕譯書ヲ調製シ之ニ日本銀行ノ月計突合表ヲ添ヘ徵收報告書送附ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

第五號書式甲

某年度歲入(何々會計歲入)徵收總報告書

何省所管　　何年何月分

款	項	目	事由	調定濟額 本月分	調定濟額 本月迄累計	收入濟額 本月分	收入濟額 本月迄累計	不納缺損額 本月分	不納缺損額 本月迄累計	收入未濟額	現金拂込濟仕譯
				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
經常部											
何	何	何		0	0	0	0	0	0		
		〃	調定外誤納額	0						0	
	何	何		0	0	0	0	0	0	0	前月迄拂込未濟　0
				0	0	0	0	0	0	0	本月中現金領收額　0
臨時部											0
何	何	何		0	0	0	0	0	0	0	本月中現金拂込高　0
		何		0	0	0	0	0	0	0	翌月へ越高　0
				0	0	0	0	0	0	0	
				0	0	0	0	0	0	0	

年　月　日

徵收總報告書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

備考

一　本書ニハ歲入徵收官ヨリ提出スル日本銀行ノ月計突合表ヲ添附スルモノトス

二　大學特別會計規則第二十條ノ二ノ徵收集計報告書ハ此ノ書式ヲ準用ス

第五號書式乙

收入金拂込未濟內譯報告書

某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)

何省所管　　何年何月分

廳名	徵收報告書年月		拂込未濟額	事由
何廳	何	何	圓 0	
何廳		〃	0	
			0	

年　月　日

官廳名㊞

備考

一　本書ハ徵收總報告書現金拂込濟仕譯ノ欄內ニアル翌月ヘ越高ノ內譯トシテ徵收總報告書ニ添附スルモノトス

二　拂込遲滯セルモノハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第五號書式丙

現金拂込濟總仕譯書

某年度歲入(何々會計歲入)經常部(臨時部)

何省所管　　何年何月分

摘要	金額	備考
前月迄拂込未濟	圓 0	
本月中現金拂込高	0	
翌月ヘ越高	0	

年　月　日

徵收總報告書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

備考

各歲入徵收官トモ單ニ現金拂込濟仕譯書ノミヲ送付セシ月ニ於テハ徵收總報告書ヲ要セス本書式ニ依リ現金拂込濟總仕譯書ヲ調製シ之ニ收入金拂込未濟內譯報告書及月計突合表ヲ添ヘ徵收總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

丁式書號五第

徴収総報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額仕訳書

某年度歳入（何々会計歳入）

何省所管　何年何月分

廳名	徴収報告書 年	徴収報告書 月	差額 突合表ノ方過超	差額 突合表ノ方不足	事由
			圓	圓	
何廳	何	何	0		何々
何廳		〃		0	何々
			0	0	
	年	月	日		
		官	廳名	印	

備考

本書ハ徴収総報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額ノ内訳トシテ徴収総報告書ニ添附スルモノトス

「簿收徴（部時臨）部常経（入歳計会々何）入歳度年某」

（日）々何　（項）々何　（款）々何

年	月	日	摘要	調定済額	収入済額	不納欠損額	収入未済額
				圓	圓	圓	圓
何	年	何					
何	〃	〃		0	0	0	0
	備考		調定外誤納額	0			0

一　歳入徴収官ノ備フヘキ徴収簿ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外此ノ書式ニ依ル

二　調定済額ノ欄ニハ収入ノ確定シタルモノヲ記入シ、収入済額ノ欄ニハ日本銀行ヨリ収納済ノ報告ヲ受ケタル出納官吏又ハ其ノ代理者ノ領収シタル額ヲ記入シ、不納欠損額ノ欄ニハ其ノ欠損ノ確定シタル額ヲ記入スルモノトス

三　調定済額ニ超過誤納アリタルトキハ其ノ摘要欄内ニ調定外誤納額ト記載シ誤納額ニ相当スル額ヲ調定済額ノ欄内ニ記入スルモノトス

四　徴収簿ノ詳細ヲ明ニスルニハ各適宜ノ口座ヲ設クルモノトス

五　又括弧ニ統括ニ中簿本宜便シ倶ニ徴収簿ノ補助簿ハ適宜ノ口座ヲ設クルコトヲ得第七號書式亦同シ

本書式中「　」内ハ朱書トシ徴収簿ノ要用スル款、項、目、節、別ノ之ヲ朱線ヲ以テ区画シ第七號、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十六號書式亦同シ

第七號書式

「某年度歲入（何々會計歲入）經常部（臨時部）歲入簿」

何々（款）　何々（項）　何々（目）

年月日		摘要	徵收報告年月		廳名	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	收入未濟額	豫算額ト調定濟額トノ差
						圓	圓	圓	圓	圓	圓
何	年										
何	何					0					0
	何		何	何	何廳		0	0	0		
	〃	調定外誤納額		〃	〃		0			0	0
	備考										
	一	歲入簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス									
	二	大學特別會計規則第二十九條ノ歲入支簿ハ此書式ヲ準用ス									

第八號書式

支出濟額報告書

某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）

何省所管　　何年何月分

款	項	支出濟額 本月分	支出濟額 前月迄累計	支出濟額 合計	備考
		圓	圓	圓	
何	何	0	0	0	
	何	0	0	0	
		0	0	0	

年月日

支出官官氏名㊞

備考

一　定額戻入及更正減額ハ金額事由トモ朱書スルモノトス

第九號、第十一號、第十二號及第二十六號書式亦同シ

二　特別會計ニ於テ支出濟額報告書ヲ以テ支出總報告書ニ充ツル場合ニ於テハ支出總報告書ヲ調製スヘキ官吏第九號書式ノ例ニ依リ本書ニ年月日及官氏名ヲ奥書シ支出總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノトス

三　本報告書ハ所管大臣必要アリト認ムル場合ニ於テハ目迄ヲ記載セシムルコトヲ得

第九號書式

支出總報告

某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）

何省所管　　何年何月分

款	項	支出濟額 本月分	支出濟額 前月迄累計	支出濟額 合計	備考
何	何	圓 0	圓 0	圓 0	定額戻入、更正減額何々0、
	何	0	0	0	
		0	0	0	

年　月　日

支出總報告書ヲ調製スル官吏官氏名㊞

備考

大學特別會計規則第二十條ノ四ノ支出濟額集計報告書ハ此ノ書式ヲ準用ス

第十號書式

繰越計算書

某年度歲出（何々會計歲出）經常部（臨時部）

款	項	豫算定額	小切手振出濟額及小切手ヲ振出スヘキ額	豫算定額不用額	翌年度ヘ繰越額 繰越承認濟額	翌年度ヘ繰越額 要繰越額	事由
何	何	圓 0	圓 0	圓 0	圓 0	圓 0	何々ノ事由ニ依リ會計法第何條（何々會計規則第何條）ニ依リ繰越ヲ要ス
	何	0	0	0	0	0	何〃
		0	0	0		0	

年　月　日

所管大臣氏名㊞

備考

一　小切手振出濟額及小切手ヲ振出スヘキ額ノ欄内ニハ既ニ支出濟ト爲リタル金額及當該會計ノ整理期限迄ニ支出スヘキ額ヲ掲クルモノトス

二　特別會計ニ於テ支出未濟トシテ繰越スヘキ金額ハ本書小切手振出濟額及小切手ヲ振出スヘキ額欄ノ次ニ支出未濟トシテ翌年度ヘ繰越スヘキ額ノ欄ヲ設ケ之ヲ記入スルモノトス

第十一號書式

「某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)支出簿」

(何々)款 (何々)項 何々

年	月	日	摘要	支拂豫算額		支出濟額	支拂豫算殘額
				圓		圓	圓
何		年					
何		何		0			0
		何				0	
		〃	入戻定額			0	
		〃	何々額減更正			0	0
備考							
一			支出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス				
二			但シ便宜本簿中ニ統括又ハ款、項、目、節別ノ口座ヲ設クルコトヲ得第十二號書式亦同シ				

第十二號書式

「某年度歲出(何々會計歲出)經常部(臨時部)歲出簿」

(何々)款 (何々)項 何々

年	月	日	摘要	豫算額	豫算決定後增加額	支出濟額	翌年度ヘ繰越額	豫算殘額
				圓	圓	圓	圓	圓
何		年						
何		何		0				0
		何				0		0
		何	前年度ヨリ越		0			
		〃	定額戻入			0		
		〃	何々額減更正			0		0
		何	豫備費ヨリ補充		0			0
		何	翌年度ヘ越				0	0
備考								
一			歲出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス					
二			大學特別會計規則第十三條ノ歲出簿ハ此ノ書式ヲ準用ス					

第十三號書式

「現金領收證書」

（原符）

第何號	某年度(某年度何々會計)
何郡市町村何番地	何　某納
經常（臨時）	何々（款）
何々（項）	何々（目）
金	

年　月　日領收　（收入官吏燈印）

報告書

第何號	某年度(某年度何々會計)
何郡市町村何番地	何　某納
經常（臨時）	何々（款）
何々（項）	何々（目）
金	

上記ノ金額領收濟ニ付報告候也

年　月　日

何廳主任收入官吏
官氏名㊞

又ハ何廳主任收入官吏官氏名所屬
何廳分任收入官吏
官氏名㊞

歲入徵收官官氏名宛

領收證書

第何號	某年度(某年度何々會計)
何郡市町村何番地	何　某納
經常（臨時）	何々（款）
何々（項）	何々（目）
金	

上記ノ金額領收候也

年　月　日

何廳主任收入官吏
官氏名㊞

又ハ何廳主任收入官吏官氏名所屬
何廳分任收入官吏
官氏名㊞

備考

一　用紙寸法縦五寸六分横三寸八分輪廓寸法縦四寸五分横三寸三分ノモノ三枚接續

二　會計規則第三十三條ノ規定ニ依リ交付スヘキ領收證書ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外此ノ書式ニ依ルヘシ

三　官廳間ノ收入金ニシテ歲出金支拂通知書ニ領收ヲ證シ收納ヲ了シタルトキハ此ノ領收證書ヲ送付セスシテ現金又ハ預金ノミノ取扱ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ本書式ノ如ク記入シタル郵便葉書ヲ使用スルコトヲ得

四　領收證書郵送ノ必要アル場合ニ於テハ本書式ニ準シ適宜ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

五　歲入徵收官ト同一官廳内ニ在ル收入官吏ノ收納濟報告書ハ原符ヲ以テ代用シ報告書ヲ省略スルコトヲ得

第十四號書式

「現金出納簿」

年	月	日	摘要	受 現金	受 預金	受 計	拂 現金	拂 預金	拂 計	殘 現金	殘 預金	殘 計
				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
何	年											
何	何		何々金何某ヨリ收入（又ハ受入）	0								
〃	〃		日本銀行何店ヘ拂込				0			0		0
何	何		何々金支出官何某ヨリ受入	0								
	〃		日本銀行何店ヘ預託		0	0	0					
	〃		何々金何某ヘ拂渡				0					
	〃		何々金何某ヘ拂渡ノ爲小切手振出					0	0	0	0	0
何	何		何々金日本銀行何店ヨリ預金部預金振込濟ノ通知ヲ受ク		0	0				0	0	0
何	何		何々金何某ヘ拂渡ノ爲小切手振出					0	0	0	0	0

備考

一　本簿ハ便宜縦式トスルコトヲ得

二　現金ヲ預託又ハ繰入シタル場合ニ於テハ現金ハ拂本書式中ノ現金、預金ニ受入ノ細分ヲ爲シ

三　現金又ハ預金ノミノ取扱ヲ爲ス出納官吏ハ現金ノ在リ之ヲ拂フニ準シ

四　出納員ノ備フヘキ本簿ハ所管大臣ニ於テ本書式ニ準シ適宜ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

略省式書二號三十二第至第乃號五十第

第二十四號書式

「某年度何々會計原簿」

何々

年	月	日	摘要	日記丁數	借	貸	借或貸	殘
何		年			圓	圓		圓
何		何	何〃		0			
		〃	何〃			0	借	0
備考								
		特別會計規則ニ依リ要スル原簿ハ此ノ書式ニ依ル						

第二十五號書式

「某年度何々會計補助簿」

何々（原簿科目）　　何々（細科目）

年	月	日	摘要	證憑番號	借	貸	借或貸	殘
何		年			圓	圓		圓
何		何	何々		0			
		〃	何々			0	借	0
備考								
	一	特別會計規則ニ依リ要スル原簿ノ補助簿ハ此ノ書式ニ依ル						
	二	本簿ハ所管大臣ノ定ムル細科目毎ニ口座ヲ設クルモノトス						
	三	本簿ノ外原簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル所ノ補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス						

第二十六號樣式

〔表書府官々會計支拂元金高差引簿〕

年	月	日	摘	要	支拂元金高	支出濟額	殘	額
同			同	同				
同			歳入					
			〃					
			〃					
			〃	法律改正				
			〃	第二豫備費				
			同	繰越ノ額				
			〃	同				

（第二十七號樣式ノ表第三十三號樣式ノ表ノ次ニ加フ）

本府及所屬官署會計事務章程中抜萃（昭和三年八月本府訓令第四號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第十二章　帳簿證明

第二百十四條　財務局長ハ歳入簿、歳出簿及豫算差引簿ヲ備フヘシ

第二百十五條　歳入徴收官及歳入徴收事務分掌者ハ大正十一年大藏省令第二十號ニ依ル徴收簿ヲ備フル外稅外收入ニ付テハ第三十六條書式ノ調定原簿ヲ備フヘシ

第二百十六條　出納官吏ハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金出納簿ヲ備フヘシ

收入官吏ニシテ他ノ出納官吏ヲ兼ヌルトキハ前項ノ帳簿ノ外第三十七號書式ノ收入簿ヲ備フヘシ

第二百十七條　削除

第二百十八條　支出官及豫算ノ分配ヲ受ケタル官吏ハ第三十九條書式ノ經費推算簿ヲ備フヘシ

第二百十九條　支出官ハ大正十一年大藏省令第二十條ニ依ル支出簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　日整理支出簿　第四十一號書式ノ乙

一　繳算渡整理簿　第四十二號書式

一　前渡金整理簿　第四十三號書式

支出簿ノ記載方ハ第四十一號書式ニ依ルヘシ

第二百二十條　資金前渡官吏ハ第二百十六條第一項ノ帳簿ノ外第四十二號書式ノ概算渡整理簿及第四十四號書式ノ經費内譯簿ヲ備フヘシ

第二百二十一條　歳入歳出外現金出納官吏ニシテ他ノ出納官吏ヲ兼ヌルトキハ第二百十六條第一項ノ帳簿ノ外第四十六條書式ノ現金出納内譯簿ヲ備フヘシ

（省略）

第二百二十二條　有價證券取扱主任ハ第四十八條書式ノ有價證券受拂簿ヲ備フヘシ

第二十三條　（省略）

第二十四條　（省略）

第二百二十五條　物品會計官吏ハ第五十三條書式ノ物品出納簿及第五十五號書式ノ供用備品内譯簿ヲ備フヘシ

前項ノ帳簿ノ外物品内譯簿、物品受拂簿、物品受拂内譯簿等必要ナル補助簿ヲ備フルコトヲ得

第二百二十六條　物品取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　備品受拂簿　第五十四號書式

一　消耗品受拂簿　第五十六號書式

一　郵便切手類受拂内譯簿　第五十七條書式

前項ノ外必要ニ依リ供用備品内譯簿ニ準シタル補助簿ヲ設クルコトヲ得

第三十六號書式（用紙美濃紙）

調定原簿

歳入徴收官印	主任印	納入告知書發行日番號	納期	顚末	科目 款	科目 項目	科目 金額	摘要	納人住所氏名
		四月一日第一號	四月十日	四月五日收入	臨時部官有物拂下代	物品拂下代	五、〇〇〇圓	不用物品箱外十點拂下代	何町何某
		同第二號	四月十一日		經常部官業及官有財産收入	官有物貸下代	三、〇〇〇	何町宅地何坪貸下料何月分	何町何某
		四月五日第三號	四月十五日	何年何月何日不納缺損據置貸ニ編入	經常部雜收入	辨償及違約金	一〇〇、〇〇〇	何某何物品毀損辨償金	何町何某

記載例

一　納入告知書ヲ發セスシテ現金ヲ收入官吏ニ納付セシムルモノハ本簿ニ登錄ヲ要セス

二　調定ヲ取消シタル場合ニ於テハ顚末欄ニ其ノ旨朱書シ主任者捺印スヘシ

三　證明上定額戻入決議書ニ準シタル歳入決議書ヲ作製スルヲ便宜トスルトキハ該決議書ヲ以テ本簿ニ代フルコトヲ得

第三十七號書式

科目（目別）　收入簿

年	月	日	納入告知書又ハ領收證年月日番號	收入額	拂込額	拂込未濟額	摘要
				圓	圓	圓	

第三十九號書式ノ甲

經費推算簿

（款）（項）（目）

年月日	債主	番號	摘要	豫算額	推算額	豫算額ト推算額トノ差	精算月日	支出額	推算額ト支出額トノ差	備考
				圓	圓	圓		圓		

記載例

一　本簿ハ支出官ヲ置キタル各廳刑務所及勤業模範場ニ於テ之ヲ備フヘシ

二　各廳ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ「支出額」及「推算額ト支出額トノ差」欄ヲ省略スルコトヲ此ノ場合ニ於テハ「精算月日」欄ヲ「支拂月日」ニ改メ「豫算額ト推算額トノ差」ノ次ニ之ヲ置クヘシ

三　支拂ノ複雜ナラサル科目ニ付テハ推算ヲ省略スルコトヲ得

第三十九號書式ノ乙

經費推算簿（項）（目）

年月日	摘要	豫算額	支拂額	豫算殘額	備考
		圓	圓	圓	

記載例

一　本簿ハ甲號書式ノ經費推算簿ヲ備ヘサル各廳ニ於テ之ヲ備フヘシ

二　本簿ハ便宜横式トスルコトヲ得

三　豫算ヲ減額セラレタルトキハ豫算額欄ニ朱書スヘシ

四　備考欄ニハ「傳票提出濟」「現金交付濟」等ノ區劃ヲ設ケ其ノ月日ヲ記入シテ之ヲ處理スルモ妨ケナシ

五　道慈惠醫院ニ在リテハ總括ノ口座ヲ設ケ「豫算額」ノ次ニ「支拂元金受領額」「豫算殘額」ノ次ニ「支拂元金受領額ト支拂額トノ差」ノ各欄ヲ設クヘシ

六　支拂ノ複雜ナラサル科目ニ付テハ推算ヲ省略スルコトヲ得

第四十一號書式ノ甲

（△印ハ朱書）

支出簿記載例

款　項

年月日		摘要	支拂豫算額	支出濟額	支拂豫算殘額
			圓	圓	圓
11.4	1	豫算令達額	5,000 00		
	△4	△豫算減額	△150 00		
	7	奏任俸給		285 00	
	〃			180 00	
	〃	賞與		100 00	
	9	前渡何某		1,000 00	
	△30	△定額戻入奏任俸給		△15 70	
	△〃	△科目更生減地方廳俸給ヘ		△24 00	
	〃	科目更正增同上ヨリ		17 60	
		4月分本拂合計	4,850 00	565 00	
		△定額戻入		△15 70	
		△科目更正減		△24 00	
		科目更生增		17 60	
		改 4月分本拂合計		542 90	
		4月分前渡合計		1,000 00	
		累計	4,850 00	1,542 90	3,307 10
5	10	奏任俸給		285 00	
	〃	判任俸給		180 00	
	15	前渡		1,500 00	
		5月分本拂合計		465 00	
		〃前渡合計		1,500 00	
		累計	4,850 00	3,507 90	1,342 10

第四十一號書式乙

目整理支出簿

項目　　（△印ハ朱書）

年	月	日	摘要	債主名	推算番號	小切手番號	支拂豫算額	支出濟額 本拂及概算渡	支出濟額 前渡金	支拂豫算額ト支出濟額トノ差
							圓	圓	圓	圓
4		1	豫算令達額				3,000 00			
		20	何月分俸給	何某	1	107		125 00		
		20	同	同	2	108		160 00		
		20	△定額戻入	同		△ 107		△ 18 00		
		△30	△科目更正減道路修築費俸給					△ 20 00		
		△30	4月分合計				3,000 00	285 00		
			△定額戻入					△ 18 00		
			△科目更正					△ 20 00		
			改4月分合計				3,000 00	247 00		2,753 00

第四十二號書式

概算渡整理簿

年	月	日	摘要	顛末月日	小切手番號	概算支出額	精算額 支拂額	精算額 返納額	精算未濟
						圓	圓	圓	圓

記載例

一　本書ハ日別ニ口座ヲ設クヘシ

二　支拂額欄ノ記載方ハ例ヘハ100圓ノ概算ヲ受ケタルモノ精算額150圓ナルトキハ支拂額欄ニ100圓ト記載シ100圓ノ概算ヲ受ケタルモノ精算額50圓ナルトキハ支拂額欄ニ50圓返納額欄ニ50圓ト記載スルカ如シ

第四十三號書式

前渡金整理簿

廳名　　項目

年	月	日	摘要	前渡金受領者	小切手番號	前渡額	精算額	未精算額
						圓	圓	圓

記載例　前渡金返納ノ場合ニハ摘要欄ニ其ノ事由ヲ記シ前渡額欄ニ返納額ヲ朱記スヘシ

第四十四號書式

經費内譯簿

（項）（目）　　（△印ハ朱書）

年	月	日	摘要	資金前渡受領額	支拂額	殘額	備考
				圓	圓	圓	
4		1	通知書一枚	1,000000			
		5	何外何點代　何某		10000	990000	
		10	何何何點代　何某		20000	970000	
		△15	△同上支拂ノ内何何ハ何何ノ誤ニ付過渡ノ分回收		△ 1000	971000	
			四月分計	1,000000	29000		
5		1	何地出張旅費　何某		5000		
		1	何何代　何某		800000	166000	
		10	通知書一枚	1,000000			
		△10	△何月何日何某渡何何代ノ内何何ニ付過渡ノ分回收		△ 10000		
		10	四月分計算書何分任官吏		100000		
			同　何分任官吏		100000	976000	
			五月分計	1,000000	1,005000 △ 10000		
			累計	2,000000	1,024000	976000	
6		1	何何代　何某		500000	476000	
		△30	△前渡金不用額納返	△ 476000			
			六月分計	476000	500000		
			累計	1,524000	1,524000	0	

記載例

一　分任官吏ニ對シ前渡金ヲ分付シタルトキハ適宜補助簿ヲ設ケテ整理シ其ノ計算書ヲ受ケタルトキハ本簿ニ記載スヘシ

二　當月分ノ支拂ニ對シ回收ヲ爲シタルトキハ月計ニ於テ差引記載シ前月迄ノ支拂額ニ對シ回收ヲ爲シタルトキハ當月分支拂額ト回收額トニ之ヲ區分シテ記載スヘシ

三　本簿ヲ推算簿ニ兼用スル場合ニハ適用區劃ヲ增設スヘシ

四　分任資金前渡官吏ノ經費内譯簿ハ本簿ニ準シテ調製スヘシ

歳入歳出外現金出納内譯簿

年	月	日	摘要	收	拂	殘	備考
				圓	圓	圓	

記載例

一　本簿ハ保管金取扱規程ニ依リ現金ノ保管金ノ受拂ヲ登記スルモノトス

二　本簿ハ保證金、擔保金、拆借金等種類毎ニ口所ヲ設ケ括メニ綴ヲ附スヘシ

第四十八號書式

政府保管有價證券受拂簿

年月日	摘要	受入	拂出	現在	番號	顧末	權利者氏名
		圓	圓	圓			

記載例

一　本簿ハ政府保管有價證券取扱規程ニ依リ取扱フ有價證券ノ受拂ヲ登記スルモノトス

第五十三號書式甲乙丙戊己省略(本書式ハ物品出納簿ガ本府ノ認可ヲ受ケ局訓令ヲ以テ定メアリテ次ニ掲クルコトトセシニ依ル)

第五十四號書式

呼稱ノ位單	備品受拂簿							
年月日	物品取扱主任印	受	拂	殘			專用者印	摘要
				供用				
				共用	專用	保管		
目品								

第五十五號書式

供用備品內譯簿

何課室備付何官氏名專用)

呼稱ノ位單	年月日	物品番號	品種	交付	返納	亡失毀損	現在	摘要
目品								

記載例

一　本簿ハ品目毎ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ

二　共用品及專用品ノ總括ハ適宜補助簿ヲ設ケ整理スヘシ

三　物品ノ少ナキ廳ニ在リテハ品目別ノ區分ヲ爲サス各品目ヲ混記スルモ妨ナシ

四　便宜上供用品ハ凡テ之ヲ課室備付トシテ整理スルコトヲ得但シ專用者ノ身體ニ帶用スルモノヲ除ク

第五十六號書式

呼稱ノ位單	消耗品受拂簿					
年月日	受	拂	殘	受領者印	摘要	
目品						

記載例

必要ニ依リ受、拂、殘ノ各欄ヲ數量金額ニ區分スルコトヲ得

第五十七號書式

郵便切手類受拂内譯簿

年	月	日	發送先	發信者	種類	數量	受	拂	殘	備考
							圓 10 00	圓	圓 10 10	前年度ヨリ繰越
	4	1								
		〃	何　　廳	何　　課		3枚		03		
		〃	何廳出張	何課員	電　信	15字		20		
		〃	何所何某	何　　廳	書　留	3枚		10		

備考　郵便切手ノ所用多量ナル廳ニ在リテハ本書式ニ依ラズ郵便切手枚數ヲ以テ整理スルコトヲ得

局會計事務取扱規程中抜萃（大正十年十一月十八日改正　昭和二年大藏省令第一六號）

第十章　帳簿（及證明）

第百五十三條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手ノ所用多量ナル廳ニ在リテハ本書式ニ依ラズ郵便切手枚數ヲ以テ整理スルコトヲ得

第百五十四條　第三章第二節第一款ニ揭ケル帳簿ヲ備フヘシ

第百五十五條　物品會計官吏ハ物品ノ類別ニ從ヒ各所ニ在リテハ第一類乃至第三類第十一類及第十二類物品出納簿及第三十六號樣式ノ物品現在高内譯簿ヲ備フヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百五十六條　物品出納簿ハ毎年度ニ於テ之ヲ更新スヘシ

第百五十七條　物品ノ出納ハ其ノ都度之ヲ整理スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百五十八條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百五十九條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十一條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十二條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十三條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十四條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十五條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十六條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十七條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十八條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十九條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十一條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十二條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十三條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十四條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十五條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十六條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十七條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十八條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十九條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十一條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十二條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十三條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十四條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十五條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十六條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十七條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十八條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十九條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十一條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十二條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十三條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十四條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十六條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十七條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十八條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十九條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百二百條　保管物取扱主任ハ保管物受拂ノ外煙草及郵便切手類ノ受拂ヲ爲スヘシ但シ各所ニ於テ物品會計官吏ニ代リ物品ノ出納ヲ掌ル者ヲシテ第百五十六條ニ定ムル物品出納簿ヲ備ヘシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

ノ口座ニ於テ整理スヘキ分ハ本又ハ支等ノ區分ニ依リ整理スヘシ

七　第九類(材料素品)及第十類(機械運轉用品)ハ品名ノ異ル毎ニ口座ヲ設クヘシ

八　第十一類(消耗品)ハ前號ニ同シ但シ拂出及現在ハ數量ノミヲ登記シ年度末又ハ物品會計官吏交替ノ際ニ於テ其ノ期間ニ於ケル總受入數量ニ對スル總價格ニ依リ平均單價ヲ算出シ該單價ヲ以テ拂出數量ニ對スル價格ヲ算出登記シ同時ニ現在數量ニ對スル價格ヲ整理スヘシ

物品會計官吏交替シタルトキ前任者後任者連帶證明ノ場合ハ交替ノ際ニ於テ拂出價格ノ整理ヲ爲サス年度末ニ於テ之ヲ合併整理スルコトヲ得

九　第十二類(前各類ニ屬セサル物品)ハ物品類別表ノ區別ニ依リ品名ノ異ル毎ニ口座ヲ設ケテ整理スヘシ

賣渡ニ對スル差增減ハ備考欄ニ記入スヘシ

第百五十八條　第一類、第四類及第八類物品ニ對シテハ各其ノ物品出納內譯簿ヲ備フヘシ

但シ第四類及第八類物品出納內譯簿ノ各「價格欄」ハ之ヲ省略スルコトヲ得尙第四類物品ニ對シテハ各「量目」ノ前ニ「錢數」ノ一欄ヲ設クヘシ

前項以外ノ物品ニ對シテハ必要ニ臨シテ適宜物品出納內譯簿ヲ備フヘシ

第百五十九條　物品出納內譯簿ノ記載方ハ總テ物品出納簿ノ例ニ準スルノ外左ノ區分ニ依リ整理スヘシ

一　第一類物品ハ物品番號ノ異ル毎ニ記帳スヘシ

二　第四類物品ノ內朝鮮產及內地產ハ產出年次(當年產、前年產、前々年產、前年產、前年產及其ノ前年產ノ四種ニ區別シ其ノ年次ヲ冠記ス)、乾燥區分、種類、葉分及等級(單價ノ異ルモノハ其ノ區別毎)、外國產ハ產出年次(米國產ハ當年產、前年產、前々年產及其ノ前年產ノ四種ニ區別シ其ノ年次ヲ冠記シ其ノ他ノ外國產ハ年次ノ區別ヲ要セス)、產地、品類及符號ノ異ル毎ニ口座ヲ設ケ尙區分毎(等級符號ヲ除ク)ニ合計ヲ附スヘシ

三　第八類物品中同一品名ニシテ特殊名稱、用途、大小包裹及ボール函ニ區分アルモノ又ハ單價ノ異ルモノアルトキハ其ノ區分ニ依リ口座ヲ設クヘシ

四　前各號ノ外ニ尙其ノ細別毎又ハ必要トスル區分毎ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ

第百六十條　物品出納內譯簿ノ要件ヲ具備スル簿表類アルトキハ之ヲ以テ內譯簿ノ代用トナスコトヲ得

第百六十一條　各種作業日表ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第百六十二條　各類別物品ノ貯藏倉庫別現在高區分ハ適宜補助簿ヲ備ヘ又ハ區分ヲ認メ得ヘキ諸表類ニ依リ整理スヘシ但シ物品出納內譯簿ニ區分ヲ設シ彙用スルコトヲ得

第百六十三條　物品會計官吏交替ノトキハ物品出納簿ノ最尾ニ「何月何日現在ヲ以テ引繼ヲ了ス」ト記入シ前任者後任者記名捺印スヘシ

物品取扱主任交替ノトキハ前項ニ準ス

（明治四十二年勅令第二百十一號）

（元帳用紙ノ大サ）

摘要	品名	品名ノ細別	番號	產出年次	乾燥區分	種類	葉分	等級	產地	品類	符號	受入數量	拂出數量	現在數量	備考

備考

一　本簿ハ擔保ヲ提供セシムル根據法令ノ異ナル毎ニ區分シ且之ヲ一時據保、據置擔保ニ區分シ債務者毎ニ口座ヲ設ケ冊首ニハ索引ヲ附シ毎年度之ヲ更新スヘシ但シ適宜之ヲ分冊ト爲スコトヲ得

二　檢印欄ニハ據保物件ノ受拂ヲ爲ストキ保管物取扱主任ニ於テ檢印スヘシ

三　受拂區別欄ニハ繰越受、新受(引換ノ爲ニスル提供ヲ含ム)、下戻及處分拂等ニ區分シ記入スヘシ

四　繰越受入ノ記入ヲ爲ス場名ニハ擔保ノ保管區分、證書ノ日付、證書ノ番號、擔保物件名、受、債權ノ金額、收入未濟額、納付期限及備考ノ各欄ニ各個別ニ前帳簿ヨリ其ノ儘移記スヘシ但シ債權金額欄ハ十件以上ノ繰越アル場合ニハ總額ヲ以テ繰越シ其ノ次行ニ內譯トシテ各個別ノ記入ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘地ヲ存シ收入額末ハ最後ノ納期日迄ハ前帳簿ニ之ヲ記入シ滿期ノ翌日ニ於テ總括繰越ノ內譯トシテ朱書ヲ以テ收入濟額ハ其ノ合計ヲ、收入未濟ノモノハ各個別ニ金額、納付期限ヲ記入整理スルコトヲ得

五　受拂顚末欄ニハ提供シタル據保カ下戻及處分拂ト爲リタルトキハ其ノ七日竝其ノ日付ヲ記入スヘシ

六　擔保ノ保管區分欄ニハ權利者寄託、官廳寄託、物品會計官吏(本府會計事務章程第百二十六條)、金庫名、甲種國債等ヲ記入スヘシ

七　證書ノ日付欄ニハ保管證書、供託受領證、甲種國債質權登錄濟通知書等ヲ日付ノ異ナル毎ニ又證書ノ番號欄ニハ保管證書、供託受領證及甲種登錄國債ノ記號番號ヲ記入スヘシ但シ物品會計官吏保管ノ場合ハ其ノ國債ノ記號番號ヲ記入スヘシ

八　擔保物件名欄ニハ擔保ノ名稱記號等ノ區分ニ從ヒ記入スヘシ

九　剩餘擔保價格欄ニハ據置擔保ニ便ルモノニ限リ記入シ擔保價格カ債券ニ對シ不足スルニ至リタルトキハ其ノ不足額ヲ朱書スヘシ

十　債權ノ金額欄ニハ債權發行ノトキ、收入濟額ノ欄ニハ收入確認ノトキ直ニ其ノ額ヲ記入シ收入未濟額欄ニハ債權ノ現在額ヲ記入スヘシ

十一　收入顚末欄ニハ債權カ收入又ハ缺損ト爲リタルトキ其ノ旨竝其ノ日付ヲ記入シ又收入未濟ノモノヲ翌年度ノ帳簿ニ繰越シタルモノニ付テハ本欄ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

十二　第三者ヨリ提供シタル據置擔保ハ之ヲ當該債務者ノ口座ニ記入シ尙其ノ旨竝ニ提供者ヲ備考欄ニ記入スヘシ

十三　毎月末日ニ於テ擔保ノ受拂高、債權ノ發生金額、收入濟額其ノ他ノ月計及累計ヲ爲スヘシ

第三十五號樣式ノ一　物品出納簿

品名

年月日	摘要	受						拂						現在		備考
		越	買入	保管換	雜件	計	亡失	賣拂	保管換	雜件	計	平均單價	數量	價格	賣拂差減	
		數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	

備考

一　本樣式ハ第一類、第二類、第三類、第五類、第七類、第十一類及第十二類物品ニ適用ス

二　第一類乃至第三類ハ現在ノ欄平均單價竝備考ノ欄賣拂差增減ヲ削ル

三　第五類ハ受ノ欄「越」ヲ「越又ハ生產」ニ、拂ノ欄「亡失」ヲ「生產ノ爲」ト改メ現在ノ欄「平均單價」ヲ削ル

四　第六類ハ受ノ欄「越」ヲ「越又ハ生產」ニ、「買入」ヲ「請拂費」ト改メ拂ノ欄以下前號ニ同シ

五　第七類ハ拂ノ欄以下前號ニ同シ

六　第十一類ハ拂ノ欄「亡失」ヲ「消耗」ト改メ備考ノ欄賣拂差增減ヲ削ル

七　第十二類ハ拂ノ欄「亡失」ヲ「消耗」ト改メ現在ノ欄平均單價竝備考ノ欄賣拂差增減ヲ削ル

第三十五號樣式ノ二　物品出納簿

品名		稱呼單位	

年月日	摘要	受												拂																備考	
		越又ハ買入		生產		保管轉換				雜件		計		生產ノ爲		消耗		保管轉換				雜件		計		現在					
						管外		管內										管外		管內											
		數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	平均單價	數量	價格	賣却差增減		

備考

一　本樣式ハ第四類、第八類、第九類及第十類物品ニ適用ス

二　第四類及第八類ハ拂ノ欄「消耗」ヲ「賣拂」ト改メ現在ノ欄「平均單價」ヲ削ル

三　第九類及第十類ハ備考ノ欄「賣拂差增減」ヲ削ル

四　保管轉換ノ欄ハ管外管內ニ區分セサルコトヲ得

第三十六號樣式　備品現在高內譯簿

品名		單位稱呼	

年月日	摘要	番號	供用					在庫	合計	備考
			何課	何課	何工場	何々	計	累計		

第三十七號樣式ノ一　第何類物品出納簿

品名　　單位稱呼

年月日	物品出納命令官印	受 數量	受 價格	拂 數量	拂 價格	現在 供用	現在 供用專用	現在 在庫計 數量	現在 在庫計 價格	摘要	物品會計官吏印
			圓		圓				圓		

第三十七號樣式ノ二　第何類物品出納簿

品名　　單位稱呼

年月日	物品出納命令官印	受 數量	受 價格	拂 數量	拂 價格	現在 平均單價	現在 在庫計 數量	現在 在庫計 價格	摘要	物品會計官吏印	受領者印
			圓		圓	錢		圓			

- 出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額及記載事項ノ訂正方等ニ關シ大正十一年五月大藏省令第四十三號ヲ以テ左ノ如ク定メラレタリ

會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件（大正十一年五月大藏省令第四三條）

會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條　會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額其ノ他ノ數量ニシテ「一」「二」「三」「十」「廿」「卅」ノ數字ハ「壹」「貳」「參」「拾」「貳拾」「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

第二條　會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ノ記載事項ニ付訂正挿入又ハ削除ヲ爲サムトスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位前項ニ規定スル諸書類帳簿ノ記載事項ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス

ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス但シ金錢又ハ物品ノ受授ニ關スル諸證書ノ數字ハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得ス數字以外ノ事項ニ付訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ作製者之ニ認印スルコトヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年大藏省令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

第二節　收支計算

朝鮮ニ於ケル專賣ニ關スル會計ハ前節第一款ニ述フルガ如ク作業會計ト爲サズシテ本府ノ一般會計ニ包含セシメタル結果內地ニ於ケルガ如ク複式ニ依リ毎日計算ヲ爲サザルヲ以テ年度締切直後一見事業成績ヲ明瞭ナラシムルコト能ハズ斯テハ事業經營上諸般ノ改善進步ヲ圖リ製品原價ノ減少ヲ期シ難キノミナラズ會計檢査院ヨリ計算證明規程第三十五條ノ規定ニ依リ事業成績ヲ知悉スベキ專賣事業ニ對スル貸借對照表、損益計算書、資本金額表及資本現在調書等ノ提出方ヲ要望セラルルニ至リタルヲ以テ勘カラザル手數ヲ要スルモ年度締切出納閉鎖後ニ於テ帳簿ノ締切ヲ爲シ現在單記式帳簿ヲ其ノ儘利用シ此等ノ事蹟ヲ知悉スルコトヲ得ル事蹟ヲ報告セシムルコトトシ大正十四年十二月專賣第一四〇六號ヲ以テ創業當初ノ年度ヨリ大正十三年度迄ノ分ハ翌年五月末日迄ニ大正十四年度以降ノ分ハ翌年五月末日迄ニ收支計算ニ關スル左ノ書類ヲ各支局長ヨリ提出セシムルコトトセリ

貸借對照表

損益計算書

專賣收入內譯報告書

官有物貸下料及雜收入內譯報告書

過誤納金內譯報告書

經費支出額內譯報告書

煙草回送及保管費支出額明細書

經費支出額內譯報告書附屬添附書

經費支出未濟額內譯報告書

工事費分割拂內譯報告書

過年度支出內譯報告書
過誤拂金內譯報告書
官有財產資本價格增減報告書
物品資本價格受拂報告書
製造煙草半製品資本價格報告書
物品保管轉換受拂內譯報告書
右收支計算書類提出方ニ關スル通牒左ノ如シ

收支計算書類提出方ニ關スル件（大正十四年十二月二十六日專庶第一四〇六號　支局長宛　局長）

專賣事業別收支計算書類別紙書式ニ依リ調製ノ上自大正十年度至大正十三年度分ニ付テハ大正十五年三月末日迄、本年度以降ノ分ニ付テハ翌年五月末日限無遲滯報告相成度及通牒候也

追テ本件ハ收支ノ事績ヲ明ニスルト共ニ事業經營上製產ノ各要素及各工程ニ於ケル能率ヲ高メ運ヲ製品原價ノ減少ヲ企圖シ以テ專賣事業ノ活動ヲシテ可成經濟的ナラシメ將來ノ施設改善ニ資セムトスルモノニ有之候條其ノ御含ミヲ以テ調查上不歩手數ヲ要スルコトトハ存候ヘ共特ニ提出期限ヲ遲延セサル樣精密御調查ノ上順次調查濟年度ノ分ヨリ提出相成度（京城及平壤支局長ニハ向本年度以降本局ノ直轄トナリタル出張所ノ大正十三年度以前ニ對スル計算ハ舊所轄支局ニ於テ之ヲ調查セラルル義ト了知相成度）特ニ申添候

第一號書式

大正何年度何々事業貸借對照表

一　資　產　ノ　部（借　方）

區別	金額	摘要（解疏）
何圓		
二　官有財產		
土地		年度末現在資本價格ヲ計上スヘシ
土地附屬工作物		
建物		
建物附屬工作物		
建物附屬機械		
船舶及附屬具		
三　物品		
第一類　甲種備品		同上
第二類　乙種備品		
一　大正九年度末現在代金收入濟現實拂價格未渡	圓	專賣局創設前ニ於ケル舊本府所轄廳時代ニ於テ實渡代金收入濟ノモノニ對シ專賣局設置後現品ヲ引渡シタルモノアルトキハ引渡ノ年度ニ於テ當該實拂價格ヲ從前歲入濟ノ廳別ニ計上スヘシ

區別	金額	摘要（解疏）
第三類　丙種煙品	圓	
第四類　葉煙草		
第五類　人參		
第六類　靈		
第七類　阿片		年度末現在資本價格ヲ計上スヘシ
第八類　製造煙草		
第九類　材料素品		
第十類　機械運轉用品		發送元現品拂出登記濟ノモノニシテ回送先受入未濟ノモノアルトキハ發送元ニ於テ當該類別ニ依リ年度末現在資本價格ヲ計上スヘシ
四回送中物品		
第何類　々何		
五半製品		製造煙草半製品ノ年度末現在資本價格ヲ計上スヘシ
六保管換無償拂出物件　資本價格		大正十年度以降保管轉換セル物件（第十一、第十二類物品ヲ除ク）ノ資本價格總額ヲ回送先別ニ計上スヘシ但シ當年度末ニ於ケル回送中物品ニ付テハ別項回送中物品欄ニ區分計上スヘシ

	本局	何支局	何廳	七方現金先受入物件當拂出　賣拂價格	本局	何支局	八現品引渡濟代金未收入　賣拂價格	第何類　々何	本局	何支局	九物件先方受入現金當方拂出　資本價格	本局	何支局
				內譯　資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯　資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯　資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯　資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯　資本價格…… 賣拂差增（△減）……					
				專賣官署相互間ノ保管轉換ニシテ受拂廳別ニ所屬事業別ノ整理區分ヲ異ニスルトキハ欄外ニ其ノ內譯ヲ掲クヘシ									
					大正十年度以降拂出物件ニ對シ先方ニ於テ代金收入ニ係ル賣拂價格ノ總額ヲ先方別ニ計上スヘシ								
							調定ノ有無ニ拘ラス年度末現在額ヲ歲入廳ニ於テ類別物品每ニ計上スヘシ						
											大正十年度以降先方ニ於テ納入ヨリ直接受入タル資本物件ニ對シ支出シタル總額ヲ先方別ニ計上スヘシ			

區別	金額	摘要（解疏）
一〇 工事費內渡金	圓	翌年度ニ跨ル工事費ノ既濟部分ニ對スル內渡金（直營工事ニ在リテハ完成前ノ支出濟總額）總額ヲ支出科目別ニ計上スヘシ但シ會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ據ルモノニシテ完成後資本價格ニ受入ルヽモノニ限ル
款何 々		
項何 々		
目何 々		
一一 過誤拂金		大正十年度以降ノ過誤拂金ニ對スル未回收現在額（前渡金概算渡ノ要返納額ヲ含ム）ヲ支出科目ニ計上スヘシ
款何 々		
項何 々		
目何 々		
一二 先方負擔金當方支出額		先方ノ負擔ニ屬スル債務ニ對シ代位辨濟セル大正十年度以降ノ總額ヲ先方別ニ計上スヘシ（例ヘハ諸支出金其ノ他保管換物品運搬費等ノ如シ）但シ先方ニ於テ資本價格ニ受入整理スヘキモノニ付テハ第九項物件先方受入現金當方拂出資本價格ノ區分ニ依ル
本局		
何支局		
何廳		
一三 煙草專賣創業公債諸費交付金		
物件補償價格ト交付公債額面トノ差金		
印刷工場買收金ニ對スル分		
專賣令第四十三條及第四十四條ニ依ル徵收物件補償金ニ對スル分		
專賣令第四十七條第一項及第二項並同令第四十八條ニ依ル公債交付金		
資本價格ニ受入レサル徵收物件補償價格		煙草專賣創業ノ際徵收セル物件中直接第十一類若ハ第十二類物品ニ受入レタルモノノ類ニシテ資本價格ノ整理ヲ略シタルモノアルトキハ其ノ價格ヲ計上スヘシ
一四 先方負擔當方支出公債證券		先方ノ負擔ニ屬スル公債ノ大正十年度以降ニ於ケル發行總額ヲ先方別ニ計上スヘシ
何支局		
一五 煙草專賣創業諸費		煙草專賣創業費豫算各年度支出濟額中資本價格ニ受入額及內渡金、過誤拂金先方負擔金當方支出額等ノ項ニ區分計上スルモノヲ差引タル諸費ヲ年度別ニ計上スヘシ但シ大正十五年度以降ノ調書ハ年度別ヲ略シ總額ノミヲ揭クヘシ（本豫算ハ公債事業費タル關係上當年度限リノ損失ト看做サス特ニ計上スヘキモノトス）
大正十年度		
何年度		
一六 鹽田擴張諸費		煙草專賣創業諸費ノ解疏ニ準ス
大正九年度迄		

區別	金額	摘要	（解疏）
大正十年度	圓		
何年度			
一七 收入濟總額			本府特別會計所屬歲入金一切ノ收入濟總額ヲ大正十年度以降年度別ニ計上スヘシ但シ大正十五年度以降ノ調書ハ前二ケ年度分ヲ年別トシ其ノ以前ノモノニ付テハ何年度ト略スヘシ
大正十年度			
何年度			
一八 前年度迄損失金			年度別ニ計上スヘシ但シ大正十五年度以降ノ調書ハ前三箇年度分ヲ年度別トシ其ノ以前ノモノニ付テハ何年度迄ト略スヘシ
大正十年度			
何年度			

內譯區分	專賣收入	官有物貸下料	雜收入 過誤拂金回收	雜收入 其ノ他	小切手支拂未濟金收入	何々	計
收入正當額	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
要拂戻過誤納金							
收入正當額							
受拂戻過誤納金							
收入正當額							
要拂戻過誤納金							

資產小計			
本年度損失金			負債小計額ニ比シ資產小計額不足スルトキハ其ノ差額ヲ計上スヘシ（損益計算書ト一致スルヲ要ス）
總計			負債ノ部總計ト一致スルモノトス

二　負債之部（貸方）

區別	金額	摘要	（解疏）
一 大正九年度末現在工事費內渡金越高	圓		大正九年度以前ヨリ大正十年度ニ跨ル工事費ノ既濟部分ニ對スル內渡金（直營工事ニ在リテハ完成前ノ支出濟總額）總額ヲ支出科目別ニ計上スヘシ但シ會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ據ルモノニシテ完成後資本價格ニ受入レタルモノニ限ル
款鹽田擴張費			
款鹽田築造費			
款營繕費			
款何々			
二 大正九年度末現在現品引渡濟代金未收入賣拂價格		內譯 資本價格…… 賣拂差增（△減）……	專賣局創設前ニ於ケル舊本府所轄廳時代ニ於テ現品引渡濟ノモノニ對シ專賣局設置後代金ヲ徵收シタルモノアルトキハ收入ノ年度ニ於テ當該

區別	金額	摘要（解疏）
何廳	圓	
		內譯　資本價格…… 　　賣拂差增（△減）……
三公債證券		
	資本價格ニ受入額　圓	
	何々諸費　圓	
	計　圓	煙草專賣創業ニ際シ公債ヲ以テ交付セシ補償金及交付金竝行政整理ニ因ル賜金等ノ交付公債額面金額ヲ計上スヘシ
印刷工場買收金		
標章專賣令第四十三條及第四十四條徵收物件補償金		
同令第四十七條第一項及第二項ニ依ル交付金		
同令第四十八條ニ依ル交付金		
何々		
保管換無償受入物件　資本價格		專賣局創設ニ依リ本府其ノ他ノ官廳ヨリ所管（保管）換引繼ニ係ル物件又ハ開廳後所管又ハ保管換ノ爲無償受入セシ物件ノ資本價格ヲ受入先別ニ計上スヘシ（第十一、十二類物品ヲ除ク）
本局		專賣官署相互間ノ保管轉換ニシテ受拂廳別ニ所屬事業別ノ整理區分ヲ異ニスルトキハ欄外ニ其ノ內譯ヲ揭クヘシ
何支局		

何廳		
五　現金當方受入物件先方拂出	資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯
本局	資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯
何支局	資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯
六　代金收入濟現賣拂價格品未渡	資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯
何々類第何々	資本價格…… 賣拂差增（△減）……	內譯
七　現金先方拂出物件當方受入　資本價格		
本局		
何支局		
八　過誤納金中要拂戻額		
何々項目款何々		
九　當方負擔金先方支出額		
本局		

大正十年度以降ノ收入金ニ對シ先方ニ於テ引渡ニ係ル物件ノ賣拂價格ノ總額ヲ先方別ニ計上スヘシ

大正十年度以降ノ賣渡ニ對スル當年度末現在額ヲ歲入廳ニ於テ類別物品每ニ計上スヘシ

大正十年度以降納入ヨリ直接受入タル物件ニ對シ先方ニ於テ代金支出シタル總額ヲ先方別ニ計上スヘシ

大正十年度以降ノ過誤納金ニ對シ騰來拂戻ヲ要スル現在額ヲ收入科目別ニ計上スヘシ

大正十年度以降ノ總額ヲ先方別ニ計上スヘシ（例諸支出金其ノ他保管換物品運搬費等ノ如シ）

區別	金額	摘要	（解疏）
何支局	圓		
何廳			
一〇 當方負擔先方支出公債證券			大正十年度以降ノ總額ヲ先方別ニ計上スヘシ
何廳			
本局			
何廳			
一一 小切手支拂未濟金收入			大正十年度以降ノ總額ヲ計上スヘシ
一二 未拂經費		內譯 資本價格ニ受入額…… 諸費……	當該科目別ニ計上スヘシ
款 何々 項 何々 目 何々		內譯 資本價格ニ受入額…… 諸費……	
一三 大正九年度迄鹽田擴張諸費			鹽田擴張費豫算大正九年度迄支出濟額中資本價格ニ受入額及工事費內譯渡金ヲ差引計上スヘシ（資産ノ部一六項ト照合スヘシ）
一四 支出濟總額		資本價格受入額 圓	大正十年度以降本府特別會計所屬歲出金一切ノ支出濟總額ヲ款項別及資本價格受入其ノ他ノ區分別ニ計上スヘシ
		工事費內渡金 圓	
		過誤納金拂戻額 圓	
		要回收過誤拂金 圓	
		先方負擔當方支出金額 圓	
		何々 圓	
		諸費 圓	
		計 圓	
款 煙草專賣創業費 項 創設費			

區別	金額	摘要	（解疏）
款 煙草專賣創業費 項 建築及設備費			
款 專賣局 項 傭給			
款 專賣局 項 事業費			
款 專賣局 項 損害費			
款 營繕費 項 新營及設備費			
款 鹽田擴張費 項 鹽田擴張費			
款 鹽田築造費 項 鹽田築造費			
款 災害費 項 鹽田堤防其他水害復舊及新營費			
款 災害費 項 總督府及專賣局廳舍其他火災應急費			
款 何々 項 何々			
一五 前年度迄利益金			年度別ニ計上スヘシ但シ大正十五年度以降ノ調

第二號書式　備考　本表ハ大正十年度以降各年度別ニ依リ煙草、塩及樟腦別ニ調製スヘシ

一　收入ノ部　大正何年度何々事業損益計算書

區別	金額	摘要	內譯區分	收至年度入濟代分金	收本年度入濟代分金	收翌年度入代分金
賣拂差額		賣拂價格				
賣拂八四類差額物品		賣拂差額				
賣拂物品		賣本價格				
		賣拂價格				

（附記）
度別ニ依ル各內譯ヲ摘要ニ掲ケヘシ
賣拂差額ヲ物品類別毎ニ計上スル代金ノ收入年度
歲入所屬年度及現金ノ收入未收ニ關ラス現品拂出官署ニ於テ本年度現品引渡濟ノモノニ對スル

區別	總計	本年度利益金	負債小計	何年度	大正十年度	摘要	（附記）
金額							當ハ前三箇年度分ヲ年度別トシ其ノ以前ノモノニ付テハ何年度迄ト略スヘシ
						賣差額ヲ計上スヘシ（損益計算書少キトキハ其ノ要素ノ部總計トー致スルヲ要ス）	

區別	六官有下有料物	何々土地	五及物品組合ニ受ケ官有財産價格	第何類々何	四物品製作無償受入價格	三製本價格	第何類々何	二品生產本受入價格	第何類々何	收至年度入代分金	收本年度入濟代分金	收前年度入濟代分金
逸拂價金及												
拂官下有代物												
六官有料物												
何々土地												
五及物品組合ニ受ケ官有財産價格												
第何類々何												
四物品製作無償受入價格												
三製本價格												
第何類々何												
二品生產本受入價格												
第何類々何												

（附記）
官有財產ノ仕譯區分別ニ計上スヘシ（官給ノ工事材料價格ヲ含ム）
第何類物品ノ類別毎ニ計上スヘシ
本年度製作無償受入ニ係ル製本價格ヲ第一類乃至第十類物品ノ類別毎ニ計上スヘシ
本年度生產受入ニ係ル製本價格ヲ第一類乃至第十類物品ノ類別毎ニ計上スヘシ
上年度末ニ於ケル製造標準半製品ノ製本價格ヲ計上スヘシ

區別	金額	摘要（解疏）
七雜收入		
歳入還付及收金	四	
拂戻ヲ要セサル過誤納金		
預金利子		
何々		
計		
八支出金錢位未滿切捨額		厘位未滿ノ端數ヲ附シ資本價格ニ受入タルモノノ支出金ニ對スル該當額ヲ内譯別ニ計上スヘシ
第何類々何		
何々		
合計		

二　支出ノ部

區分	金額	摘要（解疏）
一諸費支出額	四	本年度歳出豫算支出濟額中損益ノ計算ニ關セサルモノノ支出金ニ對スル該當額ヲ内譯別ニ計上スヘシ 左ノ費額ヲ差引計上スヘシ 一　公債支拂ニ係ル煙草專賣創業費及鹽田擴張費ニ付テハ支出全額

内譯區分	資拂差減	資本價格	資拂價格	摘要（解疏）
二諸費未拂額				
三當方負擔金先方支出額				其他ノ一般豫算ニ付テハ資本價格ニ受入額工事費内渡金、過年度支出額、拂戻金要回收過誤拂金、先方負擔金當方支出額等
四第四類乃至第八類物品資拂差減				前項ニ準ス
前年度代金收入濟分	四			賠償及訴訟費、死亡、退官賜金其ノ他保管換物品逐撥費中資本價格ニ受入レサル額等當方ノ負擔ニ屬スル經費ヲ先方ニテ支出セル額ヲ計上スヘシ
本年度代金收入濟分		四		歳入所屬年度及現金ノ收入、未收ニ關ラス現品拂出官署ニ於テ本年度現品引渡濟ノモノニ對スル資拂差減額ヲ物品種別毎ニ計上シ代金ノ收入年度別ニ依ル各内譯ヲ摘要ニ掲クヘシ
翌年度代金收入分		四		
五生産拂出物品資本價格				第十一、十二類ヲ除ク
六雜件無償拂出物品資本價格				第一類乃至第十類物品ノ類別毎ニ計上スヘシ
第何類々何				

區別	金額	摘要	（解疏）
第何類　何々	圓		第十類物品（機械運轉用品）ノ消耗拂ヲ含ム
七　減失拂下無償讓渡又ハ物品ニ組替　官有財產資本價格			官有財產ノ仕譯區分別ニ計上スヘシ
土地			
何々			
八　物件資本價格遞減			官有財產ノ仕譯區分及物品類別每ニ計上スヘシ
建物			
何々			
第何類　何々			
九　公債支辨諸費			行政整理ニ因ル賜金公債（大正十一年勅令第四百七十九號竝大正十四年法律第二十四號參照）其他諸費ニ屬スル公債ノ額面金額ヲ計上スヘシ但シ煙草專賣創業ニ關スル公債支辨ノ諸費ハ貸借對照表資產ノ部一三項ニ依ル
一〇　收入金錢位未滿切捨額			資本物件ノ賣拂代金錢位未滿ノ端數切捨額ヲ計上スヘシ
第何類　何々			
何々			
合計			

三　差引損益

區別	金額	摘要	（解疏）
本年度利益（損失）金	圓		支出計金額ニ比シ收入計金額多キトキハ其ノ差額ヲ利益金トシ少ナキトキハ差額ヲ損失金トス

備考　本書ハ大正十年度以降各年度別ニ依リ煙草、蔘業及鹽業別ニ調製スヘシ

（以下內譯省略）

本局ニ於テ右書類ノ提出ヲ受ケタルトキハ詳細內容ヲ審査シ不備ノ點アルトキハ夫々照覆ヲ重ネテ補修セシメ更ニ全管ノ總括ヲ爲シ之ニ依リ事業成績ノ良否ヲ判定シ又事業經管上製產各要素ノ改善、生產品賣渡價格ノ資料及各工程ニ於ケル能率ノ增進ヲ企圖スル等努メテ事業ノ經營ヲ合理的ナラシメ將來ノ施設改善ニ資シツツアリ

第二章　歲入歲出

本章ハ收入支出ニ關スル規程ノ總括ナリ

歲入ハ專賣局ニ於ケル歲入金收入ニ關スル取扱手續ニ關シ歲出ハ事業ヲ經營スルニ當リ豫算ノ經理及經費支出ノ手續竝仕拂整理ノ方法ニ關シ記述スベキ事項ノ分類ナリ

給與ハ規程ニ基キ一定ノ職分ニ對シ金錢物件ヲ給與スルモノニシテ俸給、手當、旅費、被服、文具等ノ支給是ナリ給與ハ素ヨリ支出ナリト雖其ノ支給ニ關シ特殊ノ規程ヲ存シ一般ノ支出ト其ノ趣ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ分チテ別節ト爲シタリ

第一節　歳入

歳入ハ專賣ノ實施ニ依リ收入スル所ノ一切ノ專賣收入ヲ云フ

煙草專賣施行當初ノ專賣總收入ハ一箇年二千萬圓內外ナリシガ其ノ後漸次增加シ昭和九年度ニ於テハ實ニ四千七百餘萬圓ト爲レリ

右ノ如クニシテ其ノ收入額鮮少ナラザルノミナラズ財政ノ確立ト取扱ノ正確ヲ期スル要アルガ故ニ之ヲ整理スル爲一定ノ方法ナカルベカラズ而シテ國家ノ收入ヲ整理スル手續ハ固ヨリ一定ノ規矩アリ朝鮮ニ於ケル專賣ニ關スル會計ハ前章第一節第一款ニ述ブルガ如ク本府ノ一般會計中ニ包含セシメテ經理スルコトト爲シタルヲ以テ本節ニ於テ其ノ收入ノ方法及取扱手續等ヲ述ベントス

第一款　歳入取扱規程

本局ニ於ケル收入規程ハ大藏省所管諸收入收納取扱規程ニ準據スルモ歳入取扱ニ關シ更ニ其ノ細則ヲ設クルノ必要アルヲ以テ本府會計事務章程及局會計事務取扱規程ヲ以テ其ノ細則ヲ定メタ

大藏省所管諸收入收納取扱規程左ノ如シ

諸收入收納取扱規程（明治三十三年四月大藏省訓令第二七號　其ノ後數回改正セラル）昭和十年三月末日現在）

第一條　警視廳、北海道廳、府縣、稅關、稅務監督局及稅務署ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規定ニ依リ取扱フヘシ但シ監獄ノ收入ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　歳入徵收官諸收入ヲ徵收セムトスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以內ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納入ニ對シ別記樣式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納入ヲシテ收入官吏ニ卽納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス

第三條　歳入徵收官ハ其所屬部署長、官立學校長及北海道廳所管鐵道各驛主席官吏ニ委任シテ諸收入收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條　納入告知書ハ納入ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添附セシムヘシ

第五條　歳入徵收官ハ納金ヲ其ノ期限內ニ納付セサル者アルトキハ直ニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

第六條　削除

第七條　歳入徵收官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歳入金月計突合表ヲ添ヘ稅務署長ハ翌月五日マテニ其他ハ翌月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

稅務署長ノ提出スル徵收報告書ハ稅務監督局ヲ經由スヘシ

稅務監督局長前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添附シ其ノ月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

第八條　諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第九條　本規程中歳入徵收官ニ關スル規程ハ北海道支廳長及北海道營林區署長ニ準用ス

北海道支廳長及北海道營林區署長ノ提出スル徴收報告書ハ北海道廳ヲ經由スヘシ

北海道廳長官前項ノ報告書ヲ受ケタルトキハ徴收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ大藏省ニ送付スヘシ

（別記）

備考

一　領收證書及報告書用紙ノ納入金額納入年度種類等ハ總テ納入告知書發行廳ニ於テ記入スルモノトス

二　歳入徴收官ト同一官廳内ニ在ル收入官吏ノ領收濟報告ハ納入告知書ニ領收濟年月日ヲ記入捺印シテ之ニ代用シ報告書ヲ省略スルコトヲ得

用紙適宜　縦四寸五分横三寸三分ノモノ二枚　縦四寸五分横二寸五分ノモノ一枚接續

納入告知書

第「何」號

「某」年度「何」會計

「何」郡市「何」町村「何某」納

經常（臨時）

「何々（款）」

「何々（項）」―「何々（目）」

大藏省主管

「取扱廳名」

歳入徴收官「官氏名」

一金何程

「但何々」（收入ノ目的ヲ記載ス）

右「何」年「何」月「何」日限收入官吏官氏名又ハ（日本銀行）「何」店へ納付スヘシ

大正「何」年「何」月「何」日

納入告知書發行者　官氏名㊞

報告書

第「何」號

「某」年度「何」會計

「何」郡市「何」町村「何某」納

經常（臨時）

「何々（款）」

「何々（項）」―「何々（目）」―大藏省主管　取扱廳名

一金何程

右領收濟ニ付報告候也

大正「何」年「何」月「何」日

「歳入徴收官氏名宛」

「收入官吏官氏名」㊞又ハ「日本銀行何店」㊞

領收證書

第「何」號

「某」年度「何」會計

「何」郡市「何」町村「何某」納

「取扱廳名」

一金何程

「但何々」

右領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

「收入官吏官氏名」㊞又ハ「日本銀行何店」㊞

歳入調定濟額ニシテ翌年六月末日迄ニ收入整理ヲ了セザルモノノ取扱方ニ關シ明治二十四年大藏省訓令第六十八號及明治二十五年大藏省訓令第二十五號ヲ以テ左ノ如ク定メラレアリ

歳入調定濟額ニシテ翌年六月末日マデニ收入整理ヲ了セザルモノ取扱方

（明治二十四年八月　其ノ後改正セラル
大藏省訓令第六八號　昭和十年三月末日現在）

各年度歳入調定濟額ニシテ翌年度六月三十日マテニ收入整理ヲ了セサルモノノ取扱方左ノ通リ心得ヘシ

第一　甲年度ニ調定シタル歳入金ニシテ乙年度六月三十日迄ニ收入ヲ了セサルモノハ之レヲ甲年度ノ收入未濟トシテ共金額ニ繰越スヘシ

第二　甲年度ト記載シタル納額告知書ヲ以テ乙年度七月一日以後現金ヲ金庫ニ納入スルモノアルトキハ金庫ハ之レヲ乙年度歳入トシテ受領シ其納額告知書及ヒ之レニ接續セル領收證及ヒ通知書ニ乙年度ノ押印ヲ爲スヘシ

第三　歳入徴收官ニ於テ金庫ヨリ乙年度七月一日以後甲年度納額告知書ニ依リ納付シタル歳入金領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ

收入官吏ニ於テ乙年度七月一日以後甲年度納額告知書ニ依リ歳入金ヲ領收シタルトキハ之レヲ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ

第四　歳入徴收官第一項ノ繰越ヲ爲シタルトキハ左ノ書式ニヨリ各年度歳入調定濟收入未濟翌年度繰越額計算表ヲ製シ之レヲ歳入ノ事務管理廳ヘ差出スヘシ

第五　歳入徴收官ニ於テ前項ノ計算書ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付スルトキハ同時ニ甲年度所屬徴收簿ノ締切ヲナシ而シテ乙年度徴收簿當該科目調定濟額ノ欄ヘ前年度ヨリ繰越トシテ其員數ヲ記載スヘシ

但シ收入官吏ニ於テ甲年度所屬ノ歳入金ヲ乙年度六月三十日以前ニ受領シ之レヲ七月一日以後金庫ヘ拂込ミタルモノアルトキハ金庫ハ之レヲ乙年度所屬トシテ取扱フヘシ

第六　出納官吏現金取扱規則第十七條ニ依リ收入官吏ヨリ送付セル甲年度收入金ノ監守證ニ對シ二十二年大藏省訓令第七十三號第二項ニ依リ金庫ヨリ派出シ乙年度七月一日以後取付ヲ爲シタル現金及ヒ前項但書ノ收入金ハ金庫ニ於テ之レヲ乙年度ノ歳入ニ組込ミ歳入金各廳内譯簿ハ別ニ口座ヲ設ケ冒頭主管廳ノ次ヘ「甲年度所屬」ト記入シ又歳入金月計對照表ハ別紙ニ調製シ廳名欄内主管廳ノ次ヘ「甲年度所屬」ト記載スヘシ

但シ本項ノ收入金ハ各金庫毎月出納内譯書各金庫毎月出納計算書及毎年度出納計算書ニ於テモ「甲年度所屬」トシ別項ニ揭載スヘシ

第七　前項ノ場合ニ於テ金庫ヨリ派出スル受取人ノ携帶スヘキ領收證書年度欄内ニハ乙年度トシ該證書適宜ノ場所ヘ甲年度所屬ノ分ト記入スヘシ

但シ本項ノ領收證書ヲ收入官吏ヘ交付スルハ乙年度七月一日以後ニ於テ現金ヲ領收スル場合ニ限ルモノトス

某年度歳入經常部（臨時部）
調定濟額收入未濟翌年度繰越額計算表
明治何年六月三十日

科目			繰越額		事由
款	項	目	圓	錢	
何	何	何	0	0	何々ノ事由ニ因リ收入未濟ニ付繰越
		何	0	0	何々ノ事由ニ因リ同上
	何	小計	0	0	何々
		何	0	0	
		合計	0	0	
		明治何年何月何日			
		何廳歳入徴收官官氏			名圖

收入金繰越手續（明治二十五年四月　其ノ後改正セラル　大藏省訓令第二五號　昭和十年三月末日現在）

明治二十四年大藏省訓令第六十八號第一項ニ依リ乙年度ノ調定濟額ニ繰越シタル歲入金ニシテ乙年度三月三十一日迄ニ收入ヲ了セサルモノハ之ヲ丁年度ヨリ以下順次ニ繰越スヘシ

前項繰越ヲナシタルトキハ同訓令第四項ニ準シ計算表ヲ製シ歲入事務管理廳ニ差出スト同時ニ前年度所屬徵收簿當該科目摘要欄內ヘ型年度繰越トシ其員額ヲ調定濟額ノ欄ヘ朱記スヘシ

乙年度三月分徵收報告書ニ於テハ調定濟額本月分欄內ヘ丙年度ヘ繰越スヘキ員額ヲ朱書シ備考欄內ヘ其ノ事由ヲ詳記スヘシ但本年三月分收入報告書調製濟ノモノハ四月分報告書ニ於テ本項ノ通調製スヘシ

同訓令第二項甲年度ト記載セル納額告知書ニ依リ乙年度經過後金庫又ハ收入官吏ニ於テ現金ヲ收入シタルトキハ其ノ收入シタル日ノ屬スル年度ノ歲入トシ金庫ハ納額告知書領收證書及通知書ニ相當年度ノ押印ヲナスヘシ

同訓令第六項監守證ニ對シ乙年度經過後現金取付ヲナシタルトキハ其ノ取付ヲナシタル日ノ屬スル年度ノ歲入ニ組込ミ該六項ニ規定スル手續ヲ以テ整理スヘシ

繰越計算表（明治三十一年二月改正　明治三十六年大藏省訓令第一二號　大藏訓令第三號）

明治二十五年大藏省訓令第二十五號ニ依リ調製スル繰越計算表ハ左ノ樣式ニ據ルヘシ

（紙質略）

（表紙）

歲入繰越計算表

明治何年度歲入繰越計算表（第何號）

科目		元年度	歲入濟額	收入未濟額ノ內譯	
款	項	目		金額	事由
地租	地租	元年度	圓錢厘 30000	圓錢厘 10000	何々ニヨリ收入未濟
		〃	20000	0	
		二年度	50000	10000	
		三年度	0	0	
	地租計		50000	10000	
	雜種地租	元年度	0	0	
		二年度	0	0	
		三年度	0	0	
	雜種地租計		0	0	
	合計		50000	10000	
雜收入	雜收入	元年度	100000	30000	何々ニヨリ收入未濟
		二年度	50000	10000	
		三年度	0	0	
	雜收入計		150000	40000	
合計			200000	50000	

明治何年　何月何日

何縣歲入徵收官官氏名　㊞

本府會計事務章程及局會計事務取扱規程中歲入ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月　其ノ後屢次改正セラル　本府訓令第四二號　昭和十年三月末日現在）

第三章　歲入

第五十條　稅外諸收入ヲ取扱フ歳入徵收官又ハ歳入徵收事務分掌者會計規則第三十條ニ依リ歳入ヲ調定シタルトキハ十五日以内ニ於テ適當ノ納期ヲ定メ納入日本銀行本店支店又ハ代理店所在地ニ在ルトキハ明治三十三年大藏省訓令第二十七條諸收入收納取扱規程ノ樣式ニ準シ、納入朝鮮内ニ於テ日本銀行代理店所在地外ニ在ルトキハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則所定ノ書式ニ依リ納入告知書ヲ發スヘシ

遠隔ノ地ニ在ル納入ニ對シ納入告知書ヲ發スル場合ニ於テハ前項ノ期限ニ相當斟酌ヲ加フルコトヲ得

第五十一條　歳入徵收事務分掌者ニ於テ發スル告知書又ハ其ノ廢名ヲ歳入徵收官在勤廳名ノ左側ニ記入スヘシ

第五十二條　朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則ニ依リ作製セル納稅告知書、納入告知書及納付書ノ用紙ハ左ノ區分ニ依ル

一　朝鮮總督府特別會計ニ屬スルモノハ　白　色

二　一般會計ニ屬スルモノハ　青　色

第五十三條　削除

第五十四條　削除

第五十五條　（省略）

第五十六條　歳入徵收官又ハ歳入徵收事務分掌者ハ日本銀行代理店收入官吏又ハ遞信官署出納官吏ヨリ領收濟通知書（遞信官署出納官吏又ハ日本銀行代理店ノ領收濟通知書中收入官吏若ハ遞信官署主任出納官吏ノ拂込ニ係ルモノヲ除ク）又ハ領收濟報告書ヲ受ケタルトキハ關係帳簿ニ收入濟ノ登錄ヲ爲スヘシ

歳入徵收事務分掌者ノ取扱ニ係ル收入官吏ノ領收濟報告書及收入明細書、遞信官署出納官吏ノ領收濟通知書歳入金領收高月計通知書ハ當該歳入徵收事務分掌者ニ送付スヘシ

前二項ノ領收濟通知書又ハ領收濟報告書ハ各別ニ領收日付ニ依リ各月ニ區分シ其ノ表紙ニ金額ヲ記シ編綴シ置クヘシ

第五十七條　歳入徵收官又ハ歳入徵收事務分掌者ヲ置カサル廳ノ收入官吏納稅告知書又ハ納入告知書ニ依ラスシテ現金ヲ領收シタルトキハ第十二號書式ノ明細書及證明上必要ナル書類ヲ領收濟報告書ニ添ヘ所屬歳入徵收官又ハ歳入

第五十七條ノ二　遞信官署出納官吏ハ每月歳入金領收高月計通知書ヲ作リ之ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ

第五十八條　歳入徵收官又ハ歳入徵收事務分掌者遞信官署出納官吏ヨリ歳入金領收高月計通知書ヲ受ケタルトキハ第五十六條ノ領收濟通知書ニ對査シ其ノ符合ヲ認メタル上該通知書左方欄外ニ對査ヲ爲シタル者捺印ヲ爲シ保存スヘシ

歳入徵收官ハ遞信官署出納官吏ノ拂込ニ係ル歳入ニ付日本銀行京城代理店ヨリ領收濟通知書ヲ受ケタルトキハ其ノ月計ト前項ノ歳入月計通知書トヲ對査シ其ノ符合ヲ確カムヘシ

第五十八條ノ二　京城貯金管理所長ハ每月遞信官署出納官吏ノ領收ニ係ル歳入ニ付歳入金領收高對査表ヲ作リ之ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ

第五十八條ノ三　歳入徵收官前條ノ歳入金領收高對査表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上三日内ニ之ヲ京城貯金管理所ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

前項ノ場合ニ於テ稅務署ヨリ返付スルモノハ稅務監督局ヲ經由スヘシ

第五十九條　歳入徵收官又ハ收入官吏納稅告知書、納入告知書ニ依リ納入告知書納付書又ハ現金拂込書ニ記載シタル年度、所管、會計名及歳入徵收官口座ニ誤謬アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ郵便局所ニ納入又ハ拂込タル歳入金ニ係ルトキハ當初其ノ取扱ヲ爲シタル郵便局ヲ經由シ京城貯金管理所ニ、日本銀行代理店ニ直接納入又ハ拂込タル歳入金ニ係ルトキハ當初其ノ取扱ヲ爲シタル日本銀行京城代理店ヲ經由シ京城統轄店ニ第十三號書式ノ訂正請求書ヲ送付シテ之カ訂正ヲ請求スヘシ

京城貯金管理所出納官吏ハ前項ノ訂正請求書ニ依リ日本銀行京城代理店ニ對シ更ニ其ノ訂正ヲ請求スヘシ但シ五月三十一日迄ニ訂正請求ヲ爲シ得サリシモノニ付テハ該請求書ヲ返付スヘシ

前項但書ノ規定ニ依リ請求書ノ返付ヲ受ケタルトキハ大正十一年大藏省令第三十八號ニ依リ誤謬ノ儘據置整理ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條ノ二　削除

第六十條　削除

第六十一條　出納官吏事務規程第二十四條ノ現金拂込仕譯書ニハ日本銀行代理店ニ拂込タル分ト郵便局所ニ拂込タル分トヲ區分記載スヘシ

第六十二條　削除

第六十三條　歳入徴收事務分掌者ハ其ノ取扱ヒタル徴收事務ニ付毎月徴收報告書ニ準シタル報告書ヲ作リ第十二號書式ニ準シタル歳入明細書、現金受拂仕譯書及歳入金領收高月計通知書ヲ添ヘ翌月三日迄ニ歳入徴收官ニ提出スヘシ

第六十四條　歳入徴收官ハ毎月徴收簿ニ基キ會計ノ種別毎ニ大正十一年大藏省令第二十號所定ノ樣式ニ依リ徴收報告書又ハ現金拂込濟仕譯書ヲ調製シ歳入金月計突合表ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ稅務署ニ在リテハ稅務監督局ニ其ノ他ニ在リテハ直接本府ニ提出スヘシ

第六十四條ノ二　一般會計最終徴收報告書ニハ副本ヲ添附スヘシ

第六十五條（省略）

第六十六條　削除

第六十七條　削除

第六十八條　歳入徴收官毎年度收入未濟ニシテ翌年度ニ繰越スモノアルトキハ明治二十四年大藏省訓令第六十八號又ハ明治二十五年大藏省訓令第二十五號收入金繰越手續ニ依リ之ヲ取扱ヒ當該年度ニ於テ最終徴收報告書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第六十九條　前年度以前ニ係リ繰越額ニ付テハ左記ノ記載例ニ依リ明治三十一年大藏省訓令第十二號ノ歳入繰越額計算表ヲ作リ年度經過後十五日以内ニ本府ニ提出スヘシ

一　繰越額欄ノ繰越ハ前年度繰額計算表ニ掲ケタル翌年度ヘ繰越額ヲ掲記スヘシ

二　當該年度中ニ滯納處分ノ引繼引受其ノ事由ニ依リ增減シタル額及其ノ事由ハ元年度ノ欄中當該年度ノ下ニ墨書又ハ朱書スヘシ

第七十條ノ二　歳入徴收官ハ毎年三月末日迄ノ現況ニ依リ第十六號書式ノ二ノ一般會計所屬歳入現計表ヲ作リ四月五日迄ニ本府ニ提出スヘシ

第七十一條　歳入金過誤納拂戻其ノ他諸拂戻ノ必要アルトキハ道事實局、稅務監督局及稅關ノ管掌ニ係ルモノニ付テハ各其ノ支出官之カ拂戻ヲ爲シ其ノ他ノモノニ付テハ歳入徴收官ハ第十七號書式ノ歳入金拂戻要求書ヲ作リ權利者ノ請求書ヲ添ヘ本府支出官ニ提出スヘシ

前項ノ請求書ニシテ規定ノ事項ヲ具備シタルトキハ歳入徴收官ハ之ニ調査濟ノ旨ヲ附記證印シテ前項ノ拂戻要求書ヲ省略スルコトヲ得

第七十二條　稅外諸收入ニ屬スル不納額ニシテ明治四十四年法律第五十八號ニ依リ諸貸付金ニ編入アリタルトキハ稅外諸收入ノ不納缺損トシテ之ヲ整理スヘシ

第七十三條　削除

第七十四條　削除

第十二號書式ノ甲

年　月　日

何廳歳入徴收官宛

收入明細書

昭和　年度歳入經常（臨時）部何何（款）（項）（目）

一金何　程

內譯

種目	數量	單價	金額
		圓	圓

何廳收入官吏　官　氏　名　㊞

記載例

一　記載事項僅少ナルトキハ領収済報告書ノ裏面ニ該事項ヲ記載シ本書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第十二號書式ノ乙

（省略）

第十二號書式ノ丙

現金受拂仕譯書

區別		前月迄拂込未済額	本月中現金領収額	差引翌月越高	備考
歳入官吏		100000圓	100000圓	—	
	日本銀行代理店へ	—	100000圓	—	
	遞信官署へ	—	100000圓	—	
遞信官署出納官吏		—	100000圓	—	内百圓ハ歳入官吏ヨリ納入

第十二號書式ノ丁（削除）

第十三號書式

第　　號

日

書求請正訂項事金入歳

昭和　年　月

中御店理代　何

ハ又

（廳吏官納出所理管金貯京城）

（印名　氏　官官收徴入歳廳何）

（印名　氏　官吏官入收廳何）

也候度成相正訂通ノ項事正記下

項事正	項事載記現
度年二和昭	度年元和昭
	納税告知書（納付書ノ現金拂込書）
	大藏省
	朝鮮總督府特別會計
	何々郡廳
	昭和2年4月22日
	何代理店（何郵便局所）
	何某
	20圓000

年度	年度
納付書、告知書又ハ現金拂込書ノ別	
所管廳	
會計名	
取扱廳	
代理店又ハ郵便局所領収日附	
領収場所	
納入人又ハ拂込人名	
金額	圓

備考

一　現記載事項欄ハ當初納付書又ハ告知書等ニ記載シタル事項ヲ其ノ儘洩ナク掲記スヘシ

二　正事項欄ニハ訂正スヘキ欄ノミヲ掲記スヘシ他ハ空欄トスヘシ

三　領収場所ハ何代理店又ハ何郵便局（所）ト明記スヘシ

四　告知書等金額ノ一部ニ付年度訂正ノモノハ現記載事項欄金額ノ終尾ニ「ノ内」ト附記ノ上正事項ニ當ル金額

第五編　會計　第二章　歲入歲出　七〇〇

ヲ其ノ行ニ揭記スヘシ

五　郵便局所領收ノモノニ付テハ京城貯金管理所出納官吏宛ト爲シ領收シタル局所ヲ經由スヘシ

六　取扱廳更正ヲ要スルモノハ雙方ノ歲入徵收官連署調印スヘシ

七　京城貯金管理所出納官吏ノ本請求書ニハ領收場所及納人又ハ拂込人名欄ノ記入ヲ要セス此ノ場合領收日附欄ニハ同出納官吏ヨリ代理店ヘ拂込ノ日附ヲ記入スヘシ

八　年度所管廳會計名又ハ取扱廳更正濟ノ上ハ代理店ヨリ其ノ旨通知スルモノトス

九　現記載事項欄及正事項欄ハ一例ヲ示シタルモノトス

十　用紙ハ半紙四切トス

第十六號書式ノ二

年　月　日

何廳歲入徵收官　官　氏　名　㊞

政務總監宛

昭和　年度三月以降歲入現計表　大藏省所管

科目	前月未納額	三月分調定濟額	收入濟額 三月分	收入濟額 見四月以降込額	不納缺損額 三月分	不納缺損額 見四月以降込額	收入未濟額
(款)	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
(項)							
(項)							
(款)							
(項)							
(項)							
經常部合計							

備考

記載例

一　經常部ト臨時部トハ各別表ニ調製スヘシ

二　本表ハ歲入現計調査上急速ヲ要スルモノナルヲ以テ必ス期日内ニ發送スヘシ

三　四月以降見込額ハ實收額ニ比シ不足スルモ超過スルノ結果ニ陷ラサル樣注意スヘシ

四　報告未達又ハ其ノ他ノ事由ノ爲金額未確定若ハ不判明ノモノハ推算額ヲ以テ本表ヲ作リ其ノ要領ヲ備考ニ明記スヘシ

五　三月分ノ歲入ニシテ推算額ヲ以テ計算調査シタル金額ニ付テハ別ニ推算額ヲ作リ本表ニ添附スヘシ

第十七號書式

歲入金拂戻要求書

昭和　年度(經常部) 款	項	目	收納濟額	正當徵收スヘキ額	差引拂戻ヲ要スル金額	事由	請求者住所氏名
朝鮮歲入	官業及官有財產收入	官有物貸下料	圓 10000	圓 8000	圓 2000	8圓正當ノ處10圓徵收ノ爲1圓過徵	何町 何某
同	同	同	10000		10000	何年何月分何何貸下料徵收ノ處已ニ前月ニ於テ契約解除ニ付誤納	何町 何某

上記歲入金事項會計法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

局會計事務取扱規程中抜萃（大正十年十月改正大正十一年三月局訓令第六號）

第三章　歲入

第十五條　各局所ニ於テ歲入ヲ徵收セントスルトキ煙草ハ賣渡票、鹽ハ賣渡決裁書其ノ他ハ第二號樣式ノ歲入決議書ニ依リ納入告知書ヲ發行スヘシ但シ收入官吏ニ即納セシムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　煙草賣渡代金ニ對スル納入告知書ニ記載スヘキ納期ハ賣渡請求者カ引渡通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ十日以內トス

前項ノ場合ニ於テ延納ヲ許可シタルトキハ引渡ヲ爲シタル日ヨリ三月以內トス但シ一口ノ煙草ヲ數日ニ引渡ヲ爲シタルトキハ最初ノ日ヨリ起算ス

第十七條　納入告知書ヲ發行シタルトキハ第三號樣式ノ調定原簿ニ登記シ其ノ歲入ノ極末ヲ整理スヘシ

前項ノ原簿ハ專賣收入ト其ノ他ノ收入ニ大別シ更ニ專賣收入ハ之ヲ事業別（鹽及阿片煙草、人蔘）ニ其ノ他ノ收入ハ之ヲ歲入ノ科目別ニ分チ且事業別（鹽及阿片煙草、人蔘）ニ細別スヘシ

第十八條　煙草又ハ鹽賣渡代金ニシテ納入告知書ヲ發行シタル後該代金ヲ分納セシメムトスルトキハ分納代金ト殘額トニ分チタル納入告知書ヲ作成シ之ニ發行シタル告知書ト引換フヘシ

前項納入告知書發行ノ月日及納期ハ原納入告知書ニ依ル

第十九條　犯則者ノ納金ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一　本人ヨリ通告履行ノ申出アリタルトキハ處分費ト共ニ現金ヲ收入官吏ニ即納セシム

二　履行ノ申出ヲ爲スモ現金ヲ即納スル能ハサルモノニ付テハ納入告知書ヲ發行ス

三　納入告知書ヲ發行シタル場合ニ於テ之レカ履行ヲ爲ササルトキハ調定ヲ減額スヘシ

第二十條　煙草賣渡金ノ滯納ニ對スル遲延利息現品引取遲延ニ對スル保管料ノ徵收方ハ左ノ各條ニ依ル

一　遲延利息ヲ徵收スル場合左ノ條件ヲ具備スルトキハ之ヲ徵收ス

イ　利息金額拾錢以上ナルトキ但シ特別ノ必要アル場合ニハ拾錢未滿ニ下スコトヲ得

ロ　滯納者ニ於テ日歩ヲ利セムトスル意思アリト認メタルトキ又ハ利息ノ徵收ニ依リ滯納ノ弊ヲ矯正シ得ヘシト認メタルトキ

二　保管料ヲ徵收スル場合

イ　卽納延納ノ場合共現品ヲ引渡スヘカラサル日ヨリ十日內ニ引取ラサルトキハ十一日目ヨリ徵收ス

ロ　賣渡請求者カ納期前ニ代金ヲ納付シタルトキハ本號（イ）ノ期間ハ當初指定シタル納期日後引渡スヘカリシ日ヨリ計算ス

第二十一條　煙草賣渡以外ノ契約ニ基ク損害金又ハ違約金等ニシテ一廉ノ金額寡少ナルトキハ每年度末ニ於テ之ヲ取纏メ徵收スルコトヲ得

煙草ノ引取遲延ニ對スル保管料及引替煙草拂價金等亦前項ニ同シ

第二十二條　大正五年大藏省令第三十號第二條ニ依リ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與フルニハ現ニ承認ヲ與フル歲入金ノ爲ニ提供シタル擔保額ヲ超過セサルモノニシテ且其ノ擔保物件存在スルコトヲ確認シタル場合ニ限ル

第二十三條　調定外課納額、增減額及其ノ他ノ事項ニ關シ徵收報告書ノ整理方ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一　調定額欄內ニ增減額トシテ揭クルハ報告濟ノ調定額ニ對シ異動ヲ生シタル場合ニ限ル

二　收入濟額欄內ニ增額トシテ揭クルハ金庫月計對照表更正拂（金庫自ラノ更正拂ハ關係セス）ニ關スルモノ又ハ科目組替ノ場合ニ限ル

三　調定洩又ハ調定不足ノ爲追徵ニ係ルモノハ其ノ月分ノ調定額ニ併算スルコト

四　繰越額ハ目ノ欄内ニ括弧ニテ「繰越額」ノ文字ヲ記載シ且金額ヲ區分掲記スルコト

第二十四條　調定外誤納ト調定超過トノ區分ハ左ノ標準ニ依ル

一　調定外誤納トシテ整理スル場合

イ　納入告知書ノ誤記ニ基クトキ

ロ　納入告知書ノ重複發行ニ基クトキ

ハ　納入義務者ニ非サル者ニ對シ納入告知書ヲ發行シタルニ原因スルトキ

ニ　納入告知書ニ記載シタル金額又ハ口頭告知金額ニ超過シタル金額ヲ收入官吏ニ於テ受領シタルニ基クトキ

ホ　收入官吏現金拂込書ノ誤記ニ基クトキ

二　調定超過トシテ整理スル場合

算定誤謬ニ基クトキ

（第二十五條乃至第二十八條ハ第三款ニ掲ク）

第二十九條　各局所長ハ毎年度專賣收入以外ノ收入ノ實蹟ヲ調査シ第五號樣式ニ依リ翌年度七月十日迄ニ本局長ニ報告スヘシ

第二號樣式

官收徵入歳	
長課務庶	
官務事副	
主	
要	

第三號樣式　調定原簿

告知書番號	發行	納期	納入	科目 款	科目 項	科目 目	金額	摘要	住所	氏名
	月日	月日	月日				圓			
	月日	月日	月日							
	月日	月日	月日							

歳入決議書		
納入告知書　號		一金
大正　年度歳入　部		
款		
項		
目		
發議	年　月　日	
發行	年　月　日	
徵收簿登記濟	年　月　日	
摘		
納入住所氏名		

月日	月日	月日	月日	月日	
月日	月日	月日	月日	月日	
月日	月日	月日	月日	月日	

備考　本樣式ノ上部ニ「歳入徴收官印」及「主任印」ノ二欄ヲ設ケ歳入決議書ヲ省略スルコトヲ得

第五號樣式

大正　何　年度官有物貸下料及雜收入報告書

何專賣支局（何專賣支局何出張所）

科目	事業別	收入濟額	不納缺損額	收入未濟繰越額
官有物貸下料	煙草	圓	圓	圓
	人蔘			
	鹽			
	阿片			
計				

辨償及違約金				計	徴詞及沒收金				計	雜入				計
煙草	人蔘	鹽	阿片		煙草	人參	鹽	阿片		煙草	人蔘	鹽	阿片	

大正　何　年度官有物貸下料及雑収入報告書

科目	事業別	収入済額	不納欠損額	収入未済繰越額
計		円	円	円
合計	標章			
	人蔘			
	塩			
	阿片			
計				

何專賣支局（何專賣支局何出張所）

七〇八

備考

一　事業別ニ區分シ難キモノハ主タル一方ニ併算ス

二　収入済額不納欠損額及収入未済繰越額ノ内ニ前年度ヨリ繰越シタルモノアルトキハ當該欄左傍ニ内書朱書シ且餘白ニ其ノ調定年度ヲ記入スヘシ

歳入徴收官事務分掌者ヨリ歳入徴收官ニ提出スベキ歳入徴收報告書ニ準ジタル報告書ニ現金受拂仕譯書ノ添附及現金拂込仕譯欄整理方ニ關シ大正四年二月官通牒第五八號ヲ以テ政務總監ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

徴收報告書現金拂込整理ノ件（大正四年二月官通第五八號歳入徴收官宛政務總監）

大正三年訓令第四十二條朝鮮總督府及所屬官署會計事務章程第六十三條ニ依リ歳入徴收事務分掌者ヨリ歳入徴收官ニ提出スル徴收報告書ニ準ジタル報告書ニハ左記樣式ノ現金受拂仕譯書ヲ添附セシメ現金拂込仕譯欄ハ左記各項ニ依リ整理相成度此段及通牒候也

記

一　前月迄拂込未濟額ニハ前月徴收報告書ノ差引翌月ヘ越高ヲ掲記スルコト

二　本月中現金領收額ニハ分掌者ヨリ提出スル現金受拂仕譯書中ノ本月中現金領收額欄ノ收入官吏ノ領收額ニ遞信官署出納官吏ノ領收額内備考欄記載ノ收入官吏ヨリ納入ニ係ル金額ヲ控除シタル額ト自己取扱ノ領收額トヲ合算掲記スルコト

三　本月中現金拂込額ニハ分掌者ヨリ提出スル現金受拂仕譯書中ノ收入官吏カ金庫ヘ本月中現金拂込額ニ歳入徴收官直屬收入官吏ニ拂込ニ對スル金庫領收濟通知書及遞信官署振替拂込通知書ノ合計金額ヲ合算掲記スルコト

（樣式）

現金受拂仕譯書								
前月迄拂込未濟額		本月中現金拂込額					差引翌月越高	備考
		本月中現金領收額						
收入官吏	遞信官署出納官吏	〔金庫〕ヘ	遞信官署ヘ					
一〇圓		一〇圓	一〇圓				一〇圓	内百圓ハ收入官吏ヨリ納入
〇〇〇		〇〇〇	〇〇〇				〇〇〇	
三〇〇圓		二〇〇圓	一〇〇圓					
〇〇〇		〇〇〇	〇〇〇					
二〇〇		一〇〇圓						
〇〇〇		〇〇〇						

歳入年度等誤謬ノ場合ノ訂正手續ヲ定ムル必要アルヲ以テ右訂正手續ヲ左ノ如ク定メラレタリ

歳入年度等誤謬ノ場合訂正手續（大正十一年四月大藏省令第三八號）

第一條　歳入徴收官ハ出納官吏、郵便局又ハ日本銀行ニ於テ現金收納後納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ送付書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ當該年度所屬歳入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間出納官吏、取扱郵便局又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ其ノ歳入金ニシテ郵便局ノ取扱ニ係リ其ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ既ニ日本銀行ニ振替拂込ヲ了シタル後ナルトキハ歳入徴收官ハ直ニ日本銀行當該店ニ對シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　歳入徴收官出納官吏、取扱郵便局又ハ日本銀行ヨリ誤謬訂正濟ノ報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ニ依リ其ノ訂正シタル月ニ於テ徴收簿ヲ訂正シ其ノ事由ヲ領收濟ノ報告書又ハ通知書ニ記載スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正ヲ爲シタル月ノ徴收報告書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第四條　甲廳歳入徴收官誤テ乙廳所管歳入金ヲ徴收シタル場合ニ於テハ甲乙兩廳歳入徴收官連署ノ上關係出納官吏、取扱郵便局又ハ日本銀行ニ對シ之カ更正ヲ請求スヘシ

前三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　歳入徴收官當該年度出納閉鎖前歳入年度課謬ノ訂正ヲ了セサル場合又ハ出納閉鎖後歳入年度ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ誤謬ノ儘據置整理シ其ノ事由及金額ヲ記載シ歳入事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

明治二十四年大藏省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

大正十二年勅令第四百三十九號恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十條ノ規定ニ依リ恩給法第五十九條第一項ノ規定ニ依ル國庫納金ヲ俸給支拂ノ際控除シタルモノヲ歳入ニ組入レントスル場合ニ於テハ當該支出官歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スモノトス

參照

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

第十條　文官、教育職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受クル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給ノ支拂ヲ爲ス際支出官之ヲ控除スヘシ但シ出納官吏俸給ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ當該出納官吏之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ歳入ニ組入レントスル場合ニ於テハ當該支出官之カ歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

恩給法

第五十九條　文官ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二項省略

歳入ノ過誤納又ハ徴收不足額ハ一定ノ帳簿ヲ備ヘ整理セシムル必要アルヲ以テ大正十二年五月尋庶第一一六七號ヲ以テ各專賣官署長ニ左ノ如ク通牒セリ

歳入徴收ノ過不足額整理ニ關スル件（大正十二年五月十二日專庶第一一六七號專賣官署長宛局長）

歳入ノ過誤納若ハ徴收不足額ハ左記樣式ノ整理簿ヲ備ヘ整理相成度此段及通牒候也

追テ既往ニ於テ過誤納若ハ徴收不足ヲ生シタルモノアルトキハ遡リ整理相成度

（樣式）

歳入徴收過不足額整理簿

過誤納（徴收不足）

科目　款、項、目

決議			摘要	過不足額	債主又ハ納入者住所氏名	處分ノ順末
局所長	主務課長	主任	年月日			

備考　本簿ハ過誤納ト雖収不足トノ口座ニ別チ更ニ之ヲ科目別ノ口座ニ依リ整理スルモノトス

小切手振出済金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セザル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歳計剰餘ニ組入レズ之ヲ繰越整理スルモノナルガ右繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ尚未ダ其ノ支拂ヲ了セザル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルモノトス而シテ之ガ歳入ニ組入ニ關スル件大正十二年六月官通牒第五四號ヲ以テ財務局長ヨリ各支出官ニ左ノ如ク通牒セラレタリ

十二年度以降歳入ニ組入ニ關スル取扱方ノ件（大正十二年六月一日官通牒第五四號　支出官宛　財務局長）

十二年度以降會計規則第五十四條ニ依リ歳入ニ組入ルヘキ小切手支拂未濟金收入ハ大正十二年五月二十五日通牒十一年度歳入ニ組入ニ關スル取扱方ト同樣ニ取扱ヒ左記ノ通當該會計ノ歳入ニ組入ルル義ト御了知相成度爲念及通牒候也

追テ未濟繰越金額歳入組入報告書二通其ノ都度必ズ遲滯ナク御提出相成度候

記

款	項	目
朝鮮歳入	雜收入	小切手支拂未濟金收入
朝鮮醫院及濟生院	雜收入	同

十一年度歳入ニ組入ニ關スル取扱ノ件（大正十二年五月二十五日）

十一年度歳入ニ組入ルヘキ仕拂命令濟未濟金收入ノ取扱方ニ付テハ左ノ通リ取扱相成度候也

一　各支出官ハ歳入徵收官（仕拂命令ヲ發シタル廳ノ徵收官トス）ノ官氏名及仕拂シタル當該會計ノ歳入ニ組入ルル旨ヲ取扱代理店ニ至急通知シ別紙書式ニ依ル報告書二通ヲ本府ニ送付スヘシ

二　該代理店ヨリ未濟繰越金歳入組入報告アリタルトキハ關係諸帳簿ヲ整理シ十一年度十二年五月分徵收報告書ニハ調定濟額收入濟額及事由欄ニハ調定報告洩レニ依ルト記入）ヲ記載シ歳入金月計突合表ヲ添ヘ本府ニ提出スヘシ

三　歳入科目ハ舊會計法第十八條及會計規則第四十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ雜收入（項）　期滿後收入（目）

新會計規則第七十一條ニ依ル組入ハ

雜收入（項）　仕拂命令支拂未濟金收入（目）（今回新設）

大正十年度以降繰越歳出予算額及決算額ニ関スル調書（又ハ繰越歳出予算額調書）未濟繰越金歳入組入報告書

大藏省所管

費	項	目	節	細目摘要ニ(又ハ仕切月日)	徴収済額	徴収未済額	備考

會計法第五十四條第四項ノ規定ニ依リ繰入ルヘキ金額

（備考　今回ニ限リ大正十一年度ニ繰入ルヘキ金額ヲ記入スルコト）

大正　年　月　日

三々五五三六々五名圖

物品賣渡代金ニ對スル納期及煙草、紅蔘又ハ鹽ノ賣渡代金ニ對シ卽納ノ取扱ヲ爲シタル後ニ於テ擔保ヲ提供シ延納ノ許可ヲ申請シタル場合ノ取扱方ニ關シ大正十二年七月專賣第一二二八號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

物品賣渡代金徵收手續ニ關スル件（大正十二年七月十九日專賣第一二二八號　專賣官署長宛　局長）

物品賣渡代金徵收手續ニ關シ別紙左記ノ通御取扱相成度及通牒候也

記

一　物品賣渡代金ニ對スル納入告知書ニ記載スヘキ納期ハ左ノ區分ニ依ル

イ　代金卽納ノ場合

賣渡通知ヲ爲シタル日ヨリ起算シ十日トス

ロ　代金延納許可ノ場合

賣渡通知ヲ爲シタル日ヨリ起算シ大正十一年朝鮮總督府令第一號物品賣拂代金延納規則所定ノ期間內トス

二　煙草、紅蔘又ハ鹽ノ賣渡代金ニ對シ卽納ノ取扱ヲ爲シタル後ニ於テ擔保ヲ提供シ延納ヲ申請スル者アリタル場合ハ之ヲ許可シ其ノ延納期間ハ當初賣渡通知ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ算定スヘシ但シ延納ノ申請カ當初卽納ノ取扱ニ於ケル代金納付期限ヲ經過シタル場合ニ於テハ延納期間ノ計算ハ延納許可ノ日ヨリ之ヲ起算シ卽納期限經過日數擔保提供ノ前日迄ニ對シテハ特ニ定ムルモノノ外遲延利息ヲ徵收スルモノトス

三　前項ノ場合ニ於ケル納入ノ告知ハ翌年度ノ歲入トナルモノノ外當初發行シタル納入告知書ノ期日ヲ訂正シ別ニ延納許可ノ日以後ノ日附ヲ以テ納入告知書ヲ發セサルモノトス

政府ノ保管ニ係ル有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所有ニ歸シタルモノノ換價方法竝歲入ニ組入方等ニ關スル手續ヲ會計規則第百二十三條ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ於テ決定セラレタル旨大正十二年十月官通牒第九二號ヲ以テ政務總監ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ換價方法竝歲入ニ納付又ハ資金ニ組入手續ニ關スル件（大正十二年十月六日官通牒第九二號）

政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ規定ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ換價方法竝歲入納付等ノ手續ニ就テハ會計規則第百二十三條ニ依リ大藏大臣ニ於テ左記ノ通決定相成候條此段及通牒候也

記

第一條　政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ報告ヲ受ケタル主務官廳ハ本手續ニ依リ該有價證券ヲ換價シ換價金額ヲ歳入ニ納付又ハ賣金ニ組入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條　取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券ニシテ既ニ償還期ノ開始セルモノニ付テハ證券ノ種類ニ依リ取扱官廳ヲシテ左ノ取扱ヲ爲サシムヘシ

一　國債證券ニ付テハ取扱官廳ヲシテ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ出納官吏ヲシテ現金拂込書又ハ預託金拂込書ヲ添附セシメ有價證券ノ寄託店タル日本銀行ニ提出セシムルコト

二　國債證券以外ノ有價證券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ證券ノ拂渡ヲ受ケ該證券ニ對スル償還金受領ノ手續ヲ爲シタル後出納官吏ヲシテ該金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムルコト

第三條　前條ノ規定ハ有價證券トシテ取扱タル利札ニシテ支拂期ノ開始セルモノニ付之ヲ準用ス

第四條　主管官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル國債證券ニ付買入銷却方ヲ請求セムトスルトキハ其ノ證券ノ名稱、記號、額面及附屬利札ニ於ケル支拂期(何年何月何日渡以降利札附屬ト記載スルコト)竝證券ヲ引渡スヘキ日本銀行名ヲ記載シタル書面ニ買入銷却ヲ要スル事由及擔保又ハ保證ニ充用シタルモノナルトキハ其ノ擔保額又ハ保證額政府ノ所有ニ歸シタル年月日竝最低賣渡價格ヲ附記シ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ但シ引渡スヘキ國債證券ハ引渡當時利子支拂期未開始ノ附屬利札ノ完備セルモノニ限ルモノトス

前項ノ國債證券ニシテ引渡ノ際既ニ利子支拂期ノ開始セル利札ノ附屬シアル場合ハ取扱官廳ヲシテ之ヲ裁離セシメ其ノ利札ノ取扱ニ付テハ第三條ノ規定ニ依リ之カ手續ヲ爲サシムヘシ

第五條　主務官廳前條第一項ノ請求ニ對シ大藏省ノ承認ヲ受ケタルトキハ國債證券引渡方ヲ取扱官廳ニ通知シテ之カ手續ヲ爲サシメ代金納入方ニ付テハ日本銀行本店ニ對シ納入ノ告知書ヲ發スヘシ

第六條　主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券中第二條乃至第四條ノ規定ニ依リ難キ有價證券又ハ大藏省ニ於テ國債證券買入銷却ノ承認ヲ得サリシ證券ニ付テハ政府保管有價證券受託書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ其ノ拂渡ヲ受ケ取扱官廳ヲシテ之カ換價ノ手續ヲ爲サシメ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムヘシ

第七條　主務官廳前條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヲシテ換價ノ手續ヲ爲サシムルトキ若ハ其地方ノ狀況ニ鑑ミ換價ノ手續不能ト認ムルトキ又ハ取扱官廳ニ付テハ第三條ノ規定ニ依リ之カ手續ヲ爲サシムルコトヲ不利益ト認ムルトキハ取扱官廳ヨリ該證券ヲ現送セシメ主務官廳換價ノ手續ヲ爲シ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

參照

會計規則

第百二十三條　政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

政府保管有價證券取扱規程

第二十條　政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ

主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ該有價證券ヲ換價シ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

支拂未濟金額ニ相當スル資金ヲ歳入ニ組入方等ニ關スル件

十四年三月官通牒第一六號ヲ以テ財務局長ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

支拂未濟金額ニ相當スル資金ヲ歳入ニ組入方等ニ關シ大藏大臣ヨリ通牒アリタル趣ヲ以テ大正

（大正十四年三月官通牒第一六號　支出官、資金前渡官吏、歳入歳出外現金出納官吏、繰替拂出納官吏宛　財務局長）

出納官吏事務規程第三十五條、第三十六條又ハ保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ支拂未濟金額ニ相當スル資金ヲ歳入ニ組入方其他ニ關シ別紙ノ通大藏大臣ヨリ通牒有之候條右通牒ノ趣旨ニヨリ御取扱相成度此段及移牒候也

（別紙）出納官吏事務規程第三十五條、第三十六條又ハ保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ支拂未濟金額ニ相當スル

貴金ヲ歳入ニ組入ルル場合ハ一般會計ニ係ルモノハ總テ大藏省所管取扱廳大藏大臣官房會計課歳入徴收官大藏大臣官房會計課長ノ取扱ヲ一般會計歳入ニ又特別會計ニ係ルモノハ所管大臣ノ指定スル歳入徴收官ノ取扱ヲ當該會計歳入ニ組入ルヘク當該支拂未濟金ニ對スル償還金支拂ハ一般會計ニ在リテハ大藏省所管歳出諸支出金償還金ヨリ、特別會計ニ在リテハ當該會計歳出諸支出金償還金ヨリ支出スルコトトシ之カ償還順序ハ客年六月十一日藏第五八八六號通牒小切手支拂未濟金償還ニ關スル件ニ依リ七日官通牒第五十八號小切手支拂未濟金償還順序内規(大正十三年七月御取扱相成度仍出納官吏事務規程第三十九條及第四十條ニ規定スル隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ノ爲預託金支拂通知書ヲ送付シタル場合又ハ保管金取扱規程第八條ニ規定スル保管金他店拂ノ爲保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ當該貴金ヲ歳入ニ組入及償還請求ニ對スル支拂ヲ爲ス場合モ總テ前段ニ準シ御處理相成候樣致度此段及通牒候也

追而貴金前渡官吏カ出納官吏事務規程第三十五條ノ規定ニ依リ報告スヘキ支拂未濟金ニ關スル報告書ハ本文ノ區分ニ依リ歳入徴收官ニ保管金拂渡ノ爲ニ振出シタル小切手ニ對スルモノニ付テハ取扱主任官ヨリ出納官吏事務規程第三十五條ノ規定ニ準シ當該官廳ノ長ヲ經由シテ歳入徴收官ニ報告セシメラレ度申副候

(大正十三年七月官通牒第五八號ハ次節第三款ニ掲ケアリ)

創業以來延納ヲ許可セル物件賣渡代金ノ歳入年度ノ所屬ニ關シテハ權宜ノ扱トシテ隨時收入ト見テ會計規則第一條第二號ヲ適用シ處理シ來リタルモ法理上妥當ヲ缺ク嫌アルヲ以テ納期ノ一定セルモノトシテ會計規則第一條第一號ヲ適用スルコトトシ大正十五年三月專庶第二四四號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

延納ヲ許可セル物件賣拂代金ノ歳入年度所屬ニ關スル件(大正十五年三月二日專庶第二四四號支局長宛大藏省令第五號)

延納ヲ許可セル物件ノ賣拂代金ハ納期ノ一定シタル收入金トシ其ノ歳入年度所屬區分ハ會計規則第一條第一號ノ規定ニ據リ納期末日ノ屬スル年度ト了知相成度及通牒候也

歳入徴收官ガ日本銀行統轄店ヨリ歳入金月計突合表ノ送付ヲ受ケタル場合ノ處理方ニ關シ大正十五年三月大藏省令第五號ヲ以テ規定セラレタリ該省令ヲ掲グレバ左ノ如シ

歳入徴收官ノ歳入金月計突合表證明ニ關スル件(大正十五年三月大藏省令第五號)

歳入徴收官日本銀行統轄店ヨリ歳入金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ一通ニ證明ノ上五日内ニ之ヲ統轄店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テ統轄店歳入徴收官ノ所在地外ニ在ルトキハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本府會計事務章程第四十一條ニ依リ本府財務局ニ提出スベキ歳入決算增減事由書ノ書式ヲ昭和二年五月司乙第一五一號ヲ以テ財務局長ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

大正十五年度歳入決算ニ關スル件(昭和二年五月十九日司乙第一五一號　局長宛　財務局長)

昭和元

合計事務章程第四十一條ニ依ル歳入決算增減事由書ハ大正十五年度分以降別紙書式ニ依リ提出相成度此段及御通知候也

(別紙書式)

昭和　年度歳入決算增減事由書

科目	豫算額	本年度分調定濟額	豫算額ニ對シ本年度分調定濟額ノ差	同上增減事由
歳入經常部			增	
			減	

款(何) 項(何) 目(何) 細別(何) 以下之ニ倣フ		

備考

一　増減事由ハ成ル可ク詳細ニ記入ノコト

一　豫算額ハ年度初頭財務局長ヨリノ通知額ヲ掲載ノコト

參照

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後改正アリ現行ノ分）

第四十一條　歳入豫算ノ通知ヲ受クタル各局長遞信局長鐵道局長及專賣局長ハ翌年度六月末日迄ニ第七號樣式ノ歳入決算增減事由書ヲ作成シ財務局長ニ送付スヘシ

右通牒ニ依リ財務局ニ提出スル歳入增減事由書作成上必要ナルヲ以テ歳入增減計算書及內譯書提出方昭和二年七月專庶第四二一號ヲ以テ支局長及本局直轄出張所長ニ左ノ如ク通牒セリ

歳入增減計算書提出方ノ件（昭和二年七月二日專庶第四二一號局長竝本局直轄出張所長宛　庶務課長支）

昭和元年度以降左記樣式ニ依リ歳入增減計算書（內譯書及增減事由表ヲ添附ス）ヲ作成翌年度六月十日限御提出相成度候也

追テ昭和元年度分ニ付テハ此際至急提出相成度申添候

樣式ノ甲

昭和何年度歳入增減計算書　（△印ハ朱書）

科目	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	翌年度へ繰越額	豫算額ニ對シ調定增△減	豫算額ニ對シ收入濟額增△減
歳入經常部	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
款　官業及官有財產收入							
項　專賣收入							
目　煙草收入							
目　蔘業收入							
目　鹽業收入							
項　官有物貸下料							
目　官有物貸下料							
土地家屋							
款　雜收入							
項　雜收入							
目　官有物拂下代							
目　拂價及違約金							
目　懲罰及沒收金							
目　小切手支拂未濟金收入							
目　雜入							
過誤拂返納金							
預金利子其他雜收							
經常部計							

備考　科目ハ凡例ヲ示シタルモノナルヲ以テ實際取扱ノ科目細別ニ依リ經常部、臨時部ニ區別掲上シ遺漏ナキヲ要ス

樣式ノ乙

昭和何年度歲入增減計算書內譯書

科目	調定濟額		收入濟額		不納缺損額		翌年度ヘ繰越額	
	本年度調定	前年度調定	本年度調定	前年度調定	本年度調定	前年度調定	本年度調定	前年度調定
歲入、、部								
(款)何								
(項)何								
(目)何								
細別(何)								
以下此例ニ倣フ								

樣式ノ丙

昭和何年度歲入增減事由表（減ハ朱書、細別每ニ別紙ニ調製スヘシ）

科目(細別)	事由	金額	摘要
何	調定濟額增△減ノ部		
	前年度調定繰越額		
	調定外誤納額		
	調定內誤納額		
々	豫算額ニ對スル增		何々ニ依ル（又ハ別紙說明書參照）
	何々		
	計增		
	豫算額ニ對スル減		何々ニ依ル（又ハ別紙說明書參照）
	何々		
	計減		
收入	差引增（又ハ△減）		（本欄金額ハ甲表ノ豫算額ニ對シ調定增（減）額ニ符合スルヲ要ス）
	收入濟額增△減ノ部		
	缺損額		時效完成（又ハ何々）ニ依ル
	翌年度ヘ繰越額		何々ニ依ル
	貸付金ヘ編入額		何々ニ依ル
	何々		
	計△減		
	再差引增（又ハ△減）		（本欄金額ハ甲表ノ豫算額ニ對シ收入濟增（減）額ニ符合スルヲ要ス）

備考　樣式ハ一部ノ例ニシテ其ノ大要ヲ示シタルモノナルヲ以テ其ノ科目及事由ノ異ナル每ニ各別ニ掲載シ摘要ハ可成詳細ニシテ遺漏ナキヲ要ス

拓務省設置ノ結果昭和四年度一般會計歲入金ハ一部分大藏省主管ヨリ拓務省主管ニ變更セラレタル爲メ之ガ徵收事務取扱方ニ關シ大藏省ヨリ通牒アリタル趣ヲ以テ昭和四年七月官通牒第三一號ヲ以テ財務局長ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

一般會計歲入徵收事務取扱方ニ關スル件（昭和四年七月九日官通第三一號一般會計歲入徵收官宛財務局長）

昭和四年度一般會計歳入金ハ拓務省設置ノ結果一部大藏省主管ヨリ拓務省主管ニ更定セラレタルニ付テハ首題ノ件ニ關シ左記ノ通大藏省ヨリ通牒アリタルニ付右ノ趣旨ニ依リ處理相成リタシ

記

一　定期貸及据置貸ノ歳入ニ付テハ從前通大藏省主管トシテ取扱フコト

二　右以外ノ歳入ハ六月十日以降ハ拓務省主管トシテ取扱六月九日以前ニ取扱ヒタル定期貸及据置貸以外ノ歳入(調定、收入、缺損及收入未濟額共)ハ拓務省主管ニ組替ヘラレタルモノトシテ處理スルコト

三　六月九日以前ニ取扱ヒタル定期貸及据置貸ニ付テハ大藏省主管其ノ他ノモノニ付テハ(六月九日迄ノ分ヲモ含ム)拓務省主管トシテ調理スルコト

四　六月分以降徵收報告書ハ定期貸及据置貸ニ付テハ大藏省主管ニ依リ區分揭記スルコト

五　六月分徵收報告書ニ於テハ前月迄現金拂込未濟額アルモノハ其ノ歳入金ノ所屬主管省ニ依リ區分揭記スルコト

六　五月分迄ノ徵收報告書ノ收入濟額ト日本銀行歳入金月計突合表トノ差額ハ六月以降ニ於テハ歳入金所屬主管省ニ依リ區分整理スルコト

七　第三號ニ依リ組替ヘラレタルモノハ其ノ調定、收入、缺損額ヲ六月分ト五月迄ノ累計トニ區分シ徵收報告書ニ準ジタル調書ヲ作成シ六月分徵收報告書ニ添附スルコト

右ノ調書ニハ第五號ニ依リ拓務省主管ニ分記シタル五月分迄ノ現金拂込未濟額及第六號ニ依リ拓務省主管ニ分記シタル金額ヲ附記スルコト

八　主管變更ニ依ル歳入金月計突合表ノ金額(五月迄ノ累計)ハ其ノ集計額ヲ六月分徵收報告書ニ附記スルコト

九　六月分ノ徵收報告書ハ第四號ニ依リ拓務省主管トシテ調理スルモ日本銀行代理店ノ月計突合表六月分ハ從前ノ通大藏省主管トシテ發行セラレタルヲ以テ當該月計突合表ノ金額ハ之ヲ差額トシテ處理スルコト但シ本件差額ノ更正方ニ付テニ本府ニ於テ處理スヘキニ付貴官ヨリ之カ手續ヲ要セズ

歳入徵收報告書ノ調理方ニ關シテハ從來屢次通牒ヲ以テ指示シタルモ其ノ書式等區々且計數其ノ他ニ誤謬アリテ之ガ照覆ニ多クノ日子ヲ要シ大藏省ヘノ報告上支障ヲ生ズル趣ヲ以テ之ガ調製上注意スベキ事項ヲ昭和五年九月官通牒第五一號ヲ以テ政務總監ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

歳入徵收報告書、同總報告書竝支出濟額報告書調理上注意ノ件

（昭和五年九月官通第五一號　歳入徵收官、道知事宛　支出官、政務總監）

首題各報告書類ノ調理ニ關シテハ屢次通牒ヲ以テ指示セラレタル處ナルモ其ノ書式區區ニ渉リ處理上支障ヲ生ズルモノ又ハ計數其ノ他ニ誤謬アリテ之ガ照覆ニ多クノ日子ヲ要シ延テ大藏省ヘノ報告上不都合ヲ來スモノ尠カラズ甚ダ遺憾ニ付爾今別冊各項篤ト御注意ノ上調製提出セラレタシ

追書省略

（別冊）

第一章　總則

一　報告書ノ用紙ハ厚質縴砂引美濃紙ニシテ徵收報告書ハ其ノ全紙ヲ支出濟額報告書ハ其ノ半截ヲ用ヒ左方ニ約一寸ノ綴代ヲ存置スルコト

二　報告書ノ欄格ヲ示ス罫線ハ墨書スルコト

三　印刷セル報告書用紙ノ不動文字中誤字、脫字又ハ不用文字アルニ其ノ儘提出スル向アリ右ハ必ズ訂正認印ヲ施シ提出スルコト

四　報告書ハ取扱事項ナキ月ト雖調製シ毎年度翌年五月分迄引續キ毎月必ズ提出スルコト

五　報告書ニハ會計年度、年月分、會計名、所管名、科目、廳名等ノ記入ヲ洩サザルコト

六　科目記載順序ハ毎年度初本府官報ヲ以テ公布セラルル歳入歳出科目表ノ順序ニ從ヒ記載シ該當事項ナキ科目ハ之ヲ除クコト

七　報告書ニ押捺セル科目印ノ文字不鮮明ノモノ、誤字、脫字アルモノ又ハ欄外ニ溢レ明瞭ヲ缺クモノアリ右ハ正當ナラシムル樣此ノ際適當措置スルコト

八　報告書記載ノ數字小ニ過グルモノ、大ニ過グルモノ又ハ字體亂雜ニシテ判讀ニ苦シムモノアリ必ズ正確明瞭ニ記載スルコト

九　徵收報告書正本ニハ徵收官印ヲ支出濟額報告書正本ニハ支出官印ヲ押捺スルコト

十　報告書ニ宛名ナキモノ政務總監宛ノモノ等アルモ右ハ必ズ朝鮮總督宛トスルコト

十一　報告書ハ提出前必ズ檢査ヲ爲シ其責任者ヲ明ニスル爲餘白ニ檢査濟ト記シ主任者ヲシテ捺印セシムルコト

十二　報告書ニハ送付書ノ添付ヲ要セズ直ニ本書ニ發送月日及番號ヲ附シ提出スルコト

十三　報告書ハ會計事務章程第六十四條、第六十五條及第百三條所定ノ期限迄ニ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事由及期日ヲ豫メ其ノ都度報告スルコト

第二章　歲入徵收報告書附月計突合表

一　報告書ノ樣式及記載例ハ別表第一號ニ依ルコト

二　本月分ノ調定濟額及收入濟額ニ於ケル增減ハ增ヲ先ニ減ヲ次ニ事由ノ異ナル每ニ金額ト共ニ順次別行ニ記載スルコト

三　前年度繰越額ハ相當科目ニ於テ調定濟額及收入濟額トモ普通ノモノト區別シテ前項ノ次罫ニ（年度當初ヨリノ累計額モ亦同ジ）揭記シ事由欄ニ繰越額ト明記スルコト

四　調定外誤納額ハ繰越額ノ例ニ準ジ前項ノ次罫ニ揭記スルコト

五　過誤納額ハ繰越ニ係ル歲入金納付ノ際生ジタル分ト雖總テ本年度ノ調定外誤納額トシテ整理スルコト

六　項計、款計、租稅計、租稅外收入計、經常部計、臨時部計、合計ハ該當事項アル際ニハ之ガ記載ヲ洩サザルコト

七　經常部ト臨時部トハ各別紙ニ調製スルノ要ナキコト

八　現金拂込仕譯欄ハ左ノ通整理スルコト

イ　前月迄拂込未濟

前月分徵收報告書現金拂込濟仕譯欄中ノ「翌月ヘ越高」ノ欄ニ計上セル數字ヲ移記スルコト

若シ本月分ニ於テ前月分報告書中ノ「翌月ヘ越高」ノ欄ノ數字ニ異動アルコトヲ發見シタルトキハ前月迄拂込未濟ノ欄ノ次ニ事由及異動ニ依ル差額ヲ揭記スルコト

ロ　本月中現金領收額

收入官吏ノ領收額ト遞信官署出納官吏ノ領收額トヲ合算揭上スルコト但シ遞信官署出納官吏ノ領收額中收入官吏ノ拂込額アルトキハ之ヲ控除スルコト

ハ　本月中現金拂込高

收入官吏ノ領收金ニシテ之ヲ日本銀行代理店ニ拂込ヲ了シタル額ト遞信官署出納官吏ヨリ日本銀行代理店ニ振替拂込ヲ了シタル額トヲ合算揭上スルコト

ニ　翌月ヘ越高

前月迄拂込未濟額ニ本月中現金領收額ヲ加算シ本月中現金拂込高ヲ控除シタル殘額（卽收入官吏ノ手許保管額ト遞信官署出納官吏ノ振替拂込未濟額トヲ合算シタル額）ヲ揭上スルコト

九　報告書ニ揭グル科目及金額ハ關係帳簿ト夫々照合シ必ズ其ノ符合ヲ確ムルコト

十　日本銀行統轄點ヨリ歲入金月計突合表ヲ受ケタルトキハ突合表ノ收入金本月分欄ト報告書ノ收入濟額本月分欄トヲ照合シ突合表ノ一通ハ證明ノ上直ニ返付シ一通ハ其ノ儘（證明ヲ要セズ）報告書ニ添附提出スルコト

十一　歲入金月計突合表ニシテ其ノ本月分欄ニ金額記入ナキ分ト雖前項同樣一通ハ必ズ報告書ニ添附提出スルコト

十二　報告書ト歲入金月計突合表トノ差額ヲ生ジタルトキハ速カニ之ガ更生ノ手續（會計事務章程第五十九條大正十一年大藏省令第三十八號參照）ヲ爲シ翌月中ニハ必ズ完了スル樣注意スルコト

十三　報告書ト歲入金月計突合表トノ差額ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ更正シタルトキハ可成詳細ニ其ノ事由及金額ヲ現金拂込仕譯欄下部餘白ニ記載スルコト

十四　一般會計歲入最終徵收報告書ハ正副二通提出ノコト

第三章　歲入徵收總報告書

一　道提出ノ本府特別會計歲入徵收總報告書ノ記載方ハ全章歲入徵收報告書ノ例ニ準ズ

二　徵收總報告書ニハ日本銀行歲入金月計突合表ノ外徵收總報告書ト日本銀行歲入金月計突合表トノ間ニ差額アル際

別表第一號

昭和　年度朝鮮總督府特別會計歲入徵收報告書

昭和　年　月分

所管　何　廳　拓務省

款	項	目	事由	調定済額 本月分	調定済額 本月迄累計	収入済額 本月分	収入済額 本月迄累計	不納欠損額 本月分	不納欠損額 本月迄累計	収入未済額	現金拂込済内訳
經常部				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
租稅	地稅	地稅	本月分不納欠損額ノ内納入ノ見込無キモノ	0	0	0	0	0	0		前月迄拂込未済 ○
			誤謬訂正増	0		0		0			誤謬訂正増 ○
			△誤謬訂正増	△ 0		△ 0		△ 0			△誤謬訂正減△ ○
			何々増	0		0		0			
			△何々減	△ 0		△ 0		△ 0		0	本月中現金領收額 ○
			繰越額	0	0	0	0	0	0		計 ○
			滯納處分引受	0		0					本月中現金拂込額 ○
			△滯納處分引繼	△ 0							
			何々増	0		0		0		0	翌月へ越高 ○
			△何々減	△ 0		△ 0		△ 0			
			調定外誤納額	0	0	0	0				日本銀行月計突合表ト差額
			誤謬訂正増	0		0					
			△誤謬訂正減	△ 0		△ 0				0	日本銀行月計突合表ノ方超過
			地稅計	0	0	0	0	0	0		ノ何々ハ（又ハ不足）圓
				0		△ 0		△ 0		0	事由ニ依ル
	所得稅	所得稅		0	0	0	0	0	0	0	
	租稅	計		0	0	0		0	0		
				△ 0		△ 0		△ 0		0	

←代表線 約一寸→

三種入證　各月末　右ノ通リ報告ス　所屬官署

官業及官有財産收入	森林收入	森林收入	△誤謬訂正減	0 △0	0	0 △0	0	0 △0	0	0
			官業及官有財産收入計	0 △0	0	0 △0	0	0 △0	0	0
			租税外收入計	0 △0	0	0 △0	0	0 △0	0	0
			經常部計	0 △0	0	0 △0	0	0 △0	0	0
臨 時 部										
官有物拂下代	官有物拂下代	土地拂下代	△誤謬訂正減	0 △0	0	0 △0	0	0 △0	0	0
			臨時部計	0 △0	0	0 △0	0	0 △0	0	0
			合計	0 △0	0	0 △0	0	0 △0	0	0

年 月 日

歲入徵收官 官 氏名 印

朝鮮總督 殿

備考

(一) 本表ハ本府會計ノ例ヲ示セリ一般會計ノ場合ハ「朝鮮總督府特別會計」ノ代リニ「一般會計」ト記入シ大藏省所管ノ場合ハ「拓務省所管」ノ代リニ「大藏省所管」ト記入スルコト

(二) 本表中△印ハ總テ朱書スルコト

(三) 圓未滿ノ金額ハ厘位迄記載ノコト

(四) 經常部又ハ臨時部ノミノ取扱ナルトキハ合計掲上ノ要ナシ

別表第二號

徵收總報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額仕譯書

昭和五年度朝鮮總督府特別會計歲入

昭和五年五月分

拓務省所管

←綴代→

廳名	徵收報告書年	報告月	差額 突合表ノ方超過	差額 突合表ノ方不足	事由
何道	5	5	圓	圓 50 000	五年度所屬歲入ヲ四年度本府會計ヘ誤拂込ノタメ
何府	〃	〃	40 000		四年度本府會計歲入ヲ五年度本府會計ヘ誤拂込ノタメ
何郡	〃	〃		30 000	前月分ニ於テ四年度所屬本府會計正當ナル五年度ヘ誤拂込メルヲ更正セシタメ
何郡	〃	〃	20 000		拓務省所管一般會計ヨリ本會計ヘ誤拂込ノタメ
			60 000	80 000	

年 月 日

何道 印

備考

(一) 本表用紙ハ厚質纖砂引美濃紙半截トシ左方ヘ約一寸ノ綴代ヲ存置スルコト

(二) 本表ハ昭和五年度五年五月分ヲ例トセリ

(三) 提出年月日、廳名、捺印ヲ洩サザルコト

様式第三號

歳入金拂込未濟内譯報告書
昭和五年度朝鮮總督府特別會計　歳入
昭和五年五月分

拓務省所管

區分	名稱	收年月	拂込未濟額	事由
年月	收年月	日	金額	
備考				
本表用紙ハ厚紙華紗引美濃紙半截トシ左方ヘ約一寸ノ餘代ヲ存置スルコト				
本表ノ明細ハ昭和五年度五年五月分ヲ調トセリ				
拂込ノ詳シク調査セルモノノ其ノ事由ヲ摘記ノコト				
本報ノ續收總額ハ會現金拂込濟仕譯調整月ヘ越高ノ內譯ナルヲ以テ照合ノ上提出ノコト				
摘出年月日、區名、捺印ヲ遺サザルコト				
5	5	5	30 000	遞信官署出納官吏擔替計算未濟ニ依ル
〃	〃	〃	20 000	〃
〃	〃	〃	50 000	歳入官吏拂込未濟ニ依ル
			100 000	

←縮尺→

製造煙草賣渡代金ノ歳入年度所屬ハ會計規則第一條第三號ニ該當スルモノトシテ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ所屬トシテ區分スベキモノナルガ之ヲ出納員ノ收納シタル日ヲ以テ年度ノ區分ヲ爲ストキハ特ニ交通不便ナル島嶼ニ於ケル配給所出納員ノ收入金ヲ分任收入官吏ニ拂込ム場合當初出納員ノ收納シタル日ヨリ著シク遲延スル爲或ハ日本銀行ニ於テ翌年度收入トナルニ至ルモノヲ生ズベク又然ラザル場合ニ於テモ年度經營ノ際當該年度ノ收入額猶判明セザルコトトナリ規定ノ精神ニ反スルノミナラズ分任官吏交替等ノ場合ヲ出納員ヨリ拂込ヲ受クル時迄其ノ取扱ヲ要スベキモノヲ生ズルコトトナリ管理期最終ノ日ニ於テ引繼ヲ爲スコト能ハザルニ至ル等ノ不都合ヲ來スガ故ニ右ノ如キ場合ハ爾今分任收入官吏ノ領收シタル日ヲ以テ年度區分ヲ爲スコトニ處理スベキ旨昭和八年四月專庶第二三四號ヲ以テ各支局長ニ通牒セリ

本府會計事務章程第四十一條ニ依リ局長ヨリ財務局長ニ提出スル歳入決算增減事由書調製上ノ資料トシテ必要ナルヲ以テ歳入增減計算書及內譯書提出方昭和二年七月通牒シ置キタル處其ノ後歳入豫算ハ支局及出張所ニハ配當セザル爲豫算ニ對シ增減ナキ理由ヲ以テ右計算書ヲ提出セザル向アリテ處理上支障アリ尤モ歳入豫算ヲ配當セザルトキ點アルヲ以テ該樣式ヲ簡略ニシ總括上必要ナル事項ノミヲ報告セシムルコトニ改ムルコトトシセリ

歳入決算報告書提出ノ件

（昭和八年六月二日專庶第三二三號　支局長直轄出張所長宛　庶務課長）

昭和七年度以降別紙樣式ニ依リ決算報告書ヲ調製シ翌年度六月十日限リ提出相成タシ

樣式　昭和　年度歳入決算報告書

科目區分	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	翌年度へ繰越額	摘要
歳入經常部					
款官業及官有財産收入					
項專賣收入					
目煙草收入					
製造煙草					
葉煙草					
目蔘業收入					
目鹽業收入					
目廳舍及阿片收入					
目雜					
官有物貸下料					
地					
土					
家屋					
官有物拂下代					
辨償及違約金					

辨償金	
違約金	
懲罰及沒收金	
雜科金	
追徵金	
處分費	
雜入	
預金利子受入	
諸返納金受入	
其ノ他	
款雜收入	
項恩給法納金	
目文官納金	
項雜入	
目小切手支拂未濟金收入	
合計	

右報告ス

年　月　日

專賣局長宛

備考

第五編　會　計　第二章　歳入歳出

何專賣支局長
（本局直轄出張所ニ在リテハ）
何出張所長　何　某　㊞

一　〔不納缺損額〕及〔翌年度ノ繰越額〕ニ對シテハ一件毎ニ其ノ經過ヲ詳記シタル内譯書ヲ添附スルコト

二　〔調定外誤納額ノ其ノ誤納ヲ生ジタル(目)ノ末位ニ掲記スルコト

月末迄ニ歸廳豫定ノ煙草配給員ガ水害ノ爲翌月歸廳シ而シテ該配給員ガ當該月ニ配給途中煙草賣渡代金ノ一部ヲ經過地ノ郵便所ニ拂込ミ殘金額ト符合セザルコトトナル此ノ場合當該月分ノ拂込額ト其ノ月分日計表總計專庶第四三三號ヲ以テ左ノ如ク各支局長ニ通牒セリ

煙草賣渡代金徴收事務ニ關スル件（昭和八年八月二日庶第四三三號　支局長宛　庶務課長）

大邱專賣支局長ヨリ伺出ニ係ル首題ノ件左記ノ通御了知相成タシ

記

問　當月末日迄ニ歸廳豫定ノ配給員ガ水害ノ爲メ翌月歸廳シタル處同人ハ當月配給途中賣渡代金ノ一部ヲ經過地ノ郵便所ニ拂込ミ了シタリ此ノ場合當月分ノ拂込額ハ其ノ月分日計表總計金額以上トナル如何處理スベキヤ

答　經過地ノ郵便所ニ拂込ミタル日ニ於テ一旦打切リ當日拂込後當日分ノ賣渡額ヲ含ム)迄ノ賣渡ハ其ノ月分トシ其後ノ分ハ翌月分トシテ煙草賣捌受拂票及煙草賣渡日計表ヲ區分作成スベシ此ノ場合拂込未了金(成ルベク手持金額ノ拂込ヲ爲スコト)ニ付テハ歸廳後直ニ拂込ミヲ爲シタル日ニ遡及シ分任收入官吏トノ間ニ授受ヲ了シタルコトトシ簿書ハ左ノ通整理ノコト

一　煙草賣捌受拂票

(1)　當月分(途中拂込ヲ爲シタル日ノ分)受拂票ノ記載方

(イ)當日配給員ノ手元保管製品ハ整理ノ便宜上販賣所ヘ返納シタル形式トシ即チ〔拂ノ部、販賣所ヘ〕ノ欄ニ記入ス

(ロ)備考欄ニ左ノ通記入ス

〔一　當日收納金中何圓何錢也ハ何月何日郵便所ニ拂込濟

二　差引現金何圓何錢也〕

(2)　翌月分拂込後歸廳迄ノ分)受拂票ノ記載方

製品手元越高(前回分〔拂ノ部、販賣所ヘ〕ノ欄ニ記載シタル數ト等シ)ハ〔受ノ部、販賣所ヨリ〕ノ欄ニ記入ス

二　煙草賣渡日計表

(1)　當月分(途中拂込ヲ爲シタル日ノ分)ノ日計表ノ記載方

(イ)當日歸廳シタル配給員ノ分ノミニ付作成セル日計表番號ヲ基本番號トシ途中拂込ヲ爲シタル配給員ノ作成シタル煙草賣捌受拂票ニ對シテ別途追加日計表トシテ〔第何號ノ二(又ハ三)〕ノ番號ヲ附シ作成ノコト

(ロ)摘要欄ニハ左ノ通記入ス

〔一　收入金額中何圓何錢也ハ何月何日何郵便所ニ拂込濟

二　差引現金手元保管高何圓何錢也〕

(2)　翌月分拂込後歸廳迄ノ分)ノ日計表ニテ對照ノ便宜上摘要欄ニ左ノ通記入ス

〔當日合計收入金額ノ外何月何日日計表第何號分拂込未了額本日拂込金何圓何錢也〕

三　現金出納簿登記日付ハ當月分ハ實際登記ヲ爲シタル日付トシ摘要欄ニ〔何月何日賣渡日計表第何號ノ何追記〕ト明記スルコト

四　出納簿記載例別紙ノ通(物品ハ右ニ準ズ)

現金出納簿

今三二	摘要	收入	支出	殘高	備考
		円	円	円	
8.7.29	三井銀行第100號	259.500		259.500	
4.30	官舍修繕費ヘ振替		259.500	0	
8.4	第100號小切手記入（7月12日三井銀行）	180.150	170.000	10.150	170圓ハ官舍修繕費ヘ振替ヘ殘額ハ翌月ヘ繰越ス
	七月分計	439.650	429.500		（上記差引殘高ヲ記入ス）
	累計	1.259.000	1.248.850		（上）
8.2	三井銀行第101號	215.310		225.460	（殘高記入ス）
8.3	官舍修繕費ヘ振替		215.310	10.150	
8.4	三井銀行第102號	111.000		121.150	
8.5	官舍修繕費ヘ振替		121.150	0	

煙草貢納ノ義ニ付照會

昭和九年三月二日附平第一五一號ヲ以テ御照會ノ件左記ノ通リ回答ス

記

一　貢納ノ義ニ付テハ煙草耕作者ニ對シ更ニ專賣局長ヨリノ照會ニ對シ昭和九年三月專賣第一六四號ヲ以テ左ノ如ク回答セリ

同作ニ關シ更ニ專賣局長ヨリノ照會ニ對シ昭和九年三月專賣第一六四號ヲ以テ左ノ如ク回答セリ

煙草貢納巡回途中拂込ヲ爲シタル歳入金ノ徴收事務處理方ノ件

（昭和八年度第一六四號）

長官ヨリ各地方專賣局支局長宛

一　貢納ノ義ニ付テハ煙草耕作者ニ對シ更ニ專賣局長ヨリノ照會ニ對シ昭和九年三月專賣第一六四號ヲ以テ左ノ如ク回答セリ

二　貢納ノ義ニ付テハ煙草耕作者ニ對シ更ニ專賣局長ヨリノ照會ニ對シ昭和九年三月專賣第一六四號ヲ以テ左ノ如ク回答セリ

三　貢納ノ義ニ付テハ煙草耕作者ニ對シ更ニ專賣局長ヨリノ照會ニ對シ昭和九年三月專賣第一六四號ヲ以テ左ノ如ク回答セリ

第二款　證券納付歳入

元來政府ノ收入金納付ノ手續ハ納入告知書ニ指定シタル場所ニ現金ヲ以テ納付スルヲ原則トスルガ內地ニ於テハ大正五年三月法律第十號ヲ以テ證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ニ納付スルコトヲ得ルノ途ヲ開カレタリ右ノ如ク收入金納付手續上例外的制度ヲ開カレタルハ主トシテ僻遠ノ地ニ居住スル者ノ納付上ノ利便ヲ圖リ又國債政策上國債證券ノ利用價値ヲ大ナラシムル等ノ爲ニシテ朝鮮ニ於テモ本制度ヲ實施スルノ必要アルヲ以テ大正五年十二月勅令第二百五十五號ヲ以テ該法律ヲ朝鮮ニ施行セラレタリ右勅令及法律ヲ掲グレバ左ノ如シ

大正五年法律第十號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件（大正五年十二月勅令第二五五號）

大正五年法律第十號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル件（大正五年三月法律第一〇號）

第一條　租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得但シ印紙又ハ郵便切手ヲ以テ納付スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ規定ニ依リ納付シタル證券ニ付支拂ナカリシトキハ命令ヲ以テ定メタル場合ニ限リ初メヨリ納付ナカリシモノト看做シ此ノ場合ニ於ケル證券ノ處分ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ關稅又ハ噸稅ヲ初メヨリ納付ナカリシモノト看做シテ徵收スル場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ內國稅徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條　本法ニ依リ證券ヲ受領シタル市町村ハ證券ニ屬スル權利ヲ行使シ現金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ國庫ニ送付スルコトヲ得

市町村其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ由リ證券金額ノ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其ノ事實ヲ具シ政府ニ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ政府ハ事實ヲ審査シ市町村ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第四條　本法中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行期日ノ件（大正五年十二月勅令第二五四號）

大正五年法律第十號ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

前揭法律第一條ノ規定ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ命令ヲ以テ定ムルコトト爲リ居ル結果大正五年十二月勅令第二百五十六號ヲ以テ右證券ノ種類ヲ定メラレタリ卽チ(一)小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名式持參人拂ノモノ(二)無記名國債證券ノ利札ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ(三)宮內省ノ仕拂命令又ハ保管金引出切符ニシテ納人ノ爲發行シタルモノ(四)郵便通常爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ請取人ト指定シ若ハ

受取人ヲ指定セザルモノノ四トシ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セザルモノニ限ラレ又大藏大臣ハ證券ノ金額種類又ハ納付場所ニ依リ其ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得總督ニ於テモ大藏大臣ノ定メタル制限以外ニ更ニ制限ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議ノ上制限スルコトヲ得尚朝鮮ニ在リテハ證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目ハ總督ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス

右勅令ノ全文左ノ如シ

歳入納付ニ使用スル證券ニ關スル件（大正五年十二月改正大正十一年三月　大正十五年八月　勅令第二五六號　勅令第一六五號　勅令第二九四號）

第一條　大正五年法律第十號ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ左ニ掲クルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル但シ第二號ノ場合ニ於テ資本利子稅ヲ課セラルル者ノ納付スヘキ資本利子稅ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名持參人拂ノモノ

二　無記名國債證券ノ利札ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ

三　宮内省ノ仕拂命令又ハ保管金引出切符ニシテ納入ノ爲發シタルモノ又ハ郵便小爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書ニ付テ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ

四　郵便通常爲替證書ニシテ歳入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ

前項ノ證券ニシテ呈示期間若ハ有效期間ノ滿了ニ近ツキタルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絶スルコトヲ得

證券ノ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノニ付亦前項ニ同シ但シ支拂場所カ受領者ノ拂込又ハ送付ヲ爲スヘキ本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　證券ヲ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絶アリタルトキハ歳入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス

第三條　前條ノ場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ遲滯ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨及其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ヲ受クヘキ者其ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住所、居所不明ナルトキハ通知書記載ノ要旨ヲ公告スヘシ

第一項ノ通知書ヲ發シタル日又ハ第二項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　出納官吏、日本銀行又ハ市町村ノ受領シタル證券ノ取扱ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條　證券ヲ以テ納付シ得ル歳入ノ種目ハ主管大臣之ヲ定ム

第六條　大藏大臣ハ證券ノ金額種類又ハ納付場所ニ依リ其ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得

主管大臣ハ前項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタル制限ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條　市町村ニ於テ大正五年法律第十號第三條第二項ノ規定ニ依リ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主管大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ主管大臣ニ送付スヘシ

第八條　本令中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任アル者ニ之ヲ準用ス

第九條　本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ第六條第二項ノ場合ニ於テハ主管大臣ヲ經由スルコトヲ要ス

本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年勅令第三十四號ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十一年三月勅令第一六五號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前政府ノ發シタル仕拂命令、仕拂請求書又ハ保管金引出切符ハ本令施行後一年間仍從前ノ例ニ準シ租稅其ノ他ノ歲入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得

右勅令第六條ノ規定ニ依リ大藏大臣ハ證券ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得ルヲ以テ大正五年大藏省令第三十號ヲ以テ證券ノ納付ニ關スル制限ノ件ヲ發布セリ其ノ全文左ノ如シ

大正五年勅令第二百五十六條第一項ニ依リ證券ノ納付ニ關スル制限ノ件

（大正五年十二月大藏省令三〇號改正大正十一年四月大藏省令第三四號大藏省令第三一號）

第一條　政府ノ振出シタル小切手ハ其ノ振出日付ヨリ一年ヲ經過セサルモノニシテ且裏書禁止ノ旨ノ記載ナキモノナルコトヲ要ス

前項以外ノ小切手ハ左ニ揭クル銀行ニ宛テタルモノニシテ且振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス

一　特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル銀行（本店及支店ニ限ル第二手形交換所ニ加入シタル銀行（當該本店若ハ支店ニ限ル第三號乃至第五號之ニ倣フ）

三　國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行

四　道府縣本金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行

五　朝鮮ノ道金庫、臺灣ノ州金庫、樺太方費金取扱所又ハ關東州ノ地方費現金取扱所ノ事務ヲ取扱フ銀行

六　第二號乃至第五號ニ該當スル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店

第二條　第一條第二項ノ規定ニ依ル小切手ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ一通ノ金額又ハ一日ノ歲入納付ニ使用スル其ノ合計金額百圓以上ナルトキハ支拂銀行ノ支拂保證アルモノナルコトヲ要ス

一　日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行ニ宛テタルモノニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルトキ

二　歲入納付ノ告知ヲ爲ス官署ニ於テ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與ヘタルトキ

歲入納付ノ告知ヲ爲ス官署ハ保證人又ハ擔保物アル歲入ニシテ其ノ告知額ヲ納付スルモ直ニ保證證書又ハ擔保物ノ返還ヲ要セサルモノニ限リ前項第二號ノ承認ヲ與フルコトヲ得

第三條　爲替手形ハ日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行（當該本店又ハ支店ニ限ル）ニ宛テタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス

第四條　爲替手形ハ日本銀行ニ歲入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條　無記名國債證券ノ利札ニシテ資本利子稅法第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子稅ヲ課セラレタルモノハ日本銀行其ノ他利子支拂場所ニ歲入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律ノ公布ニ伴ヒ之ガ施行細則ヲ制定スルノ必要アルヲ以テ大正五年十二月大藏省令第三十二號ヲ以テ該細則ヲ定メラレタリ其ノ全文左ノ如シ

證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則

（大正五年十二月大藏省令第三二號改正大正十一年四月大藏省令第三六號　大正十五年八月大藏省令第三二號）

第一條　證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歲入金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ之ヲ納付ス

ヘシ納稅告知書納入告知書納付書又ハ拂込通知書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ之ヲ添附スルコトヲ要ス

第一條ノ二　無記名國債證券ノ利札ハ當該利札ニ對スル資本利子稅ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ納付金額ト爲スヘシ但シ資本利子稅ヲ課セラレサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　出納官吏（出納員ヲ含ム以下同シ）、日本銀行又ハ市何村（北海道及沖繩縣ノ區、朝鮮ノ府ヲ含ム以下同シ）ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ歳入金ノ領收證書、歳入徵收官ニ對スル領收濟報告書又ハ領收濟通知書ニ「證券受領」ノ印章ヲ押捺スヘシ歳入金ノ一部分ヲ證券ヲ以テ受領シタル場合ニ於テハ其ノ證券金額ヲ控除シタルモノヲ以テ納付金額ト爲シタル無記名國債證券ノ利札アルトキハ「國債利札」ノ印章ヲ押捺シ其ノ納付金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第三條　受領シタル證券ハ遲滯ナク其ノ支拂人ニ呈示シ支拂ノ請求ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ市町村ノ受領シタル證券ニシテ左記各號ノ要件ヲ具フルモノハ其ノ裏面ニ第一號樣式ノ朱印ヲ押捺シ第二號樣式ノ仕譯書ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得

一　持參人ニ支拂ハルヘキモノニシテ其ノ支拂場所カ日本銀行本店、支店又ハ代理店所在地ニ在ルモノ

二　日本銀行ニ到達後呈示期間又ハ有效期間ノ滿了迄ニ三日以上ノ餘裕アルモノ

出納官吏支拂保證ヲ要セサル旨ノ承認ヲ得タル納入ヨリ支拂保證ナキ小切手ヲ受領シタル場合ニ於テ之ヲ日本銀行ニ拂込マムトスルトキハ其ノ裏面ニ「無保證承認」ノ朱印ヲ押捺スヘシ

第四條　出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ル證券中前條規定ノ印章ヲ押捺セサルモノアルトキハ日本銀行ハ之カ受領ヲ拒絕スヘシ

第五條　大正五年勅令第二百五十六號第二條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ直ニ其ノ支拂ナカリシ金額ニ相當スル領收濟額ヲ取消スヘシ領收濟額ヲ取消シタル出納官吏又ハ日本銀行ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ歳入徵收官（分掌官經由）ニ報告スルコトヲ要ス出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ルモノニ付領收濟額ヲ取消シタルトキハ日本銀行ハ直ニ其ノ旨ヲ出納官吏又ハ市町村ニ通知シ該證券ヲ返付スヘシ

出納官吏又ハ市町村前項ニ依リ證券ノ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第六條　歳入徵收官（分掌官ヲ含ム以下同シ）ニ於テ出納官吏又ハ日本銀行ヨリ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ收入濟額ヲ取消スヘシ

歳入徵收官收入濟額ヲ取消シタルトキハ納入ニ對シ前ニ發付又ハ交付シタルモノト同一納期日ノ納稅告知書、納入告知書納付書又ハ拂込通知書ヲ送付スヘシ但シ領收濟取消ノ報告ヲ受ケタル日カ歳入金ノ納期日又ハ督促狀若ハ督促書ノ指定期日後ニ屬スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村ニ於テ領收濟額ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　大正五年勅令第二百五十六號第三條ノ通知書ハ納入ヨリ證券ヲ受領シタル出納官吏、日本銀行又ハ市町村之ヲ發スヘシ

前項通知書ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル公告ハ官報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ但シ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ノ揭示場ニ七日間揭示シテ之ニ代フルコトヲ得

第八條　支拂ナカリシ證券ノ還付ヲ受ケムトスル納入ハ其ノ證券ヲ納付シタル官署、日本證行又ハ市町村役場ニ就キ之カ請求ヲ爲スヘシ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ領收證書ヲ徵シ之ト引換ニ證券ヲ還付スヘシ

第九條　郵便ニ依リ納付シタル證券ニシテ受領スヘカラサルモノ又ハ受領シタル證券ニシテ僞造、變造又ハ造式ナルモノニ付テハ第五條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第十條　證券ノ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタルカ爲支拂ヲ受クルコトヲ得サルトキ又ハ證券ヲ亡失シタルトキハ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ハ證券ノ種類ニ從ヒ直ニ當該法規ノ定ムル所ニ依リ必要ナル手續ヲ爲シ支拂又ハ償還ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁判上ノ行爲ヲ必要トスルトキハ出納官吏在勤官署ニ在リテハ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル所屬官廳ニ、金庫ニ在リテハ大藏大臣ニ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シテ之カ處理ヲ申請スヘシ

市町村ハ第一項ニ依リ支拂又ハ償還ヲ受クルニ先タチ之ニ相當スル金額ヲ日本銀行ニ送付スルコトヲ得

第十一條　亡失シタル證券又ハ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタル證券ニシテ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サリシモノノ金額ニ付テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ避クヘカラサル事由ヲ證明スルニアラサレハ其ノ責任ヲ免カル

ルコトヲ得ス

第十二條　歳入徴收官ニ於テ大正五年大藏省令第三十號第二條ニ依リ承認ヲ爲ストキハ納税告知書、納入告知書、納付書拂込通知書又ハ即納通知書ヲ用フルモノニ在リテハ其ノ餘白ニ第三號様式ノ印章ヲ押捺スヘシ

第十三條　出納官吏、日本銀行又ハ市町村ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

市町村ハ受領證券仕譯簿ヲ備ヘ納人別ニ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十四條　鐵道、郵便電信電話官署ノ出納官吏ニ於テ受領シタル證券ニシテ第三條第一項但書ニ該當スルモノハ之ヲ日本銀行ニ預託シ又ハ郵便局過超金ノ振替拂込ニ充用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ拂込マレタル預託金又ハ郵便局過超金ニ付テハ日本銀行ハ其ノ證券ヲ現金ニ引換ヘタル後ニ非サレハ預託金領收證書又ハ郵便局過超金領收證書ヲ交付スルコトヲ得ス

第一號様式

「何官署」「何市町村」扱

字體　楷書

寸法　曲尺　縦一寸　横五分

第二號様式　用紙適宜輪廓寸法　縦四寸五分　横三寸三分

證券仕譯書第　號

種類	數枚	券面金額	
小切手		圓	
國債證券ノ利札			
宮内省ノ仕拂命令			
〃 保管金引出切符			
郵便爲替證書			
合計			

年　月　日

何官署出納官吏官氏　名　㊞

又ハ

何市町村長　氏　名　㊞

備考

一　本書記載事項ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ出納官吏又ハ市町村長其ノ認印ヲ押捺スルモノトス

二　本書ハ正副二通ヲ作リ副本ハ拂込、預託又ハ送付金額ニ對スル日本銀行ノ領收證書ヲ添附シ置クモノトス

三　國債證券ノ利札ニシテ第一條ノ二ニ該當スル場合ニ於テハ券面金額欄ニ納付金額ヲ記載シ資本利子税ニ相當スル金額ヲ外書スルモノトス

第三號様式

小切手ヲ以テ納付スル場合ニハ支拂銀行ノ支拂保證ヲ要セス

「何官署」

字體　楷書

寸法　適宜

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行ニ關シ更ニ其ノ取扱方ヲ定ムル必要アルヲ以テ大正五年十二月大藏省訓令第十三號ヲ以テ之ガ取扱方ヲ定メラレタリ該訓令左ノ如シ

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律實施ニ付取扱方ノ件

（大正五年十二月大藏省訓令第一三號　改正　大正十一年四月大藏省訓令第一六號　大正十五年八月大藏省訓令第一七號）

第一條　北海道廳、府縣、税務監督局及税務署ノ出納官吏又ハ市町村ニ於テ受領シタル證券ハ大正五年大藏省令第三十一號第三條第一號乃至第三號ニ該當スルモノヲ除クノ外之ヲ郵便局ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大正四年大藏省令第一號第一條、第五條、第六條、第八條及大正五年大藏省令第三十二號第三條ノ規定ニ準據スルモノトス

前項ニ依リ拂込又ハ送付ヲ爲シタル證券ニシテ支拂ナカリシカ爲郵便局ヨリ返付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證書ヲ郵便局ニ送付スヘシ

第二條　證券ノ受拂ニ關スル現金出納簿ノ記帳方ハ左記各號ニ依ルベシ

一　證券ヲ納人ヨリ受領シタルトキ又ハ其ノ證券ヲ日本銀行若ハ郵便局ニ拂込ミタルトハキ之カ受拂ヲ登記スルモ

ノトス但シ摘要欄内ニ「證券」ノ文字ヲ附記シテ現金ト區分スルコトヲ要ス

受領證券中證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則第一條ノ二本文ニ該當スルモノニ付テハ摘要欄内ニ「國債利札」ノ文字ヲ附記シ受拂額ヲ區分記載スルコトヲ要ス

二　大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ其ノ日ニ於テ受ノ欄ニ當該金額ヲ朱書登記スルモノトス但シ日本銀行又ハ郵便局ヨリ領收濟額取消ノ通知ヲ受ケタルモノナルトキハ受拂ノ各欄ニ登記スルコトヲ要ス

第三條　市町村ニ於テ大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ歳入金收納簿ノ當該納入ノ口座ニ其ノ金額事由及年月日ヲ朱書登記スルモノトス

第四條　歳入徴收官ニ對スル出納官吏又ハ日本銀行ノ領收濟額取消報告書ニハ年度、科目、金額、事由其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

出納官吏又ハ市町村ニ對スル日本銀行ノ領收濟額取消通知書ニ付亦同シ

第五條　出納官吏又ハ日本銀行ハ證券ニ關スル仕譯簿ヲ備ヘ納入別ニ證券ノ種類、記號、番號、金額、振出人及支拂人ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ其ノ受入、支拂請求、拂込又ハ還付ノ年月日ヲ記入整理シ證券ニ關スル一切ノ受拂ノ顛末ヲ明瞭ナラシムヘシ

市町村ニ於ケル受領證券仕譯簿ノ記帳整理方ハ前項ノ規定ニ準據スルモノトス

出納官吏又ハ市町村ヨリ拂込又ハ送付ヲ受ケタルモノニ付テハ郵便局ノ出納官吏及日本銀行ハ第一項ノ記入整理ヲ省略スルコトヲ得

證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則別表第二號書式備考三ハ無記名國債證券ノ利札ヲ受領シタル場合ニ於ケル仕譯簿ノ記帳方ニ付之ヲ準用ス

（參照）

大藏省主管ノ歳入納付方ノ件中拔萃（大正五年十二月大藏省令第三十一號）

第三條　郵便局ニ於テ取扱フ歳入ハ左ニ揭クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス

一　政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ニシテ納付スヘキ郵便局所在地ノ手形交換所ニ加入セサル銀行ニ宛テタルモノ但シ其ノ手形交換所ニ加入セル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店ニ宛テタルモノヲ除ク

二　郵便爲替證書ニシテ納付スヘキ郵便局以外ノ郵便局ヲ拂渡郵便局トシテ指定シタルモノ

三　政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ郵便爲替證書以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局ノ所在地ニ在ラサルモノ

（參照）

郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規定中拔萃

（大正四年一月大藏省令第一號）

第一條　大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ル歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ハ左ニ揭クルモノニ限ル

一　稅務署ノ直接徴收スル國稅金

二　北海道廳、府縣、稅務署、稅務監督局ノ收納スル國庫ノ諸收入金

二ノ二　北海道廳及府縣（東京府ニ在リテハ警視廳）ニ於テ收納スル健康保險ニ關スル諸收入金

三　收入官吏カ日本銀行（本店支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ拂込ムヘキ前三號ノ收入金

三ノ二　專賣官署ノ收入官吏カ日本銀行ニ拂込ムヘキ煙草專賣ニ關スル收入金

四　市（區）町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金

五　日本銀行在地外ニ於テ債主ニ支拂テ要スル歳出金

第五條　收入官吏カ領收シタル收入金ハ第五號書式ノ現金拂込書ニ依リ所屬歳入徴收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管內ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得但シ專賣官署ノ收入官吏カ領收シタル收入金ハ其ノ在勤廳所在地ノ道廳府縣管內ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ出納官吏事務規程第十八條乃至第二十條ノ規定ニ拘ハラス其ノ領收シタル金額ハ每日之ヲ取纏メ翌日限之ヲ拂込ムヘシ

第六條　市(區)町村ハ其ノ徵收シタル國稅金ニ第六號書式ノ送付書ヲ添ヘ前項指定ノ場所ニ送付スヘシ

第八條　收入官吏ハ第五條ニ依リ郵便局ニ拂込タル金額ト區別シテ現金拂込仕譯書ヲ作成シ歲入徵收官ニ報告スヘシ

（樣式省略）

總督ハ大正五年勅令第二百五十六號第五條及第六條第二項ニ依リ證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目及其ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得ルヲ以テ大正六年三月本府府令第二十二號ヲ以テ夫規定セラレタリ其ノ詳細ハ該府令ニ明カナルモ今其ノ要旨ヲ示セハ歲入種目ハ本府及所屬官署ニ於テ取扱フ歲入ハ總テ證券ヲ以テ納付スルコトヲ得又其ノ制限ハ證券中小切手又ハ爲替手形ハ煙草專賣令及紅蔘專賣令犯則者納金及煙草專賣令及紅蔘專賣令犯罪者辨納金（專賣關係以外ノ事項ハ省略ス）ノ納付ニ使用スルコトヲ得ザラシムルモノトス

右府令左ノ如シ

證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目及其ノ納付ニ關スル制限ノ件

（大正六年三月本府府令第二二號　改正大正十一年八月本府府令第一一八號　大正十四年四月本府府令第三八號）

大正五年勅令第二百五十六號第五條及第六條第二項ニ依リ證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目及其ノ納付ニ關スル制限左ノ通定ム

第一條　朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於テ取扱フ歲入ハ總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第二條　小切手又ハ爲替手形ハ左ニ揭クル歲入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一　罰金、科料、過料、刑事追徵金、訴訟費用及非訟事件ノ費用

二　關稅法第九十四條ノ規定ニ依ル納金並朝鮮噸稅令、朝鮮出港稅令及大正九年制令第十九號ニ基ク關稅法第九十四條ノ規定ニ依ル納金

三　朝鮮間接國稅犯則者納金及朝鮮間接國稅犯則者處分費辨納金

四　朝鮮煙草專賣令及紅蔘專賣令犯則者納金及朝鮮煙草專賣令及紅蔘專賣令犯罪者辨納金

第三條及第四條（省略）

第五條　郵便局又ハ郵便所ニ於テ取扱フ歲入ハ左ニ揭クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

一　小切手ニシテ納付スヘキ郵便局又ハ郵便所所在地ノ手形交換所ニ加入セサル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店ニ宛テタルモノヲ除ク

二　郵便爲替證書ニシテ納付スヘキ郵便局又ハ郵便所以外ノ郵便局又ハ郵便所ヲ拂渡局、所トシテ指定シタルモノ

三　小切手又ハ郵便爲替證書以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局又ハ郵便所ノ所在地ニ在ラサルモノ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ニ於テモ證券ヲ以テスル歲入ノ納付ニ關シ其ノ取扱方ヲ定ムル必要アルヲ以テ大正六年四月官通牒第七九號ヲ以テ政務總監ヨリ歲入徵收官、出納官吏、府面ニ夫々通牒セラレタリ右通牒左ノ如シ

證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル件（大正六年四月官通牒第七九號歲入徵收官、出納官吏、府面宛　政務總監）

今般朝鮮總督府令第二十二號發布セラレ候ニ付テハ證券ヲ以テスル歲入納付ニ關シテハ同府令及大正五年法律第十號、同年勅令第二百五十六號、同年大藏省令第三十號、第三十二號ノ規定スル所ニ依リ取扱上遺憾ナキヲ期スルハ勿論ニ候得共尙左記各項御承知可相成此段及通牒候也

記

一　大正六年朝鮮總督府令第二十二號第二條ニ揭ケタル各號ノ事項ニ該當スル歲入ニ付納入告知書、納付書、拂込通知書又ハ卽納通知書ヲ發スルトキハ其ノ適當ノ箇所ニ此ノ納金ハ小切手又ハ爲替手形ヲ以テ納付スルコトヲ得ス」ト記載スヘシ

二　整理其ノ他ニ因リ證券ヲ亡失シタルトキハ其ノ旨直ニ支拂人ニ通知其ノ他支拂ヲ防止スルニ適當ナル手續ヲ爲シ且現金ニ關スル規定ニ準シ本府ニ報告スヘシ

三　亡失シタル證券又ハ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタル證券ニシテ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サリシ場合ハ詳細ノ事由ヲ具シ本府ニ報告スヘシ

四　受領シタル證券ハ大正六年朝鮮總督府令第二十二號第五條ニ揭ケタル各號ニ該當スルモノヲ除クノ外之ヲ郵便局所ニ拂込又ハ送付ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大正五年大藏省令第三十二號第三條ノ規定ニ準據スヘシ

五　前項ニ依リ拂込又ハ送付ヲ爲シタル證券ニシテ支拂ナカリシトキハ郵便局所ハ其ノ領收濟額ヲ取消シ其ノ旨拂込又ハ送付ヲ爲シタル出納官吏又ハ府面ニ通知シ該證券ヲ返付シ返付ヲ受ケタル出納官吏又ハ府面ハ其ノ受領證書ヲ郵便局所ニ送付スヘシ

六　證書ノ受拂ニ關スル現金出納簿ノ記載方ハ左記各號ニ依ルヘシ

イ　證券ヲ納人ヨリ受領シタルトキ又ハ其ノ證券ヲ金庫若ハ郵便局所ニ拂込タルトキハ之カ受拂ヲ登記スヘシ但シ摘要欄ニ「證券」ノ文字ヲ附記シテ現金ト區分スルコトヲ要ス

ロ　大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ其ノ日ニ於テ受ノ欄ニ當該金額ヲ朱書登記スヘシ但シ金庫又ハ郵便局所ヨリ領收濟額取消ノ通知ヲ受ケタルトキハ受拂ノ各欄ニ登記スルコトヲ要ス

七　府面ニ於テ大正五年大藏省令第三十二號第五條ニ依リ領收濟額ヲ取消シタルトキハ收納簿當該納人ノ欄ニ其ノ金額、事由及年月日ヲ朱書登記シ合計及面計ヲ相當整理スヘシ

八　歲入徵收官ニ對スル出納官吏ノ領收濟額取消報告書ニハ年度、科目、金額、事由其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

九　出納官吏ハ證券ニ關スル仕譯簿ヲ備ヘ納人別ニ證券ノ種類、記號番號、金額、振出人及支拂人ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ其ノ受入、支拂請求、拂込又ハ還付ノ年月日ヲ記入整理シ證券ニ關スル一切ノ受拂ノ顚末ヲ明瞭ナラシムヘシ

府面ニ於ケル證券仕譯簿ノ記帳整理方ハ前項ニ準據スシ

出納官吏又ハ府面ヨリ拂込又ハ送付ヲ受ケタルモノニ付テハ郵便局所ノ出納官吏ハ第一項ノ記入整理ヲ省略スルコトヲ得

第三款　徵收雜件

納入ニ關スル手續又ハ規定ニシテ單獨ノ事項ト爲リ系統ニ依リテ述ベ難キモノアリ依テ之ヲ徵收雜件トシテ述ブルコトトセリ

一　延納取扱

第一編第二十二章第二節第四款第二項ニ述ブルガ如ク煙草賣渡代金ニ對シ擔保トシテ國債ヲ提供シタルトキハ四箇月間以內ノ納期ヲ以テ（煙草專賣施行當初ハ延納期間ハ三箇月ナリシカ大正十一年一月ニ僻遠ノ地方ハ五箇月、其ノ他ハ三箇月ニ短縮シ昭和六年二月更ニ僻遠ノ地方ハ六箇月其ノ他ハ四箇月ニ延長シ昭和二年十月再ヒ僻遠ノ地方ハ六箇月其ノ他ハ四箇月トナシタルモノトス）其ノ期ト爲シ調定ノ手續ヲ爲スト共ニ所定ノ納入告知書ヲ發行シテ納付セシムルモノトス

其ノ後昭和六年七月ヨリ販賣ヲ直營スルコトト爲リタル結果製品ハ政府ヨリ直接小賣人ニ賣渡

スコトト爲リタルヲ以テ小賣人ニ對シテハ延納ヲ許可スルモ一回ノ買受代金五百圓以上ノ場合ノミ特ニ延納ヲ許可スルコトト爲シタル結果小賣人ニシテ一回ノ買受代金五百圓以上ニ上ル者ノ如キハ殆ド皆無ナルヲ以テ直營後ハ實際延納ヲ許可シタルモノナシ

二　端數計算

大正五年勅令第五十七號ヲ以テ朝鮮ニモ同年法律第二號國庫出納金端數計算法ヲ施行セラレ居ル結果同法ノ適用ニ依リ專賣收入上同法ヲ適用セザル沒收金、犯罪ニ基ク追徵金ヲ除キ其ノ他ノ歲出入ハ何レモ錢位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トシテ徵收ス

三　擔保物件賣却整理

擔保物ヲ提供セシメ煙草等ノ賣渡代金ヲ延期シタル場合ニ其ノ賣渡金ヲ期限內ニ納付セザル爲擔保物ヲ處分セントスル場合ノ取扱方ハ局會計事務取扱規程中ニ夫々規定シアリ今其ノ取扱方ノ概要ヲ述ブレバ局所ノ歲入徵收官ハ供託局ニ一定ノ樣式ニ依ル供託物件拂戾請求書ヲ送付シ該物件ノ引渡ヲ請求シ之ガ引渡ヲ受ケタルトキハ一時其ノ廳ノ物品會計官吏ニ引繼ギ一面滯納者ノ住所、氏名、徵收スベキ科目別金額、擔保物ノ種類、處分ノ方法等ヲ具シ本局長ノ承認ヲ受ケシメ又擔保物件ヲ賣却シタル場合ハ一旦歲入歲出外現金トシテ取扱タル上賣却ニ關スル費用及賣渡代金等ヲ歲入ニ徵收シ殘餘金アル場合ニ未收入ニ屬スル金額アルトキハ之ヲ本人ニ還付シ未收入ニ屬スル金額アルトキハ之ニ充當シ尙擔保物ヲ賣渡シ徵收ノ處分ヲ了シタルトキハ收支計算書ヲ作リ之ヲ擔保提供者ニ交付スルモノトス

局會計事務取扱規程中擔保物件ノ處分ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月局訓令第一八號改正大正十一年三月局訓令第六號）

第三章　歲入

第二十五條　各支局長及各所長ハ煙草又ハ鹽賣渡代金滯納ノ爲供託ニ係ル擔保物件ノ拂渡ヲ受ケムトスルトキハ第四號樣式ノ供託物件拂戾請求書ニ依リ金庫ニ對シテ該物件ノ引渡ヲ請求スヘシ

前項ニ依リ引渡ヲ受ケタル供託物ハ其ノ廳ノ物品會計官吏ニ引繼クヘシ

第二十六條　擔保物件ヲ處分セムトスル場合ニハ左ノ事項ヲ具シ豫メ本局長ノ承認ヲ受クヘシ

一　滯納者ノ氏名及住所

二　徵收スヘキ科目別金額

三　據置擔保ニ依ル延納ニ屬スルモノニシテ未タ納期ニ達セサル科目別金額

四　滯納金額ニ對スル總擔保物件ノ種類、額面金額（甲種登錄國債ニ付テハ登錄金額）賣却見込價格、記名無記名ノ別、記號及番號（記名又ハ登錄國債ニ付テハ其ノ氏名竝住所）利札ニ關スル事項（大正何年何月分渡以降ニ屬スル旨ヲ記入ス）證券ノ保管場所、遲延利息ノ總額竝債權總額ニ對スル一日分ノ利息

五　處分ノ方法

六　右ノ外必要ナル事項

前項ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ顚末ヲ本局長ニ報告スヘシ

第二十七條　煙草又ハ鹽賣渡代金滯納ノ爲擔保物件ノ全部又ハ一部ヲ賣却シタルトキハ一旦歲入歲出外現金トシテ之ヲ取扱ヒタル上賣却ニ關スル費用及賣渡代金等ヲ歲入ニ編入スヘシ

一　未收入ニ屬スル金額ナキトキハ之ヲ本人ニ還付スルコト

二　未收入ニ屬スル金額アルトキハ左ノ區別ニ從ヒ處理スルコト

イ　殘餘金額カ未收入金額ニ超過スルトキハ其ノ未收入ノ金額ニ相當スル金額ヲ控除シ殘餘ノ金額ヲ還付ス

ロ　殘餘金額カ未收入ノ金額以下ナルトキハ之ヲ還付セス

三　本人ニ還付セサル金額ハ擔保物件ニ代位スル金額トシテ之ヲ金庫ニ保管寄託ノ手續ヲ爲スコト

第二十八條　擔保物件ヲ賣却シ殘收ノ處分ヲ了シタルトキハ收支ノ計算書ヲ作リ之ヲ擔保提供者ニ交付スヘシ

第四號樣式

供託物件拂戻請求書

（幾分ノトキハ請求書ノ上部ニ大正何年何月何日第何號供託受領書ノ内ト屑書シ全部ノトキハ請求額ノ下部ニ大正何年何月何日ト供託受領書第何號ト記入スヘシ）

一　第何回國庫債券額面何圓也（大正何年何月何日供託受領書第何號）

但シ大正何年何月渡利札附屬

右ハ煙草賣渡代（鹽賣渡代）延納擔保トシテ何府何郡何町何丁目何番地某ヨリ供託ノ處今般同代金滯納ニ付契約ニ基キ之ヲ處分スル爲本官ニ於テ右物件ノ拂戻ヲ相受度別紙供託受領書相添ヘ此段及請求候也

大正何年何月何日

何專賣支局（何出張所）長氏　　名㊞

何金庫宛

備考

一　仕拂時期開始ノ利札アルトキハ本文中契約ニ基キノ下ニ「仕拂時期開始利札トモ」ノ十字ヲ加フ

二　供託物全部ノ拂戻ヲ要スルトキハ供託物受領書ニ式ノ如ク奥書ヲ爲シ幾分ノ拂戻ヲ要スルトキハ供託物取扱規則第五號書式ノ領收證書ヲ添附スルモノトス

四　租稅外諸收入金ノ整理

政府ノ貸付金ヲ除クノ外租稅外ノ諸收入金ニシテ納人無資力ノ爲一時ニ收納スルコト困難ナル場合ニ於テハ明治四十四年法律第五十八號ニ依リ分賦辨濟ノ方法ニ依ル定期貸ト爲シ又ハ資力回復ノ見込ナシト認ムルトキハ其ノ債務ヲ免除スルコトヲ得

回復ノ時ヲ辨濟ノ期限トスル据置貸ト爲スコトヲ得ルノ途ヲ開キアリ右法律制定ノ際勅令第百二十號ヲ以テ右法律ヲ朝鮮ニモ施行スル件公布セラレアルヲ以テ專賣制度施行後ノ專賣收入ニ對シテモ亦同法ヲ適用シ得ルモ元來專賣品其ノ他諸物品ノ賣渡代金等ハ卽納ノ場合ハ物件引渡前ニ前納セシメ延納許可ノ場合ハ擔保ヲ提供セシメ納入ノ確保ヲ期セルヲ以テ實際同法ヲ適用スルハ出納官吏ノ辨償金收納ノ如キ極メテ小範圍ニ止マルモノトス

今該勅令、法律及施行規則竝貸付金取扱規程等ヲ掲グレバ左ノ如シ

朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スル法律ニ關スル件（明治四十四年法律第五十八號ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス）

附　則

本令ハ明治四十四年法律第五十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

租稅外諸收入金整理ニ關スル件（明治四十四年法律第五十八號）

第一條　政府ノ貸付金ヲ除クノ外租稅外諸收入金ニシテ納人無資力ノ爲一時ニ收納スルコト困難ナル場合ニ於テハ之カ分賦辨濟ノ方法ニ依ル定期貸ト爲シ又ハ資力回復ノ時ヲ辨濟ノ期限トスル据置貸ト爲スコトヲ得

第二條　前條ノ定期貸ニ付テハ貸付ノ日ヨリ二十年ヲ經過シタル場合ニ於テ債務者無資力ニシテ資力回復ノ見込ナシト認ムルトキハ其ノ債務ヲ免除スルコトヲ得

附　則

第二條ノ規定ハ本法施行ノ際現存スル雜種貸及据置貸ニ之ヲ準用ス

明治四十四年法律第五十八號施行規則（明治四十四年勅令第一二一號　改正大正十二年五月勅令第二八七號）

第一條　明治四十四年法律第五十八號第一條ノ規定ニ依リ定期貸又ハ据置貸ト爲ス場合ニ於テハ所管大臣之カ編入ヲ

爲スヘシ但シ朝鮮總督府ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣總督府ニ在リテハ臺灣總督、關東廳ニ在リテハ關東長官、樺太廳ニ在リテハ樺太廳長官、南洋廳ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ爲スヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ編入シタル定期貸又ハ据置貸ニシテ一般會計ニ屬スルモノハ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ其ノ特別會計ニ屬スルモノハ之ヲ大藏大臣ニ引繼キ一般會計ニ移屬セシムルコトヲ得

前項ノ引繼ヲ爲スニハ債務者ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ニ關係書類ヲ送付シ必要ノ事項ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第三條　大藏大臣ニ引繼キタル定期貸及据置貸ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ地方長官之ヲ管理スヘシ

第四條　債務者ノ住所カ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在ル場合ニ於テ地方長官ニ關スル規定ハ朝鮮總督、臺灣總督、關東長官、樺太廳長官又ハ南洋廳長官ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年法律第五十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

貸付金取扱規程（明治四十四年四月大藏省令第一七號）

第一條　明治四十四年勅令第百二十一號第二條ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ引繼キタル貸付金及本令施行ノ際現存スル雜種貸並据置貸ハ本令ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　貸付金ハ定期貸及据置貸ニ區別シテ之ヲ整理スヘシ

本令施行ノ際現存スル雜種貸ハ定期貸トシテ整理スヘシ

第三條　貸付金ハ前條ノ區別ニ依リ甲號書式ノ臺帳ヲ備ヘ債務ノ原因編入年月日、金額、辨濟期限及債務者保證人ノ住所氏名等ヲ之ニ登記スヘシ

前項ノ登記事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ訂正スヘシ

第四條　定期貸ニ付テハ其ノ期限ノ到來シタルトキ收納ノ手續ヲ爲シ据置貸ニ付テハ毎年度ノ終ニ於テ債務者ノ所在及資產ノ實況ヲ調査シ債務ノ全部又ハ一部ヲ返納シ得ヘキ資力ヲ生シタリト認ムルトキ收納ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　貸付金ノ辨濟期限又ハ分賦額其ノ他契約ノ內容ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ事實ヲ具申シ大藏大臣ノ認可ヲ得ヘシ但シ返濟期ヲ短縮スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　明治四十四年法律第五十八號第二項ニ該當スルモノト認ムルトキハ其ノ事實ヲ具申シ大藏大臣ノ認可ヲ得テ臺帳ヨリ削除スヘシ

時效其ノ他ノ事由ニ因リ債務消滅シタル場合亦前項ニ同シ

第七條　債務者他管內ニ住所ヲ移シタルトキハ其ノ所轄廳ヘ關係書類ト共ニ貸付金管理ノ引繼ヲ爲スヘシ

第八條　左ニ揭クル場合ニ於テハ乙號書式ニ依リ三箇月毎ニ異動報告書ヲ調製シ翌月（四月、七月、十月、一月）十五日限大藏省ニ送付スヘシ

一　新規編入、收納又ハ削除アリタルトキ

二　第五條ニ依リ契約ノ內容ニ變更アリタルトキ

三　相續又ハ債務者氏名ノ變更アリタルトキ

四　第七條ニ依リ引繼又ハ引受ヲ爲シタルトキ

第九條　貸付金ニ關スル證書類ハ明治二十六年八月大藏省訓令第千百九十八號預金局保管證書保管規則ニ準據シ之ヲ保管スヘシ

第十條　第三條ノ臺帳ニ基キ每年度末ノ現在額ヲ取調丙號書式ノ報告書ヲ調製シ翌年度四月十五日限大藏省ニ送付スヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年勅令第百二十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年十二月大藏省訓令第七十七號諸貸付金取扱規程ハ之ヲ廢止ス

甲號書式（本簿ハ種目別ニ調製シ末尾ニ合計ノ口座ヲ設クルモノトス但シ便宜合册トナスコトヲ妨ケス）

債務原因		住所

編入年月日	金額	納期限	年月日	摘要	収納金額	削除金額	未収入金額
					円	円	円

備考

一　他官廳ヨリ引受ケ爲シタルトキハ未收入金額欄ニ記入スヘシ

二　他官廳ニ引繼ケ爲シタルモノハ其ノ引受ノ通知アリタルトキ削除金額欄ニ朱書ヲ以テ記入スヘシ

債務者　氏　名
住所
保證人　氏　名

乙號書式

明治何年自何月至何月貸付金異動報告書

種目	金額	事由	債務者（保證人）住所	氏名
定期貸	円			
据置貸	円			
定期貸	円			
据置貸	円			
定期貸	円			
据置貸	円			

右及報告候也

年　月　日

道廳長官又ハ府縣知事　氏　名　印

大藏大臣宛

丙號書式

明治何年度末貸付金現在額報告書

種目	前年度繰越額	新規編入額	計	收入額	削除額	計	殘額
定期貸	円	円	円	円	円	円	円

据置貸											

右及報告候也

年　月　日　道廳長官又ハ府縣知事　氏　名印

大藏大臣宛

備考　本表新規編入額ニハ新ニ編入シタルモノ其ノ他引繼ヲ受ケタルモノヲ合算シ又削除額ニハ免除處分ヲ爲シタルモノ時效又ハ絶家等ニ因リ消滅シタルモノ及引繼ヲ爲シタルモノヲ合算スルモノトス

明治四十四年六月官通牒第一六七號ヲ以テ政務總監ヨリ貸付金ニ編入稟甲ノ際添附スベキ書類ノ件ニ關シ左ノ如ク通牒セラレアリ

貸付金ニ編入稟申ノ際添附スヘキ書類ノ件（明治四十四年六月官通第一六七號本府所屬官署宛政務總監）

明治四十四年三月法律第五十八號第一條ニ依リ貸付金ニ編入セムトスル場合ハ納人無資力ノ爲一時ニ收納スルコト困難ナル事實ヲ確認スルニ足ルヘキ書類（例ヘハ市區町村長其他相當官公吏ノ證明セル財産調書及戸籍謄本等）ヲ添附稟申相成度候也

本府會計事務章程中貸付金ノ取扱方ニ關スル規定ヲ拔萃スレハ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル昭和十年三月末日現在）

第十一章　貸付金

第二百四條　租税外收入金ニシテ明治四十四年法律第五十八號第一條ニ依リ貸付金ニ編入スルノ必要アルトキハ歳入徴收官ヲ置キタル各廳ノ長ハ債務額、債務原因、辨濟期限、債務者及保證人ノ住所氏名竝貸付金編入ニ要スル事由ヲ詳具シ左ノ書類ヲ添附シ其ノ處分方ヲ本府ニ申請スヘシ但シ本府ニ關スルモノニ在リテハ總督官房會計課長ヨリ之ヲ財務局長ニ通告スヘシ

一　第三十五號書式ノ二ニ依リタル債務者ノ願書

二　官公吏ノ證明ニ係ル資力調書及戸籍謄本其ノ他貸付金ニ編入ヲ要スル事由ヲ證明スル書類

前項ノ場合ニ於テ税務署ニ關スルモノハ税務監督局長ヨリ之ヲ申請スヘシ

第二百五條　前條ノ申請又ハ通告アリタルトキハ財務局長ハ其ノ事由ヲ審査シ定期貸又ハ据置貸ノ區別、其ノ金額、辨濟期限其ノ他契約條件ヲ定メ朝鮮總督ノ決裁ヲ受ケ關係書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ債務者住所地ノ道知事ニ通知スヘシ其ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

道知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ債務者ヨリ第三十五號書式ノ三ノ債務證書ヲ徴シ之ヲ保管スヘシ

第二百六條　朝鮮總督府及所屬官署以外ノ官廳ヨリ貸付金ノ引繼アリタルトキハ財務局長之ヲ調査シ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ作リ關係書類ト共ニ之ヲ債務者住所地ノ道知事ニ交付スヘシ

一　前管理廳名

二　貸付金ノ種類及金額

三　債務ノ原因

四　編入ノ年月日

五　辨濟期限

六　債務者及保證人ノ住所氏名

第二百七條　明治四十四年法律第五十八號施行ノ際現存セル貸付金及明治四十四年大藏省令第十七號貸付金取扱規程第七條ニ依リ朝鮮總督府及所屬官署以外ノ官廳ヨリ引繼ヲ受ケタル貸付金ハ一般會計所屬トシ本府ニ於テ新ニ貸付

金ヲ編入シタルモノハ朝鮮總督府特別會計所屬トシ、朝鮮總督府特別會計所屬ニ非サル所屬官署ノ歳入トナルヘキモノハ其ノ特別會計ノ所屬トシ各別ニ整理スヘシ

第二百八條　道知事第二百五條ノ通知又ハ第二百六條ノ書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ貸付金取扱規程ニ依リ其ノ取扱ヲ爲シ同規程第八條及第十條ニ揭ケル事項ニ付テハ報告書ヲ作リ其ノ報告ヲ爲スヘキ月ノ十日迄ニ本府ニ提出スヘシ

財務局長ハ前項ノ報告書ヲ取纏メ大藏省ニ送付スヘシ

第二百九條　貸付金ノ契約條件ニ變更ヲ要シ又ハ債權ノ喪失ニ關スル事項アルトキハ道知事ハ事由ヲ詳具シ本府ニ申請スヘシ但シ辨濟期ノ短縮ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ期限ノ延長又ハ債權ノ喪失ニ係ルモノニ付テハ收納ノ困難又ハ資力回復ノ見込ナキ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二百九條ノ二　第二百四條及前條第二項ノ場合ニ於テ滯納處分又ハ强制執行ヲ爲シタルモ債務額ヲ辨濟スルニ足ラサルモノニ付テハ無資力證明ノ書類ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二百十條　朝鮮内ニ在リテハ債務者ノ住所地ヲ他ノ道ニ移轉シタルトキハ舊住所地ノ道知事ハ新住所地ノ道知事ニ其ノ旨ヲ通知シ第二百五條及第二百六條ノ書類ヲ引繼キ其旨本府ニ報告スヘシ

第二百十一條　債務者朝鮮外ニ住所ヲ移轉シタルトキハ道知事ハ第二百六條ノ事項ヲ記載シタル書面ニ關係書類ヲ添ヘ本府ニ提出スヘシ

前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ財務局長ハ之ヲ審査シ其ノ債權カ一般會計ニ屬スルモノニ付テハ債權者ノ所轄廳ニ貸金管理ノ引繼ヲ爲スヘシ

第二百十二條　貸付金ニ關スル證書類ハ堅牢ナル金櫃ニ藏置シ鄭重ニ保管スヘシ

第二百十三條　朝鮮總督府特別會計其ノ他ノ特別會計ニ屬スル貸付金ニシテ一般會計ニ移屬セシムルコトヲ要スルモノアルトキハ財務局長ハ朝鮮總督ノ決裁ヲ受ケ大藏大臣ニ引繼ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十五號書式ノ二

據置(定期貸編入願

一金　何　程

但シ何何(債務ノ原因ヲ記載スルコト)

右ハ擔者無資力ニシテ直ニ納付難致候間資力回復ノ時期ニ辨濟スヘキ據置(左記ノ通分賦辨濟スヘキ定期貸)ニ御編入相成度此段願上候也

年　月　日

住所
何
某印

朝鮮總督宛

記載例　定期貸ニ付テハ分賦辨濟金額及期限ヲ左ニ記載セシムルコト

第三十五條書式ノ三

債務證書

一金　何　程

但シ何何(債務原因ヲ記載セシムルコト)

右債務金額何年何月何日據置(定期)貸ニ御編入相成候ニ付テハ資力回復ノ上ニ無相違左記ノ通無相違分賦辨濟可致候他

年　月　日

住所
何
某印

朝鮮總督宛

記載例　定期貸ニ付テハ分賦辨濟額及期限ヲ左ニ記載セシムルコト

明治四十四年三月法律第五十八號第一條ニ依リ貸付金ニ編入セントスルニ際シ從來定期貸ト爲スヲ可トスベキモノ迄モ據置貸ニ編入方願出ヅル傾向アリタルガ無資力ナル納人ニシテ容易ニ

資力回復スルノ見込ナシト認メラルル者以外ハ成ルベク定期貸ト爲シ以テ納人ノ便ヲ計ルト共ニ收納ノ確實ヲ期スル樣特ニ政務總監ヨリ通牒ノ次第モアリタルヲ以テ右方針ニ依リ取扱ハルベキ旨昭和八年二月專賣第七四號ヲ以テ各支局長ニ通牒セリ

第二ニ述ブルガ如ク懲罰及沒收金ノ收入金ニ對シテハ國庫出納金端數計算法ヲ適用セザルヲ以テ追徵金ニシテ厘位アル場合ニハ厘位ヲ存シタル儘通告ヲ要スルモノナルガ犯則者ヨリ該納金ノ厘位ヲ錢位ニ切上郵便爲替ヲ以テ納付シ來リタル場合ニハ調定外誤納トシテ處理スベク尙本人出頭シテ納付スベキ場合ニハ通告以外ノ金額ヲ受領スル限ニ非ザルモ止ムヲ得ザルトキハ右ノ取扱ニ依ルベキ旨大正十二年十二月專賣第二八二三號ヲ以テ各專賣官署長ニ通牒セリ

第二節　歳出

歳出トハ專賣制度ヲ施行シ之ガ事業ノ經營ヲ爲スニ方リ各般ノ需要ヲ充スガ爲支出スル所ノ一切ノ經費ヲ云フ

財政上ノ理由ニ依リ創設セラレタル專賣事業會計ノ要旨ハ合理的ニ歳入ノ增加ト歳出ノ節約ヲ圖リ事業成績ヲ擧揚シ一面其ノ取扱ヲ確實適正ナラシムルニ在リ而シテ收入ハ自ラ一定ノ範圍アリテ特殊ノ原因アルニ非ザレバ此ノ範圍ヲ超越シテ消長スルコトナキガ故ニ其ノ規定ハ自ラ簡單ナリ然レドモ其ノ支出ニ至リテハ其ノ種類繁多ニシテ弛張スル所自ラ原因アリ蓋シ會計ノ紊亂ニ陷ルモノ主トシテ歳出ノ法制確定セザルニ基因スルモノナリ

專賣收入ニ關スルモノハ前節ニ於テ之ヲ述ベタリ本節ニ於テハ專賣歳出ノ方針、方法及取扱ノ實蹟等ヲ述ベントス

第一款　豫算經理規定

專賣ニ關スル會計モ本府ノ一般會計ニ編入セラレタルハ前章第一節第一款ニ述ブルガ如シ故ニ專賣歳出モ本府ノ一般會計ニ依ルベキハ勿論トス

豫算經理ニ關シテハ會計規則、本府會計事務章程及局會計事務取扱規程等ニ夫々規定シアリ而シテ會計規則ハ前章第一節第二款ニ揭ゲタルヲ以テ之ヲ省略スルモ本府會計事務章程及局會計事務取扱規程中豫算ノ經理ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル）（昭和十年三月末日現在）

第二章　豫算及決算

第二十五條　左記ノ區分ニ依リ當該各官ハ次年度歳入歳出ニ關スル計畫書及之ニ伴フ收支ノ說明書ヲ作リ其ノ前年度ノ豫算ニ比較シ增減アルモノハ其ノ事由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル調書ヲ添ヘ第一號乃至第十七號ノ各官ニアリテハ五月三十一日迄ニ第十八號乃至第二十三號ノ各官ニアリテハ六月三十日迄ニ各四通ヲ本府ニ提出スヘシ

（省略）

二十一　專賣局ニ關スルモノハ專賣局長

（省略）

第二十七條ノ二　第二十五條乃至第二十七條ノ提出期限ハ時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第三十條　所管大臣ヨリ決定豫算ノ通知アリタルトキハ財務局長ハ歳入豫算ヲ各局長、遞信局長、鐵道局長ニ通知シ歳出豫算ヲ支出官ニ支拂委任ノ手續ヲ爲シ支拂豫算ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付シ同時ニ之ヲ日本銀行京城代理店ニ通知スヘシ支拂豫算ヲ更定シタルトキ亦同シ

財務局長ハ日本銀行代理店ノ設ナキ地ノ内務局出張所、刑務所及官立學校竝農事試驗場ノ豫算ヲ支出官ニ支拂委任ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ豫算額ヲ各其ノ廳ノ長ニ通知スヘシ

各局長遞信局長、鐵道局長及專賣局長歳入豫算ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ歳入徵收官ニ通知スヘシ

支出官ハ他ノ官吏ニ對シ更ニ豫算ヲ分配スルコトヲ得

第三十一條　支出官及豫算ノ分配ヲ受ケタル各官ハ支拂委任又ハ分配ヲ受ケタル豫算ニ付直ニ其ノ使用計畫書ヲ作成スヘシ其ノ豫算ニ增減アルトキ又ハ匡定計畫ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ都度之ヲ更正スヘシ

第三十二條　特ニ用途ヲ指定スル工事費豫算ハ他ノ工事費ニ使用スルコトヲ得ス

支出官前項豫算ノ支拂委任ヲ受ケタルトキハ其ノ工事竣功後直ニ支拂委任額、工事別精算額、不用額及事由等ヲ記載シタル工事精算書ヲ作成シ之ヲ本府ニ報告スヘシ

第三十三條　支出官ハ豫算ノ流用又ハ科目ノ新設ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シ本府ニ申請スヘシ但シ特ニ委任セラレタル豫算ノ流用ニ付テハ之ヲ決行スヘシ

豫算流用申請書ハ第二號樣式、豫科目新設申請書ハ第三號書式ニ依ルヘシ

年功加俸及特別俸給ノ俸給豫算ハ他ノ費途ヘ流用スルコトヲ得ス

第三十四條　各局長、遞信局長、鐵道局長及專賣局長歳入科目ノ新設ヲ要スルトキハ財務局長ハ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十四條ノ二　前二條ノ場合ニ於テ科目ノ新設ヲ爲サムトスルトキハ財務局長ハ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ請求之ヲ決行スヘシ

スヘシ但シ朝鮮總督ニ委任セラレタルモノニ在リテハ之ヲ決行スヘシ

第三十五條　豫算增額申請書ハ第四號書式ニ依ルヘシ豫算增額申請ノ場合ニ於テ目ノ新設ヲ必要トスルトキハ豫算申請書ニ其ノ旨ヲ附記シ豫算科目新設申請書ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十八條　會計年度開始前現金ノ支出ヲ要スルトキハ支出官ハ之ヲ本府ニ請求スヘシ

財務局長前項ノ請求ニ依リ必要ト認メタルトキハ計算書ヲ作リ所管大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十九條　財務局長ハ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ計算書ヲ調製シ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

財務局長第二豫備金ノ支出ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ要求書ヲ調製シ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十九條ノ二　支出官ハ補充費途ニ屬スル經費經理ノ實績ヲ調査シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ本府ニ報告スヘシ

第四十三條　支出官ハ第八號書式ノ決算報告書ヲ作リ翌年度六月十五日迄ニ本府ニ提出スヘシ

第四十五條　財務局長ハ歳入歳出決定計算書作成ニ必要ナル書類ヲ調製シ所管大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十九條　第百八條ノ規定ハ現金前渡官吏ヲ置キタル各廳ノ長及森林事業ニ關スル工事ノ請負ニ限リ農林局長ニ之ヲ準用ス

第二號書式

昭和　年度經常（臨時）部豫算各目流用申請書　（△印ハ朱書）

科目	豫算額	支拂濟額	豫算殘額	將來所要額	流用增減額	事由
款						
項						
目						
何何	一〇〇〇〇〇圓	五〇〇〇〇圓	五〇〇〇〇圓	一〇〇〇〇圓	△四〇〇〇〇圓	何何ニ依リ剩餘ヲ生ス
何何	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	四〇〇〇〇	六〇〇〇〇	二〇〇〇〇	何何ニ依リ何費ヨリ
何何	八〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇	二〇〇〇〇	何何ニ依リ何費ヨリ

右申請候也

第五編　會計　第二章　歳入歳出

年　月　日

官　氏　名印

政務總監宛

備考

一　本書ハ一款毎ニ別葉ニ記載スルコト

二　會計規則第三十九條ニ依リ指定セラレタル費途ニ就テハ目以下ヲモ記載スルコト

三　事由ハ詳細ニ記載スルコト

第三號書式

昭和　年度歳入(歳出)經常(臨時)部豫算科目新設申請書

款	項	新設目	事由

右申請候也

年　月　日

官　氏　名印

政務總監宛

備考　事由ハ詳細ニ記載スルコト

第四號書式

昭和　年度何廳經費豫算增額申請書

科目	豫算額	支拂濟額	差引豫算殘額	將來所要額	要求增額
經常(臨時)部	圓	圓	圓	圓	圓
款					
項					
目					
目					

事由

(一)

(二)

(三)

右申請候也

年　月　日

官　氏　名印

政務總監宛

記載例

一　本書ハ一款毎ニ別葉ニ認ムヘシ

二　將來所要額ニ對シテハ内譯明細書、仕樣設計書、圖面ヲ添附スヘシ

第八號書式

昭和　年度經費決算報告書

科目	豫算額	流用增減額（減ハ朱書）	豫算現額	小切手振出濟額	不用額	備考
歳出經常（臨時）部	圓	圓	圓	圓	圓	
何何（款）						
何何（項）						
何何（目）						不用額ヲ生シタル事由ヲ詳記スヘシ
何何（項）						
何何（目）						目ニ於ケル流用增減ハ何費ヘ流用セシニ由ル

右ノ通ニ候地

年　月　日

支出官　官　氏　名　印

政務總監　寛

備考　本書ハ一款毎ニ別葉ニ調製スヘシ

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月局訓令第一八號改正大正十一年三月局訓令第六號）

第二章　豫算決算

第七條　各支局長及本局ノ各課長ハ次年度歳入歳出ニ關スル新規計畫及既定事項ノ改廢竝之ニ伴フ收支ノ說明書ヲ作リ且募集及鹽藥ニ關スルモノハ其ノ前年度豫算ニ比較シ增減アルモノハ其ノ事由及算出ノ基礎ヲ示シタル調書ヲ添ヘ四月十五日迄ニ本局長ニ提出スヘシ

各所長ハ前項ニ準シ四月十五日迄ニ所屬ノ支局長ニ提出スヘシ

第八條　各支局長ニ於テ各所ニ配付シタル歳出豫算算出ノ根據ハ之ヲ明確ナラシメ其ノ資料ト共ニ關係書類ニ添附シ置クヘシ

第九條　庶務課長以外ノ各課長ハ新年度歳出豫算使用計劃書ノ資料トシテ事業上必要ナル物件、經費及主管事務ニ關シ必要ナル事項ヲ調査シ四月一日迄ニ所屬各局ノ庶務課長ニ送付スヘシ

第十條　歳出豫算ノ使用計畫書ハ簡明ヲ主トシ事實ニ適切ナラシメ事業ノ伸縮消長ニ伴ヒ既定計畫ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ都度之ヲ更正スヘシ

第十一條　歳出豫算ノ推算ハ内譯ニ依リ、其ノ内譯ナキモノハ目ニ依リ之ヲ整理スヘシ

第十二條　本府會計事務章程第三十三條、第三十五條及第四十九條ノ二ニ依リ各支局長及各所長歳出豫算ノ增額又ハ豫算各目ノ流用ヲ申請セムトスルトキハ其ノ算出ノ根據ヲ明ニシ且當該科目ニ内譯アルモノハ其ノ内譯全部ニ渉リ申請書ノ書式ニ準シ各内譯別ニ金額ヲ摘記シタル明細表ヲ添附スヘシ但シ豫算配賦ノ際豫メ增額申請ヲ認メラレタルモノニ付テハ明細表ノ添附ヲ要セス

第十三條　各支局長歳出豫算内譯ノ流用ヲ要スルトキハ本府會計事務章程第一號書式ニ準シ本局長ニ申請スヘシ但シ特ニ委任セラレタル内譯ノ流用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス各所長前項ノ場合ニ該當スルトキハ所屬ノ支局長ニ申請ス